

湯浅兼道筆『源氏物語聞録』「桐壺」解題・翻刻

解題

『源氏物語聞録』（明治大学図書館蔵）は、二〇〇四年度文部科学省学術フロンティア推進事業「日本古代文化における文字・画像・伝承と宗教の総合的研究」の経費で購入した資料である。『国書総目録』にも記載がなく、内容から見て他に伝本があるとも思われぬが、明和七年（一七七〇）の奥書があり、江戸期の源氏物語の享受の実態を知る資料として興味深く有益であると思うので、以下に翻刻して紹介したい。

本書の概略について、わかった範囲で記す。

表紙は藍色、五冊九帖、「桐壺」巻までを収める。第一冊「桐壺」「簾木」、第二冊「空蟬」「夕顔」、第三冊「若紫」「末摘花」、第四冊「紅葉賀」「花宴」、第五冊「葵」である。表紙には題僉を付すが、文字は明瞭ではない。第一紙に「源氏物語聞録」とあり、これが書名である。「葵」巻末に次のような奥書があり、那波魯堂の源氏物語についての講釈を湯浅兼道が筆記したものと考えられる。第一冊の始めには講義の開始年月日が「寛保元年九月十八日夜」と記され、以下「簾木」巻が十月十七日、「空蟬」巻が十二月七日、「夕顔」巻が翌寛保二年正月廿一日、「若紫」巻が三月六日、「末摘花」巻が五月六日、「紅葉賀」巻が六月十一日、「花宴」巻が九月朔日、「葵」巻が十一月朔日と記される。

奥書は次の通りである。

第五冊【六十二ウ】

先君故修理大夫与<sub>ニ</sub>南冥院殿<sub>ニ</sub>隔<sub>レ</sub>年  
述<sub>ニ</sub>職于東武<sub>ニ</sub>時徴<sub>ニ</sub>得中堂原安適<sub>者</sub>聞<sub>ニ</sub>  
和歌者流<sub>之</sub>書<sub>ニ</sub>歸<sub>レ</sub>阿日亦令<sub>レ</sub>從<sub>レ</sub>駕翁來<sub>ニ</sub>  
于茲<sub>ニ</sub>二次我師那和先生就<sub>ニ</sub>其旅寓<sub>ニ</sub>聽<sub>ニ</sub>此  
物語<sub>ニ</sub>從<sub>レ</sub>初至<sub>ニ</sub>葵卷<sub>ニ</sub>大凡九帖翁曰此書  
洪漢大率通<sub>ニ</sub>此九帖<sub>ニ</sub>則全編之积例可<sub>ニ</sub>  
以準知<sub>ニ</sub>矣余再侍<sub>ニ</sub>華山那和君<sub>ニ</sub>受<sub>ニ</sub>其  
傳<sub>ニ</sub>毫<sub>不</sub>漏脱<sub>ニ</sub>而筆記且併記<sub>（ノキ）</sub>壺井義  
知所<sub>レ</sub>考之官職私考<sub>ニ</sub>以授<sub>ニ</sub>子孫<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>告出<sub>ニ</sub>  
於窓外<sub>ニ</sub>云 明和七庚寅年二月朔旦

【六十三才】

娥眉湯浅兼道記

日向一雅  
湯浅幸代  
木下綾子

貼紙

南冥院殿

南冥院操山廉節

蜂須賀綱矩（阿波）

「南冥院殿」は阿波徳島藩五代藩主、蜂須賀綱矩（一六六一〜一七二八）。「先君故修理大夫」は綱矩の子の吉武（一六九二〜一七二五）かと思われる。一七〇六年に十五歳で修理大夫に任じられた。歌は中院家に学び、『木葉集』を残す（注1）。原安適は歌人で山本春正、清水宗川に師事し、木下長嘯子系の江戸歌人中屈指の存在といわれ、晩年には綱矩に仕えた。享保初年（一七一六）ころ没したかと言われる（注2）。前半の文章は綱矩、吉武父子が江戸詰めになった時、原安適を徴して和歌の流派の書物について講義を受け、のちに安適を徳島に召したということであろう。ここまでの記述と「二次」以下の記述との関係がよくわからない。

次の那和先生、華山那和君は那波魯堂（一七二七〜一七八九）かと思われる。魯堂ははじめ大阪で岡龍州の門下で古文辞学を学び、のちに朱子学に転じた。京都で私塾を営み、一時聖護院門跡誉法親王の侍講となった。一七八八年、五十二歳で徳島藩の藩儒となり、十一代藩主治昭の侍講を勤めた（注3）。湯浅兼道は不詳。湯浅姓では本居大平に師事した湯浅可樹、儒者として子弟の教育に当った湯浅翠越（銃卒）（注4）、文人で医業の湯浅兼尚（注5）などの名があるが、系譜等はわからない。

「我師那和先生就其旅寓」聴此物語以下は、概略次のようである。湯浅兼道が師の那和先生の「旅寓」を訪ねて源氏物語の講義を聞いた。桐壺巻から葵巻までの九帖である。そのとき那和先生は源氏物語は洪漠としているが、概ねは初めの桐壺巻から葵巻までの九帖に通じれば、全編それに準じて

理解できると話した。これがいつの時のことかはわからない。その後、湯浅兼道は再び那和魯堂の講義を受けて、漏らすことなく筆記した。併せて壺井義知の官職私考を記載して子孫に授けた。この書は門外不出であると。

明和七年（一七七〇）は十一代藩主、治昭の時代である。那波魯堂は治昭に招かれて、一七八八年に藩儒となったので、明和七年はまだ魯堂は徳島には来ていない。湯浅兼道が最初に魯堂の講義を聞いた「旅寓」は京都であったのであろうか。「再侍華山那和君受其」というのは、どこでのことなのか、徳島に着任以前であるから京都でのことか、あるいは藩儒になる前に徳島に招かれたことがあったのか。「其傳毫不漏脱而筆記」というのは、単に興味を持ったので正確な記録を残したというようなものではあるまい。もう少し公的な性格があったのではなからうか。藩主や藩士が源氏物語について知っておく必要があり、その役を湯浅兼道が引き受けて魯堂の講義を正確に筆録したのではなからうか。根拠を示せない推測であるが、この文章から2はそのような何らかの公的な要請に基づくところがあったように考えられる。

『聞録』の内容は儒者らしく儒教的な言説と公家の儀式や制度的な問題についての言及が目立つ。こうした傾向は本居宣長などの国学者の注釈とは大きく異なる点であり、武士階級の関心の所在を示すものではないかと思われる。そうした点は熊澤蕃山の『源氏外伝』と似ていると言えよう。江戸時代の源氏物語享受の動向を知る上で有益な資料と考える所以である。

今回の翻刻は桐壺巻だけの紹介であるが、簞木巻以降は次号に載せる。

注

1 福井久蔵『諸大名の学術と文芸の研究（下巻・文芸編）』原書房、昭和五十一年（原本昭和十二年刊）。

2 『日本古典文学大辞典』岩波書店。

- 3 『徳島市史』四巻・教育編・文化編、平成五年。10頁。
- 4 3に同じ。642、678頁。
- 5 『日本詩選續編作者姓名』安永八年版（版本）。

(日向)

## 凡例

一、底本は明治大学中央図書館蔵の湯浅兼道筆『源氏物語聞録』（中央貴重書庫092.475/E）を用いた。

一、本文は原態に忠実であることを旨としたが、次のような操作を加えた。

## 1 異体字は通行の字体に改めた。

昼↓書 寸↓時 畧↓略 虽↓雖 難↓難

麤↓麤 牢↓牢 槩↓概 媿↓愧 と↓遺

なお、「桐壺」三十一オ・ウ「鈴虫」の意の「蛉虫」は、原態のままとした。

## 2 合字は分割して翻刻した。

㇗↓ヨリ メ↓シテ・シタ ㇗↓コト

## 3 漢字に付された濁点は（ゝ）で表した。

4 振り仮名などの傍記は、右側のものを（ゝ）、左側のものを（ゝ）で括った。なお、「桐壺」四十四オ「儲（ゝ）／＼」と「儲（一一）」は、

発音記号かと思われる。

5 本文に傍記されている日付は（ゝ）で括った。なお丁数が一緒に記されている場合も同様に表記した。

6 送り仮名は標準の文字サイズに改めた。ただし、返り点付きの漢字においては、文字サイズを小さいままとした。

7 割り注は「」で括り、文字サイズを標準の大きさに改めた。なお、割り注内の改行は／で表した。

一、反復記号は、ゞ々／＼など、原態に近い形で翻刻した。また、

濁点の付されたヲドリ字は／＼（ゝ）で表した。

一、堅点の表記は右側のものを「以\*後」（二ウ）、左側のものを「清原」（二ウ）のように表した。

一、見せ消ち・書き損じ等は、該当本文に二重抹消線を付し、傍書された訂

正文字を（ゝ）で括った。

一、抹消は●で表した。

一、挿入記号は◇で表し、挿入文を（ゝ）で括った。

一、二文字以上の空白は「空白」で表した。

一、和歌の開始記号は「で表した。

一、頭注は（ゝ）で括り、各丁の本文の後に記した。なお、丁をまたぐものは、開始丁にまとめて掲載した。

一、付箋の本文は「付箋」と記した後に翻刻した。

一、図は「図（番号）」と表し、図版を別掲した。

※作業は以下のとおり担当した。

（翻刻）湯浅 （校正）木下 （修正）日向

（写真撮影）湯浅 （画像加工）木下

なお、二〇一六年度に、湯浅と関恭平（明治大学大学院博士後期課程・RA）で再修正を施した。

## 翻刻

【一才】  
源氏物語聞録「桐壺一／箒木二」

【一ウ】

【二才】

源氏物語（ゲイジモノガタリ）「寛保元年九月十八夜始／假名物ニテハゲイトヤハラカニヨム也」

此書ハ紫式部力作也作ハ説々アル也先名ハ光（ヒカル）姓ハ源氏ト云人ノ一生ノコト書シヨ也本光ト云人ナケレドモ莊子ガ偶言ニ倣一部ノ書ニ仕立也本ノ名ハ光源氏物語也古ハ源氏物語ヲ、ヒ故ソレワケル為ニ光源氏物語ト云トモ此源氏物語別シテ宜出来外ノ源氏物語ハイツナフナルトモ無ナフナリ今デハ光源氏物語ノミアル故惟源氏物語ト云ハ光源氏物語ト云ニ及又也光源氏トハ先此卷ニ桐壺トアル桐壺ハ御殿ノ名ナレドモ此卷ハ桐壺ノ更衣トテ女官也ソレガ源氏の母也其人ノコト書故ニ桐壺卷ト云是故天子ノ御名モ桐壺帝ト云延喜帝ニ模スレトモ桐壺帝ト云也ソノ桐壺帝ノ御子ニ源氏の姓被下テ臣下ニナサル人ノコトヲ書立タ者也惣シテ源氏ト云姓ハ嵯峨天皇ニ初ル古ハ天子ノ御子ニ姓被下ニサマ／＼アル橘

（○源氏ゲヘト聞ヘルヤウニヨム也）

（○母ハドコニテモハアト聞エルヤウニヨム也）

【二ウ】

或清原或多治比（タチビ）或在原（ハラ）ト云ヤウニサマ／＼ノ姓被下宮様臣下ニナサレタレドモ嵯峨天皇ノ御時初テ源氏ノ姓ヲマコト公始トシテ八人男女三十人ニ被下トアル是源氏ノ姓被下初也源ハ水ノミナモト也水ノ源ハ谷水少流出ヤウナレドモ大河ニナルミン江ノ源ハ觴ヲウカヘソノ末ハ舟楫ニアラサレハ渡ラレズト云ヤウ也又古語ニ小水九河ノ源（ト）トナル意トツテ末ホド繁昌スル祝義ニテ被下也此意ヨキ故嵯峨天皇以<sup>\*</sup>後姓被下ニ皆源氏ニナリシ也ソノ後平氏（、）モ稀々アリ餘姓モアレドモ多ハ源氏也源氏モ嵯峨源氏宇多源氏村上源氏花山源氏「白川花山ナリ」順徳院源氏後三条院源氏三條院源氏ナトアル一字名ハ皆嵯峨也今デモ流布シテ宇多嵯峨アリ村上清和ナト繁昌シテアル也餘ノ源氏ハ惟今ハ聞又也唐デモ天子カラ姓被下是ハ御子ニ限ラス他姓ニモ被下日本ト同コト也生ニヨリテ姓賜トアル凡姓ハ土地ニヨリ或ハ由

（○姓氏祿ニハ八人ノ名書出アリ花鳥ニハ三十餘人トアル何レヨイヤ不知）

（○光孝天皇ノ孫ニ平兼盛アリ父ニ平氏被下故兼盛平氏也）

（○生ニヨリテ姓ヲ賜フコト左傳ノ隱公八年ニ出正義ニ委也）

【三才】

縁来歴ニヨリ被下也ソノ家繁昌スル時ニソノ子孫ニ至リ家別レテ始テ家ヲオコス人アル時ニ被下ヲ氏（ウジ）ト云姓ハソノ家ニ萬代カハラシ者也氏（ウシ）ハイクツニモ別レル也堂上ニ藤姓アルニ皆藤原氏ト書レル也又家々ニ称号アル是氏（ウジ）也近衛蕭（鷹）・司一条二条清・水・谷武者小路皆氏也モトハ藤原或ハ源也氏ハソノ家中興シ家ワカレル時ハ氏ト云モトハ源氏ニシテ武田足利木（新）・田ト別レルハ家ヲオコス故也官位ヲ書名ヲ書時ハ新田テモ

足利テモ源姓ト書モノ也新田足利ト書者ニ非ズ是位署書(キシヨガキ)ノ法也天子ノ被<sub>レ</sub>下ガ此通也諸侯ノ被<sub>レ</sub>下コトアル姓ヲ被<sub>レ</sub>下コトナヒ也諸侯被<sub>レ</sub>下ハ其兄弟ノ列ニヨリ孟伯仲叔季ト云嫡子ハ孟伯次ノ男ハ仲三男ハ叔ト云ヤウ也ソレヲ氏(ウシ)ニ被<sub>レ</sub>下也孟孫氏叔孫氏季孫氏ト云類アチデハ字(アザナ)ト云字ヲ姓ニスルコト也族トモ云也此デ一族ト云也分レハ氏(ウヂ)合シテハ族ト云也属ノ字ト同コト也ト左傳正義ニモミユ氏(ウチ)ヲ被<sub>レ</sub>下ヲ

(○武田ハ清和足利新田ミナ同公家衆モ中院近衛トカ、ス姓バカリ書也)

(○伯仲叔季伯ハ無モノ也伯孟同者也姓ノ時ハ孟也仲ト云姓モナヒ者也親ハ諸侯ノ公子也コレヲ字ニスソノ子孫是ヲ姓ニス族ヲ賜姓ニスルコトアリ族姓アル也官ヲ被<sub>レ</sub>下姓ニスルアリ司馬氏ナト也司馬ハ武官也馬ノコトニ非ス武ヲ司ル官也)

### 【三ウ】

賜<sub>レ</sub>族ト左傳ニアル也天子諸侯トモ被<sub>レ</sub>下コトアルソレニ準シテ日本デモ天子ノヲ子ニ姓被<sub>レ</sub>下臣下ニスルコト也物語方源氏物語ユヘ抄物ノ名皆源ノエン也萬水一露ト云アリ萬水ガ一露カラ生スル意也水源・鴻(ミン)江・孟津・細流皆源ノ字ノ心ニヨリ抄ノ名ニ付コト也凡書ヲ講スル例題号ヲ云テ倭作者ヲ云也此作者ハ紫式部也紫式部ハ大初冠ノ末藤原氏也閑院ノ左大臣冬嗣(ツグ)ヨリ第六代ニ當越前ノ守為時ノ女也夫ハ太(一)貳ノブタカ(宣孝)ト云人也早フヤモメニナルトミュ此源氏物語書モヤモメノ後トミュ年ノホド三十アマリニ作ト見ユ紫日記(ニキ)トテ紫式部ノ長保(ホウ)寛弘ノ間ノコト禁中ノギヲ記録シテ紙百四五十丁ホトアル◇(長保)寛弘ハ一条院ノ時ノ年号也ソノ時源氏物語アリソノ時節ミドウ(御堂)ノ関白ハ上東門院ノヲヤゴ一条院ノ外戚也此時四十三四デ紫式部ニ戀慕シテエンジヨナト遣コトアルソレ

程フルキ人トミエズ又若

(○萬水一露ハ連歌師ノ作者也本ハ湖月ヨリ五割モ多也今用又也千萬ノ水モ一露ト云意也)

### 【四オ】

テ出来ル書ニ非スソノ時源氏物語ノヲ前ニアルヲ見テレンボスト見ユ又紫ノ卷ヲ能書ユヘ若紫ノ名ヲ付左衛門ノカミヨブト紫ノ日記ニアル御灌(堂)殿戀慕ノ時也サレハ三十一二ノ時ニ出来ルト見ユ此作ニヨリ説アル女ノコト故是程ノコト出来マシ父ノ為時作<sub>レ</sub>之碩細ナコトヲ紫式部ニ書ストモ又御道殿ノ加筆トモ云サニ非ス御灌(堂)殿奥(ヲク)・書トテ河(一)海抄ニ引ハ世ニ源氏物語ヲ紫式部作トノミ思ガソフデ無老比丘筆ヲ加ル也老◇(比)丘ハ自身ノコト也法鉢也四十三ノ時源氏物語出来ヲ見レンホスル也御堂殿法体ハ五十四也源氏出来十四五年後也ハ河海ノ誤ト見ユ或末ノ宇治十帖(一)ハ大貳ノ三位(ミ)「紫式部娘也」書トモ云非也文上手故手カハルヤウニ書カヘタ者也源氏帝王ヨ代年数七十ヨ年也代カハレバ文勢モカハルヤウニ書也十帖ノ文カヘテ書ガ紫式部大手筆也態ト書也大貳ノ三位ノ書ニ非ス古ノ大学匠清輔

(○四十三ニ當ルコト日記ニ見ユ此時ハ後家ニテ宮仕シテアル也レンホノ時不<sub>レ</sub>順一夜部屋テ扣コトアリ)

### 【四ウ】

ヤ順徳院皆紫式部一筆ニ書ニ一決シテアル也父カ書コマカナコト女ニ書ストテ貫透シタ文体也是綱是目ト云別レ見エヌ也父書ソフナ処是女書ソフナ処

ト義見エス又筆ソフト云モアシヒ也先源氏ト云人ヲ天下第一ノ美男ニシテサ  
テ諸藝通達ノ人仁愛ノ人ニシ天子ノ御子也繁華ナ人ニシテ好色ヲ以書立文体  
ハ偶言也元ナヒコトヲ書也文体ノツ、キ桐壺ノ卷ミレバ桐壺ノ帝ノ本紀宇治  
十帖ハ八条ノ宮ノ世家竹河（一）紅梅ノ卷ハ竹河紅梅ノ大臣ノ列傳玉カヅラ  
ハ玉カヅラノ列傳ト史記ヲ文体ニ心當カク也卷ノ数モ六十卷ト立トモ六十卷  
ハ無也五十四（ヨ）帖也ハ雲隱ノ卷ト云アル源氏薨去ノ卷也並（ナラビ）  
ノ卷五卷ソヘ六卷也ソノ書処ハ五十四帖ナレトモ六十卷ト立ハ法華ノ三大部  
ニ模シテ書也天台ノ玄義文句（一）止觀三十卷ニ妙樂ノ釈籤（セン）・疏（シ  
ヨ）記・弘決（クケツ）三十卷ソヘ六十卷トシテ書也五十四

## 【五オ】

帖ヲツ、メテハ二十八卷法華二十八品ニ擬シテ書也是後ニツクルニ非ス初ヨ  
リコフ書也帚木モ法華也中ニ品定アル是ニ婦人ノ評バンヲ書是法華ノ法（ホ  
ツ）比因也初ハ法体（ホツタイ）マクシキニ説コト也中比ヒユヲ説末ニ因縁  
デ書初ハマツスク也中ハタトヘ也末ハ各ノ身ニアルコト也法華ニ模シテ莊子  
ノ寓言ニ倣ヒ史記ノ文体ヲ立ナカノモヤウハ法華ニ模スル処段々多也第一好  
色デ説也ソフシテ書ニナゼニ好色デ書モチツトシヤウアラント難スル人アリ  
ソレハ人ノ好ニヨリ是ハミヤウニヨル是好色ト雖人ニヨリミヤウ違コトアル  
ベキ也易ニ説<sup>レ</sup>道以<sup>テ</sup>内事<sup>ヲ</sup>ト云コトアル道ヲ説ニ閨門内證カラ説ト云也詩  
經ミヨ周南召南ノ正ヒ詩アリ又鄭衛ノ淫風モ載也必仁義礼智ヲセヨト説ニ非  
ス勸善懲惡也善ス、ムルモ教也惡ヲコラスモ教也コフスレバ世間ヘ露見スル  
身ニ災アルト惡カラ教ヘルモ教也好色デ

（○五十四帖ノ中ニ并ノ卷アリテ廿八帖ニナル也）

（○易ノ繫辭ニ出歟）

## 【五ウ】

モドチカラデモ入易ヤウニ教タ者也源氏ノ説ヤウ人情本ニシテ人ノ情ノ教ヘ  
易処ヨリ教タ者也平生体デモ心ニ兆スコトアルニ口ニモ云ズワザニモ顯レネ  
ドモ脇カラ見ニアノ人ハ心ニ含ミアルトミエル又アノ人ハコフシテコト思付  
ソフナコフシテ陰謀企ト見ユカクレタルヨリアラハル、ハナシ也内ニ思惟シ  
テ面ヘ出ントコソ思ヘ脇ヘロケンスル程ニ口ヘ出行席ヘ出テ人ノ識ウケ身ノ  
災ウケル也人ノ内<sup>\*</sup>処ハダカニシテ中ニ一心ノ兆カクスコト無閨門ノ中カラ  
裸ニシテ閨門ノ中カラ教也源氏一部ノ教情ヲ以教ヘルコト故ソレトモ好色ノ  
ミナラズ君臣父子朋友夫婦兄弟ノ交菩提ノコトテモ此物語ニ残スコトナイ也  
好色<sup>甫</sup>（表）ニスルハ懲惡也サマ／＼ノコトアレドモ閨門ノ事ナレドモ識ウ  
ケ人知り身ノ災ニナル程ニト教タ也源氏モ好色ニヨリ須磨ノ流罪アリソノ外  
カクス閨門ノコトテモ人詳ニシル程ニソノキサシヲ抑ヘミザル処キカザル処  
ヲ慎メノ

## 【六オ】

教也慎<sup>レ</sup>獨ノ教也梨壺ハ源氏ノマ、母玉蔓ハ源氏ノマ、女メ也養子（ゴ）也  
サマ／＼放埒アルソノ兆ヲ抑ヘルヤウニト云教也ソフタイ源氏ノ説ヤウナン  
デモ善惡々々ト二ツ、ナラベル勸善懲惡ノ意也葵ノ引入レノ左大臣ハ善人弘  
徽殿ノ親ニ条ノ右大臣ハヨフナヒ人相並天下輔佐ス善惡並書作法也凡書物一  
部デ字眼アルコト也詩經ナレハ思無<sup>レ</sup>邪カ詩經ノ◇（骨）髓<sup>廿</sup>也書經テハ欽（ツ  
、シム）ノ字書經ノホネ也礼ヲ云ハ不<sup>レ</sup>敬ト云コトナシヤ礼記ノ骨也法華ナレ  
バ妙ノ字諸方実相也骨ノミツケ処コシラヘネバナラズ源氏ハ情也吾身ツメリ  
人ノイタサヲシルカラ教ヘル誠ハ天道天デ云ハ誠人デ云ハ忠恕也忠恕ハ人  
ニ及スナレバ吾身ツメリ人ノイタサヲ知也己カ欲セサル処人ニ加ルコト勿レ

也忠恕ノ字アテ、ミレハ忠恕ハ情也情ハナサケト訓スナサケハ人アハレム也忠恕ハ人レンミンスル也情ハマコトトモ訓ズルハ誠ハ

## 【六ウ】

天ノ道也ワザヲ云バ忠恕ノ恕也恕ハ情也性情（一）ト云ハ天ノ命スルハ性人デ云ハ喜怒哀樂愛惡欲ノ情ナレドモ日本デハナサケト訓ズ人レンミンスルヲ云也ニホンノナサケト云心デ此書カキ立タ者也忠恕ノ恕ノ己ヲシテ人ニ及スコト勿レノ心本ニシテ書也情ト云者ハ性カラ出者也性ノ働ガ情也皆天カラ命シテ情ナレドモ亡情ハクセ付タガル也道心惟微二人ノ心コレ色ト書経ニ出也人ノ心ハ情也人ノ心ハ肉身ナレバ寒暑（イ）ヒダルイシルハ人ノ心也ミフンハ寒イヒタルイ知ネハナラヌ也ソノ亡情ハ天カラ命シテ生者ナレトモ是ニクセ出来タガルハ寒イト云ニ木綿ヨリハ絹ト云ハ人ノ心色也飢レハ腹ニ足レハヨヒニ精進物アシヒソ思類ト云ハ人ノ心色也ソノ情ノクセ付タガルヲ直ガ教也ソコ教ヘル為ノコト也吾身ツメリ人ノイタサヲシルガ人ヲシヘルノ道也人ヲ愛スルモ我身ヲシテ行ネバ愛ナラヌ也情ヲ説テ因果ノコトモ專説也

## 【七オ】

源氏ノ藤壺ニ密通シテ子出来ソノ報（ムクヒ）テ源氏ノ奥方へ人通シテ子出来コトヲ記ス因果歴然ノ道理ヲ書也ナニモアマサズモラサス書ナリ偕此物語ノ出来シサイハ時ハ一条院ノ時紫式部ハ上東門院ニ仕テアルニソノ時分ニ大（オホ）齋院トテ賀茂ノ齋院五代ノ天子ノ齋院アルニ上東門院ヘナンゾ珍シキ物語ハナシヤト所望也アリフレルウツホ（ヲ）竹取ハアノ方ニモアランナニゾ珍シキヲトアルニトテ上東門院ヨリ仰セ付アルサレハ式部草子成就ノ為ニ石山ヘコモル時八月十五夜也湖水ヘ月ウツルヲ視テ趣向ウカヒ須磨明石ヲ書ト河海ノ説也ソフデナシ須磨明石ノ巻ヲ書アトヘ書モトルニ非ズ須磨明

石ハサカヘタ源氏衰ヘ須磨ヘ流サルコト書也世間ノ盛衰書ント思ガ本也是湖水ヘ月ノ移ヲ見テ盛衰書ント思付也繁昌ナコト衰ヘ流罪ニ逢ヌアトヘ帰参ノコト書ント

（○大齋院ハ上東門院ノ為ニハ何ソヤ曰何ニテモナシ大齋院ハ王ノ子也上東ハ藤原氏也王ノ后故御一家也モト縁ナキ也恒按大齋院ノコト詳湖月抄発端五丁ウ）

## 【七ウ】

思フ趣向也拵立能書ノ行成（コウゼイ）ヘ清書（一）頼ミ大齋院ヘ遣ト云コト也古ヘニハ本ノ不同アル異本サマ／＼也河内（カハチ）本ニハ奥書ニ以ニハ本ニ校合<sup>ハ</sup>是捨<sup>シテ</sup>為<sup>ス</sup>ニ家本トアル源氏物語ハイロヲ以校合シテ正ストアレハイロ／＼ノ本アルト見ユアルハズ也紫式部一筆デサヘサマ／＼アルニ三通七モアル也傳写ノ誤アリ大部ナルモノ故吟味ノ違アリ落字落丁アルハ是本不同アルベキ也今用処ハ青（アヲ）表紙トテ定家校合ノ本也正（セフ）本ニスルコト也古ヘカラアル本ヲ惟今ハ用ヌ也定家ノ多本考ヘ誤ヲ正スカ今日用ル源氏物語也青表紙ト云是也父俊成ノトハヤ違也定家ノ書正キ故父ノ本デモ違様ナ者也偕湖水ニ泛ブ月ヲ見盛衰ノ趣向思ヒ付モ根アルコト也カノ延喜ノ御子ニ西ノ宮ノ左大臣高明公ト云アル難アリテ大宰（ダザイ）ノ権ノ帥（ソツ）ニシタルヲ式部ニ傷ム折節草子作ルヤウニト仰セアル是心

## 【八オ】

ニ思テアル故盛衰ノコト思ヒ須磨明石ノコト思ヒ付也此物語ノ光源氏ト云光ト云名ノコト本文ノ中ニ光ト云名ハコヰ（マ）ウドノメテ聞エテ付奉ルトア

ル高麗人來テ器量ヨキ故光ル君ト付トモ世ノ人付ルトモ云光ハ諱（イミナ）也嵯峨源氏ハ皆一字名也ソノ類也古ヘ光ト云アル仁明（ニンミヤウ）天皇ノ御子西三條ノ右大臣光（ヒカル）ト云アル是フマヘ書也又美男第一也美男ニヨリ光ト付ハ廣幡ノ右大臣藤原ノ重光（シゲミツ）ト云アル天下無双ノ美男也光ノ名ヲ以ヒカル小將ト云コトアルソレヲ取テ美男ニヨリ世ノ人光ト云ト書ト見ユ又諸藝通達ノ人ニシテアル諸藝通達ノミヤサマハ嵯峨ノヲ子源ノ信（マコト）公一世ノ源氏諸藝通達ノ人也是心ニ持書也桐壺帝ヲ延喜ニ比シ其次ノ朱雀院ハ延喜ノ次ノ朱雀帝也其次ノ冷泉ハ村上帝也延喜カラ四代ノ間ノ事記ス帝王四代七十餘年ノ事記也紫ノ傳記書殘ス故紫式部ト云トイヘトモ本父藤原故藤式部トメシタ

（○渡部ノ綱ナトサガケン氏也）

（○一世ノ源氏事廿三丁ウ源氏ニナシ奉ル処ニ記）

（○湖月抄九丁ヲ引ニ明星抄曰帝王四代年記七十余年の興廢を今眼前に見るがごとく記せり）

### 【八ウ】

也上東門院ノ下ニ式部ト云人多アル也泉式部小式部ノ類也ソレニ紛レン為藤式部ト召シテ也時ニ藤式部ノ名アマレ優艶ニナヒトテ藤ハ紫色ナモノ故紫式部ト云ト也一説ハ上東門院ハ一條院（院）ノ御后也紫式部ハ一條院ノヲメノトノ子也一條院トハ乳兄弟也故一條院カラ上東門院ヘ進セラル、時我ユカリノ者也アレヲカケ仕タレヨトアルユカリトアルニ付紫式部ト付ル也紫ニハユカリガ縁ノ詞也「紫ノ一モトユヘニ武◇（藏）野ノ草ハミナガラアハレトソミルト云フルイ哥アル紫ニハユカリノ縁アル故紫花ヲユカリノ色トモ哥ニヨム也是二説也又一説ハ此若紫ノ卷其ウルハシフ書故紫式部ト云ト是正（セ

フ）説也紫式部ノ書紫日記ノ寛弘四五年ノ間ノ処ニ左衛門督云給あなかしこ此わたりに若紫や侍とうかゝひ給ふ源氏に似るへき人も見え給はぬにかのうへはいかて物し給ひけん」と聞ひたり紫上ノ事能書故ニ紫（藤）式部ヲ紫式部

### 【九オ】

ト召此ニモ若紫ヤルト尋也答ニ此アタリニ源氏ニ似ル人無ニナニノ紫上ハヲラヌハズソト云也紫上ハ源氏ノ奥様ナリ若紫ヨヒ立ハ源氏ニ似ル人アツテコソト云事也然レハ源氏ノ若紫ノ卷能カク故紫式部ト云ガ正説ソフ也

### ○桐壺

此卷ヲ桐壺ト云事也此卷ノ文中ニ御局（ミツホネ）は桐壺なりと云詞アル桐壺ハ御殿ノ名也源氏ト云人ノ母此ツボネナリ其桐壺ニヨル源氏ノ母ゴノコトヲ此卷ニハ專書立ル故桐壺卷ト名付ナリ御局ハ桐壺ナリト云カラ桐壺の更衣ト云ソレニヨリ此天子ヲ桐壺帝ト云也此卷ニハ源氏ノ誕生カラ十二歳迄ノ間ノ事書次ニオトナニナリ給テト云詞アル十二ヨリ後ハ此詞ヨリ外無也次ノ卷十六歳ノ事也オトナニナリ給テハ十三四五也ソレハ事無故カ、

### 【九ウ】

ス人ノ傳（）ヲカクモ事ニヨリ大事ノ事ハ記シソフ無ハ書ヌ様也十六歳ヨリ箒木卷ニ記シテアル也此卷一名壺前栽（ツボセンサイ）ト●云●●中ノ文ニ御前の壺前栽のさかりなるとアル文ニ據テ一名ツボセンザイトモ云也先世間流布ノ名ガ桐壺也壺前栽ハ異説也此卷ハ源氏物語デノ序文也源氏ノ母君ノ事カラ書源氏生カラ元服迄書十六歳カラ書立ガ次ノ箒木也此卷ハ源氏一部ノ序文ニ見箒木カラヲ本文ニミルナリ

○いづれの御時にか・女御更衣あまたさふらひ給けるなかに・先ニ云通先此物語ハ延喜ノ帝ニ心アテ、書也モトヨリ偶言（グフゲン）ノ事故源氏ト云人



モ無也先延喜ノ帝ト心當故ニソレナレドモ偶言故延喜ヨリ先ノ事モ後ノ事モアル也指附又故ニイヅレノ御時ニカト書ヒロフカク為也伊勢ノ家集ニいつれの御時にか有けんおほみやす所と聞る御局に大和

## 【一〇オ】

に親ある人さふらひけりとアル是ハ歌ヨミノ伊勢也ノシノ哥集ナル為ノ序也ノシガ身卑下シテイツレノ◇(御)時ニカ有ケント書其文取用テ源氏ニモいづれの御時にかト書トモ心格別ニ用カヘルアチハ身卑下也是ハ延喜ト云テハ違故前後自由ニ書ン為ニイツレノ御時ニカト書也伊勢ガ文ヲ取用テ心ハ換骨シテカヘタ也女御モ更衣モ先ハ女官也カラニモ女御兼兼ト云官アルカラハ日本ノト違カラハ周禮ニ一妃三夫人九嬪廿七世婦八十一女御トアル女御ハズンド末也アチテモ九嬪カラ上ハヨイ也廿七世婦八十一女御ハ卑コト也日本ノ女御ト云ハ后ニツク事也更衣夜ノ事モ引クルメ云也引クルメ更衣ノ事モ女御ノ列ニ云ヘドモ更衣ヨリ女御ニ上ル女御ハ二位三位也無位モアルソレヨリ后也今五摂家ノヒメ宮禁裏ヘ入内モ女御入内トテ女御ニナリテソレカラ后ニナル也后ハ后宮( )中宮( )也アノ方ハ后三夫人トテ三人ノ夫人九人ノ嬪アルソレヨリ世婦女御アル

〔○女御入内ノ時女御ト云テ上レトモ位ナイ也是スクナヒ者也〕

## 【一〇ウ】

早イ者也アチテハ后ヨリ女御迄百二十人マワリノ二月二十五日ニードマワリニ勤也后ハ御一人故一日アタル其餘ヒトリシテ勤ハ四月ブリテナケレハナラヌ也此事前漢書ノ外戚傳ニアリ本周礼ニ出可考日本ノ女御ハ后ノ次ニテ追付后ニナル也アノ方ノ女御トハ違也更衣ハ其下也三位四位也アノ方ニハ無官

也アチデハ天子久坐スレバ立テ衣更ルトアル是ハ大便ニ往事也大便ニ往時ハ天子ノ事故衣服召カヘル也其時其バヘ往取カヘル女アルソレハ更衣ト云官ハナイ也漢書ノ衛皇后傳ニ帝起テ更レ衣子夫侍ニ尚衣ト云アルアチデハ官テ無也漢ノ高祖鴻門ノ會ノ時高祖起テ更レ衣トアル其中ヘ女人往ニ非也日本ノ更衣ハ大便ニ非ス衣裳ノ事司ル衣裳裁縫スル事司ル更衣ト云官アル中納言大納言ノ女上ル四位五位也女御更衣キヤウニミヤヅカヘシテアル時分也女ノ大勢アル中ニ也イトハキツウ也ヤンゴトナキハ

〔○岷江入楚曰大唐ニテ后ハ天子夫人ハ公卿嬪ハ九卿世婦ハ廿七大夫女御ハ八十一元子ノ位也〕

〔○源氏男女官職私考曰女御の号ハ雄略天皇七年吉備ノ上道稚媛(カンツミチノワカヒメ)を取給ひて女御となし給ふに初れり其後久しく給たりしを桓武天皇以来復女御を置給ひしにや又曰女御は内裏のみに限らず院中并東宮にも有もとより正妃にあらされは一員に限らず〕

## 【一一オ】

上品ノ人也惣体貴人ノミ恒出事ハ止又也一言( )心ニカフセント思召ハ不レ止ゼフジウスル故貴人ノ事ヲヤンゴトナヒト云也コレ本大臣杯ノ女御デハナケレトモ也ギハトハ分際也至極ノバ処デハナケレトモ也上臈ノ品デナケレドモ女御更衣ノアマタノ中(ナカ)デスグレテ時メク也時メクハ時ニアフ也桐壺ノ更衣源氏ウム人也初ヨリ我ハト思ヒアガリ給へる御かたノとハ更衣ヨリハ先達テ上リミヤツカフル人也我ハ更衣ヨリ先ヘ上リ親ハアレヨリハ大臣ノ女ジヤニト心高フ思也アノ様ナトノ字ハ我ハアノ更衣ヨリスグレル者ジヤニトトノ間ニ大分心アル也初ヨリ我ハト云テハ聞エヌ也餘意残ル也アノ様ナトハ皆心餘テアル也弘徽殿ノ女御ノ類桐壺ノ更衣トハリアフ也麗景殿(レイケ

フ、ノ女御ノ類也メザマシキトハ目スザマシト書キツト目ニ角立ニラム意也オトシメソネミ給トハ心ニ見下シテニクイヤツト思ヒソネミ嫉妬スル也同シ程―是三段ニ書也初メヨリ

（○又曰更衣は女御の次にして其品一段劣れり凡四位五位の人の女なり或は公卿の女もあり更衣の初は嵯峨大上帝の御時に初る歟続日本後紀三代実録に更衣の人多く見えたり或曰更衣は主上の御衣をめしかへ給ふ所の寄処にて御息所といふと一物二名と聞也）

## 【一ウ】

我ハト思ヒアガリ給へるトハ大臣達ノ女ハ雲上ナレトモソレモ嫉妬デソネミ又同程トハ更衣ト同格也父ハ大納言中納言ノ類也大臣ヨリ一等下ナリソレヨリ下臆ハ宮内卿大藏卿ノ類ノ内侍ノスケノ類奉公シテ寵愛ヲ蒙ル人也マシテガ字眼也貴人ハモノエンジシネタムヲモロヘモ出サズ処作ニモ出サヌ也ソレスラネタム也ソレヨリ下ザマノ人ハマシテ安カラズ思也朝夕御前（ゴセン）デ御奉公スルモ先刻召ル、ガ又召ル、カト朝夕ノミヤツカヘニ付テモ朋輩達遺恨アルナリ朋輩衆ノシツトノ心ヲ動シツトノ怨ヲ負也ウラミヲ負モ抄ニ引哥引アル也「あしかれと思はぬ山の峯にだにをふなる物を人のなけきは是ハ此時分ノ哥也大和物語ニモ出歟ト思也此へ引ハアシケレトモ引テ聞ヘル為ニ引ソウ也コンナ処へ引ハ此へソノ詞取用ト云デナケレバ引ヌハズ也先ニ取付フト思ネドモ思ヒ出シテドコトモナフサハリトナル也アツシクハ病也アツイハ熱也一切ノ病氣熱ナヒ事ナヒ者也熱アル心也朋輩トハ中アシクノシハ病氣付故ニ心細也物ハ付字ナリ

## 【二オ】

自然ニ御奉公ツトマラン故ニ里へ行テアル間御奉公ヨリ多也イヨ／＼御前

御奉公（ジメシテ）サへ御出頭◇（ノコト）故アカレヌ也マシテ里ガチ故アキタラヌ也天子ノアカズ思召也里ガチニナル故ニ弥コヒシタヒ給也人ノ―ゼフジフ近フ召仕ル、也日々御前（ゴセン）へツメル日数ノ割アルナレドモソレカモハズ也世ノ―ハカノ三代亡様ニ紂ガ姐己（ダツキ）ヲ愛シ周ノ幽王ノホウジ愛スル末ニモ桐壺ノ帝ノ御好色デ世亡ト末ノ世ノハルイ例ニモナル様ニ也カシタチメ―閨門ノ事ナレバ人知ラヌハズ也カシタチメハ公卿（クダフ）也ウヘ人ハ殿上人也女ノシツトヨリ云サハクカラ表ノ評ハンニナル様也アヒナクハ不相應ノキミ也合ノ心也平生ノ人ナレバケフアレトモ不相応ニスル也メヲソバメツ、ハナガシメニシテミルカタハラノ心也イトマバユキハ日ニ向フ心也アチニ威勢アル故ニ目見合サレヌ意也キツトエ向ヒ見ヌ也アチニ◇（キツト）イセイアルハ目目ミ合セハ譏ル意デ見ルカトヲトガメアランカトヲソル、也唐ニモ―女中カラ上人（）迄出ヤフ／＼後ニハ京国中天下へモ流布スル様ニナルト漸々ノ次第ヲ見ルベキ事也

（○私考曰上達部（カシタチメ）ハ公卿ヲイヘリタトへハ相当四位ノ官ヲ帯スル人成トモ其時三位已上ナルハ上達部也参議ハ四位ト雖又同シ）  
（○アイナクハフツガウ也愛ト云ハ非也音ニテ訓ヲ説事百二一也少ナヒ事也）  
（○私考曰ウヘ人トハ殿上人也四位五位ノ昇殿ユリタルヲ云院殿上人東宮殿上人即其所／＼の昇殿をゆる也）

## 【二ウ】

唐（カラ）デモ姐己ヲ愛シ褒姒（）ヲ愛スル類アルニト云テヨノ取沙汰スル也ヲコリハカフシタ事カラ起ルトカウシテ奢ト両説也天下へモ聞エル様ニナル也アジキナフハ氣ノ毒ニナル也人ノモテナヤミグサハ人ノ云グサニナリドコヘイテモカシコヘイテモ其事云也楊貴妃―カウシテ好色ニヨリ安祿山

出テ天下奪事アルト云事モ云出ソフニナル此ニ楊貴妃ノ事書ハ此卷ハ長恨歌  
 デ書故ニ此楊貴妃ノ事出ス也其様ニアメノ下ニモアジキナフ楊貴妃ノタメシ  
 迄世間カラ云立ル故ニ也ハシタナキハ不相応ナ事也上人初メ女官達ハ猶也ア  
 イシライアシイ也弱者ニ強フアタルヲハシタナキト云也ハシタナ也弱者ニ  
 ハ弱ク強者ニハ強クアタレバ連属シタ也弱者ニツヨフアタルハハシタ也キハ  
 付字也ハシタナ也此様ニハルウアタレドモ勿体ナイ天子ノ御(ミ)心バヘヲ  
 頼ニシテ中惡ヒ朋輩トモニマジラフテアル也天子ノ御(ヲ)恵力ラニシテ交  
 リアル也父の—更衣ノミヤツカヘニ出又中ニ死タ人也是モ先ニ出ナリ是ハ

(○私考曰大納言の号は天武天皇の御宇はしまる大政官には大臣を長官(カ  
 ミ)とし納言を次官(スケ)とし少納言辨を判官(セウ)とし外記史を主典  
 (サクハン)とす)

## 【一三才】

ゼフナゴントヨムヨミクセ也伊勢物語抄ノ季吟抄ニ大納言ヨミクセ口傳トア  
 ルソレアシイ也外ニ源氏ニ出モカフハヨマヌ也マシテ伊勢物語ニテ猶也是大  
 (一)ナゴントヨミテハカタサニ和テゼフナゴントヨム也後ハ皆大(一)ナ  
 ゴントヨム最初ユヘニゼフナゴントヨム者トシラス(タメ)ニヨム也是ヨ  
 ミクセノ口傳也母ハ北堂也男子ハ南ニ向女ナハ奥デ北也母ハ大納言ノ後室也  
 古人デ古ヘノ事モ能合点シテ◇(フルイ)婦人也大政大臣ノ女ト系図ニモア  
 ル大政大臣ノ女ニテ大納言ニ嫁シテ親モトノ福ユフ歴々ノ人ノ女故ヨイ事モ  
 知ル也此人フルイ人デ事ノヨリ知ル人故ニト句切也親ウチ—其外ノ朋輩達  
 ノ両親具足シテアル人也サシアタリテハ當時ノ事也両親アリテ當官ノ人ハ花  
 ヤカ也何デモ調フ人也是ハ朋輩衆ニモヲトラズ何事デモ後室ノ心一ツデ外ノ  
 人ニマケヌ様ニシテ御奉公サシテ也是ニ文ノ習アリ古ヘノ人ノヨシアルニテ

親ウチグシトハ云レヌ也句切ト抄ニシテアルナル程句ヲ切也中(ナカ)ニ親  
 (○私考曰北の方とは女性は陰にして北に配偶するか殿に然へき人の室家を  
 北の方といふよし也)

## 【一三ウ】

ウチグシト云ハ隔句也アノ句ノケルニ非ス何事モ両親具シタ人ニヲトラヌ也  
 ◇(古今春)梅カ枝ニキキル鶯春カケテ啼トモイマタ雪ハフリツ、ノ哥ノ様  
 也梅カ枝ニキキル鶯ナケトモ也春カケテノ字ハサムカ隔句也春カケテノケテ  
 ハ聞エヌ也句ノツ、キハ梅カ枝ニキキル鶯ナケトモトツゞク也此モ古ヘノ人  
 ノヨシアルニテ親ウチグシトハツゞカヌ也ヨシアルニテ御カタノニモオト  
 ラズトツゞケル也是ガ源氏ノ見様也カフ云処心付ネハ源氏聞エヌ也トリタテ  
 、—是哀也カイセフアル故ニ世間ノ人ニヲトラヌ様ニスレドモモトヨリ女ワ  
 ザ也キツトシタ親ナイ也ソレカラ外一家モ無也後見スル人無故ニナンゾト云  
 大キヒ事ニヨリ女ナワザデイカヌ事アル也キツトシタウシロ見ナヒ故ニ談合  
 ナラヌ也天子ノ御寵愛故ニ会事ハドフテモナレドモ人ノ入ル時ニナントモナ  
 ラヌ也ソレ程ニハスレドモナラドフモナラヌ也先ノ世—只今御出頭デゴテフ  
 アイ也先ノ世ニモ御契ヤ深カリケン世ニモ又トタグヒノナイキヨラノラハ助  
 字也キヨラカナル也玉ハ称美也玉ノ様ナミコナリ

## 【一四才】

ウツクシイミコ也ヲトコノ宮孫生レル是源氏也抄ニ玉ノ才命ニモ見ルト云ソ  
 レハ外ノ事也コレハ玉ノオノコミコト云ノミ也天子ノミコウムハ里ヘ往外戚  
 方デウム事也忌ケガライアル故召ン也イミアク時ハ召ス日数立ライツ日数立  
 参内スルト思召スモト御寵愛故ニ也イソキ—急ギ参内被仰付宮コランナサ

ル也メヅラシイ世ニハナヒ様ナチコノヲ形也天子ノミコウムハ十二歳迄外戚  
テソ立其後ヲ心ニ入ハ禁中ニ召ヲソバニヲク事アル又人ソヘ脇ニヲク事アル  
イツトルト云法ナイ也一ノ御子ハ今生レル源氏ノアニゴ也弘徽殿ノ女御ノウ  
メル也弘キテンノ女御ハ右大臣ノ女ニテ弘キ殿ニコザル也禁裏ノハ二番目デ  
モ三番目デモ親御ノ思召ヨリニテ御位ニ即也是ハ外戚重敷(上ニ)第一バン  
ノ御子故疑ヒナキ東宮ト云也ヨセ重ハ外戚ノ縁方レキノ、デ重也河海ニ二説  
アリ一説ハエン也一説ハウカムリニ寄也是

〔○私考曰右大臣の号は孝徳天皇の御宇はしまる其職掌令條にのせて左大臣  
に同じ〕

#### 【一四ウ】

モステラレヌ也論語泰伯曾子曰可<sub>三</sub>以託<sub>二</sub>六尺之孤<sub>一</sub>可<sub>三</sub>以寄<sub>二</sub>(ヨス)ニ百里之命  
トアリヨセカケ◇(テ)ヲク心也何ヲ以テイテヨセカケテモタジロカヌアブ  
ナウナヒ也ソレヲヨセオモクト云也マウケノ君トハマチマフケノキミ也天子  
ノヲカハリニナル君也東宮ノ事也モテハ助字也カシヅキハイツキカシヅキ疑  
ナフ東宮ニナルトテ世間カラタツハイスル也此ハ此タヒ出生被成タ源氏ノ宮  
也匂ハ生付ノウルハシイ也光ナドアル体也顔(カホ)ノウルヲヒアルテイ也  
香(カ)バカリニ非ス日ノ匂ヒ月ノ匂ヒモホンノリトシタヲ云也源氏ノ事ヲ  
此御句上下云モウツクシフニホヤカニ見エルヲ云ナンポーノ宮デモ源氏ノ匂  
ヒニハ並ヒナキ也正之別勘曰万葉ニ朝日影匂ヘル山ニテル月ノトモ又紅ニ  
匂ヘル山ノトヨミソレヨリ古今春ノ部ニハ両ニ匂ヘル色トヨミ其後頓阿ノ朝  
日影匂ヘル山トヨム皆薰ルギニ非スニホヤカナル義也

〔○諸侯ノ子モ儲君ト云也〕

〔○此聞ユハ助字歟正今按云コトヲ聞ユト云此モソノ通也〕

#### 【一五オ】

但新千歳春定家ノ「木の本は日数ばかりを匂にて花も残らぬ春の古里幽斎府  
右曰此匂ハカサリの儀也日数バカリカザリニ成タル也是ハ別義也湖月抄引細  
流ノ説岷江ノ趣同レ之異意不<sub>三</sub>肯信用<sub>一</sub>オホ方ノトハ一宮ヲ東宮ニナルト云  
トモ大体ニシテ天子ノヲキ玉フ也是ハ右大臣腹トシテノケ置也御思ヒトハ天  
子ノ思召入レ也此君トハ源氏ノ君ヲ内証者ニシテ天子ノトツトキニシテ置  
也此亦隔匂顛倒也一ノミコハヨリカシヅキ聞エレド迄ツゞキソレヨリ大方ノ  
トツゞケ見也ナカノ此御句ト云ヨリ下ハノケ置テアトデ入レ見ル也一ノミ子  
ハ右大臣ノ女御の御ハラニテヨセ重ク儲ノ君トイヘトモ天子ノ大体者ニシテ  
ノケヲクソレハナゼナレバ此御句ニハトアトカラカヘリ見ル是隔匂也顛倒也  
○此君ヲハ一是ハ源氏ノ母更衣ノ事也初一ハアマリ天子ノ御テフ愛

〔九月廿二日第二坐〕

#### 【一五ウ】

故ヲソバ近召使ハシ内侍ノスケ様ノカルイ人々同前ニ仕也ヲ薬ヲ上ルノ御服  
スヘルノヲグシ上ル類ノ奉公ガ内侍ノ助也是ウヘ宮ヅカヘ也更衣ハ大納言ノ  
女也内侍ノ助ヨリ一等高シテ四位故ヲ薬ノ給仕ノ御服スヘヲグシ上ケル様ナ  
事セヌ也是ハ説アレトモ先抄ノ通ヲ立也内侍ノ助様ニスル格式デハナケレド  
モキハハ分際也本ヨリ大納言ノ子デ人ノ思ヒヨリ処イトヤンゴトナヒ也イト  
ハ下タヘ云詞ニカラ入レルキツウノキミ也止事ナヒハ貴人ノ事也上ヅメカシ  
ハ上臆シキスゼウ也ワリナクハ平生ナニ事モヲハナレ不被成去カタウヲ仕也  
ワリナクハ割事ナラヌ也ドフモナラヌト云処ヘ使也親フナサレル也ヲソバ近

御(ゴ)前デヲ仕被成也サルベキハキツトシテ大キヒ事也クハゲンノ哥ノ御會ノ類面立事也何事デモ一切ノ事ノユヘハ由所アル古来カラ例アル事也ウヘニハオリノト云下ニハフシノト云折節ト云事也先ノ外ノ更衣ハヲキ源氏ノ母ノ更衣ヲ

## 【一六オ】

先マウノホラス也モウノホルハ参内スル事也アチヨリ召故コチヨリ参内スルナリアル時朝ヒタケルユヘ下モヘヨリルハズラスグニ其日御(ニ)前ニアル也朝ハ部屋ヘヨリ身拵シナドスルハズナレトモ御テフ愛ノ餘リオホトノゴモリナサル也ヤガテハ俗ニ覺トハ違也追附ノ事ヲ云ドモソフデナシ其儘也スグニ也西行ノ哥ニ「吉野山ヤカテ出ジト思フ身ヲ花チリナバト人ヤ云ランヨシノ山ヘ往イツイデント思フニト云事也ソノ儘ヤリ通ニシテヲルト云事也アナガチハ強デ也自一納言ノ女故ヲシナベテノ内侍ノ助ハ五位也ソレ程ニハナケレドモ内侍ノ助同前ニミブンヲシ軽フハ見エレドモ此源氏ノ御(ミ)子生レテ後ハ格別ニ前カドヨリコトニ一段高フヲキテヲ立天子ノ思召ヨリニキツト立也モ一説ハ先程云ハ通例ノ説也初ヨリ一先程云ハ内侍ノ助同前ニスル人ニハ非スヨイ衆ソト云事也一説ハ上宮仕ハ女御以上ヲ云也先ニ証據モアル後涼殿(コウロウデン)ニモトヨリサフラヒ給フ更衣ノ曹(ニ)子ヲ外ニ移サセ給テウヘ局ニタマハス其恨マシテヤランカタナシト◇(アリ後ロフテンノ上局ト共也)云ヤ目ノ付処也上局ハ

○ヲキテハ掟也心ニ掟ヲ立テル也其心ニテヨム也

○此後説何レノ説ソ曰師説也先是ニ從也上宮ツカヘノ字様後説ヨイ也

## 【一六ウ】

女御以上ノ后ノ藤壺ナドノ部屋ノ持テアル此更衣桐壺持様ニ各局ヲ持テアル也参内シテヲ側ヘ往ニヲ部屋近也弘徽殿ケレドモ近ト云テ道ノ二十間三十分間アリ半町モアル也藤壺ハ一町モアルマ遠故天子ノ常住コザルハ清涼殿也其中ヲ屏風シ切ニシテウヘツホネト云テ被下也是ヲモラウ人ハ弘徽殿敷藤壺敷也弘徽殿藤壺ニナルハセヒトモヲ后也ソコニコザル人デナケレバモラハヌ也更衣ハ一段ヒクヒ故ソノ上局モラウ事ナラネドモ◇(也)初ヨリ上局モラウ格式デナヒト云事也大臣ノヲ女ノ様ニ清涼殿ノカタワキデ上局モラウ人デナイ也覺一アマレ天子ノモテナシ上臈メカシイヲモテナシ也前ノ説ハ生付高ケレドモ早フ仕ヘル也是ハヒクケレドモ上臈メキ仕ト云事也サルベキミ遊一マウノボラセタマフ是迄カハル事ナイ也或時ニハ一是又違也初ノハ部屋ヘヨリルハズナレドモ餘リ名ゴリヲシミ朝モ日タケル迄ギヨシンナリヲ側ニヲクト云事ナレトモ一説ハ此ハヨ后デナケレバナヒ事也部屋ノヘ往也ヲ后ハ清涼殿ノカタワキヲ衣裳使箱ヘ入レ櫛道具様持ユキ直ニ

## 【一七オ】

参内ナルコト也更衣ハナラヌ事ナレトモ更衣不相応ナ事スル也前ノ説ハ見エシヲ也此説ハ見エジヲ也カロフハ見エヌニマシテ源氏ノ御(ミ)子生テハ弥心コトニ思召也坊一自(ヲ)カロフモ見エヌヲ此御子生レテハ弥大切ニ思召ニヨリ坊ニモナリ玉ハンカト思也坊トハ東宮坊トテ春宮コザル処ヲ坊ト云也春宮ノ役人カ、ル処ヲ東宮職(シキ)ト云也春宮ノ事ハ東ト書也役人ハ春ト書ハルニ正フトウノ音ナケレドモソレニカ、ル役人ノ事ヲ東ニ準シテハルト書トウトヨム也坊官ノ除目(ジモク)ト云事アル是出家ノ事ト思ドモソフデナイ也東宮職ノ役人ノジモク也ヨウセスハトハ今云ハルウシタレハト云ウラカラ云也キタマフハ居(キヨ)ノ字ノ心也一ノミコノ女御ハ兄ゴ朱雀院ヲウ

ム后弘徽殿ト云是也更衣トハナカアシイ也最初ヨリノボリ右大臣ノ女也桐壺ノ更衣トモ源氏トモナカアシイ也一ノミ子ノ女御トハ一ノ御子ウム更衣ト云事也人ヨリ先ニトハ最初ニ入内シテ一ノ宮モウム故ニ也マイリハ参内也止事ナキハレキノ女メ故也天子ノ思召モナミノ

（○私考曰坊トハ春宮坊ノコトニシテ本式春宮大夫以下ノ宮司政事ヲ行フ処ヲ坊ト云然トモ又儲君ノ御事ヲモ坊トモイヘルニヤソレ皇太子ノオハシマス宮ハ東宮也傳学士ノ人ハ東宮ニアリ大夫以下ハ春宮坊ニアリテ事ヲ行ハル仍傳学士等ニハ東ノ字ヲ用ヒ大夫以下ニハ春ノ字ヲ用ル事唐朝已来ノ例ナリ又春ノ字ヲ東ノ音ニ假借（セ）ルハ本朝ノナラヒニシテカヤウノ類多シ又東宮春字ノ号ハ持統天皇ノ御宇ニ初レリ

## 【一七ウ】

ナラヌ也御子達ナントモオハシマセハトハ一ノ御子女一ノ御子女三ノ御子様イカイ事アル也此御方ノ一第一バンニ上リ外戚方ハヨク御子ハウミ玉ヘトモ更衣ニヲボレル様ノ事ノ諫ヲ云也御テフ愛ナガラメンドウナト思也煩シイハヲノシノ心ニワツラハシイ也心苦ハ更衣源氏様ノ心グルシイ也カシコキ一是ハ更衣ノ事也カシコキハ辱ヲソレ多天子ノミ影頼也天子ノミカゲ頼トハイヘトモ云ヲトシナントシ下サゲニ云ヲトシテ疵一ハコウシテフラチアルトサマノ云也吹毛求疵ノ詞ヲ用也嫉妬ノ相手ハ大勢也我身ハ一人也カヨハクハヨハイ事也カハ付字也此物語ニカヨハクノカヤスク（ノ）トアルカハ付字也タゞヨハイ事ヲカヨハクト云也中ノハ却テ也天子ノ御テフ愛ナケレバニクマル事ナヒモノ思モナヒ也天子ノ御テフ愛故ニカウシタ思ヒアル也御局ハ一此更衣ノヲ局ハ桐局ト云也局（ツボ）ハ殿ヨリ小サイ也殿ハ弘徽殿ハ七間四面ヲモテノ清涼殿ハ九間四面也桐壺藤壺ハ五間四面也ソレ故桐壺ニ居ハヨ

フ無弘キ殿ニ居ハイツデモヨイ也桐壺ハ天子ノ御

（○御諫ハ諫天子ニ欺曰諫言也后ノ威ヨリ云イサメ也

（○吹毛求疵ハ如何曰獸ニテモ毛アル故シタノ疵ミエヌ故ニ毛ヲ吹テ疵ヲ求也センサクスル也私覺ハ晋書ニ造ニアルト覺エタリ前後漢ニハ不覺俗ニハスマイ事ニ手ヲ出スコトニ覺タリ非ナリスマイ事シテシソコナフ事ニ非ス

## 【一八オ】

居間ヨリ一町モアルウシトラニ當ルナカハルイ殿（）々ノ前通也センヨウ殿様ノ前ヲ通也ヒマナキ一朝モ召晩モ召天子モヲ出ナサル様也ワタルハ前ヲアチヘ行コチヘ往事也前ワタリハ旧イ詞也伊勢ニモアルカト思也人ノ御心一此人ハケンクハ相手ノ弘キ殿レイケフ殿ノ類也サマノ心ヲ尽シテ立腹スルモ尤事ト云是ラ面白也ハタカラモ道理付ルモ是ハアマレナ事ジヤト云也マフノホリ一彼参内ヒタモノナサル時ハアマリ節（セツ）々頻々（シキリノ）ヲ升ノ時ハ也内ハシ一コチヲノ御殿ヨリアチヲノ御殿ヘツイワタルハシノ様也ウチニ心ナイ也惟ハシ也家ノ内ニスル也是ハ御殿ノ内也カドニカケル橋モ打ハシワタシト哥ニヨムチヨツトシタハシ也ワタ殿ハキツトシタロウ也ソノ時分ノロフナレバ幅二間三間モアル廣也アヤシキ一ハ糞土ノ様ナモノヲキ或ハ針ナドヲ出シテ置不浄ナモノツク様ニシキヌノスソカ、ル様ニスルフクハイナ事スル也天子カラ更衣召時ニ部屋カラ迎ニ往女中也又者ハ上（カミ）ニナル処ナク帰ル也又迎ニコヒト云バ往也付テイテヲ

（○私考曰御局トハ曹子（ザウシ）ナリ假令内侍司（ツカサ）藏ノ司書（フシ）ノ司葉ノ司兵ノ司闈（ミカド）ノ司殿（トノモリ）ノ司掃（カモリ）ノ司水（モトリ）ノ司膳（カシワデ）ノ司酒ノ司縫（ヌヒ）ノ司以上女官ノ

十二司俗二十二ノ局ト云凡局ト云モノ皆宮室ノ左右ニアル別屋ナリト和訓ツホネトハツホキネヤノ心ニヤ又桐壺ハ淑景(シケイ)舎ノ別名ナリ宸居ヨリ東北ニアタレリ)

【一八ウ】

ラヌ也キヌハ衣也コタヘラレヌ程ノ難義ナ事アル也正ナヒハ正ダイナヒ事也又―其様ナ事アリ又アル時ハドフモ脇道ヘ去(サリ)テ往事ナラヌ道也メドウハ馬道ト書白馬(ウ)ノ節會ノ時二道ニヲクト云ドモソウデナイ也廊下ニ似タ椽也メ道ハキリメ通(ドウ)也板チヨツノト打バ目(メ)アル故ニ云也ソフナケレハ熊坂ノ謡ニコノ馬道カシコノ馬道ト云ソコニ白馬ノ節會ナヒハヅ也是ヲ引ニ非ス云バソレ也心ヲ合スハ云合ス也難義スル様ニスル也ハシタナメハ不相応ナ事也ソフスマイ事スル也ヨハイ者ニツヨフアタル様也ソフシテ更衣デナヒニアタル◇(ヲ云)也オホナリハヲ、クアル也クハツママリカニナルスルガナルハスルガニアル也ニアナニ切ル也コレモクハノ切カニナル也コトニフレ―事々物々ニフレテサマノ事出来也イト―左様ニアルハ皆更衣ノ難義ナ事故ニイト◇(イタウハ)ハキツウ也イトハ下ヘカラ入也イロウハキツウ也イト◇(ウ)キツウト重ネテ云様也下地サヘ不ビンニ思召ニ此様ニ人々難義サス故イト、不ビンマス也◇(イト、ハ)イトノト云事也イト、云ヲ猶フカフ云タメ也

〈○打ハ助字也ツイナゲワタシタ橋也コノモ内ニ非ス打也ワタドノハワタリドノ也〉

〈○モトヨリアルヲ白馬ノ節會ノ時ニコレアゲ馬ヲ通スト云是非也古抄ニ源氏ノ抄ニドレニモアル説也非也是ハ切メドウ也此ノ椽也枝ノ切目アル也(凶一)如此是ナリ)〉

〈私考曰メタウハ馬道ナリ是本殿ニムカウノ道ナリ和名抄道路類篇辨色立成云馬道「俗音米多宇」向レ堂之道也)〉

【一九オ】

御覽ジテハゴラウジテトヨム也左様二道ノ難義アル故ニ後涼殿―也後涼殿ハ天子イツモゴザル清涼殿ノ後(ウシロ)也清涼殿ノウシロト云事也コウレウデンナレドモコウロウテントヨムヨミクセ也是天子ノヲ側ヘ近故ニ也同シ格式ナ部屋也ザウシハ局ノ事也前カドカラヲル更衣ヲ脇ヘヤリ桐壺ノ更衣ニ被レ下也ウヘ局ニタマハスト是前ニ云処是也初メヨリヲシナヘテノ上宮仕シタマフヘキキハニアアラザリシヲ更衣ノ曹子ヲ外ニウツサセ玉ヒテ上局ニ被レ下故常ニ此ニ在テ衣裳キ更髪ユヒナドスル也禁秘抄ニ弘キ殿藤壺ヨリ外ニハ上ヘ局被レ下事無トアル也ソレニ今被レ下也下地ノ上ニマシテ其恨ヤル事ナイ也更衣ノ上ヨリ外ヘヤル処ナイ也此御子―此御子即源氏ノ御子也三歳ニナル時袴着也三歳ニ限ラスイツデモ抄ニ河(カ)海アケレドモアレニ限ラズ此ニ三故ニ其例アゲル也此物語ニ玉カツラハ二十歳トアル也赤石ノ姫君ハ三歳トアル限ラヌ也一ノ宮ハ弘キ殿ウム宮也ヨイ衆キルヲ下カラハ奉ルト云也コノ先

〈○弘徽殿藤壺并アル也)〉

〈○私考曰御ハカマハサシヌキニアラズ又着袴ノ事必三歳ニ限ラサルナリ)〉

【一九ウ】

ニモ源氏ノ元服ニヲ、ンゾ奉ルト云モキルコト也伊勢ニ君ガミケシト奉リケルト(ト)アル也キル事也下カラ奉テキル故是モ一ノ宮ノ通ニキル也クラ司ハヲクラ也クラノカミ助丞左官ツイテ天子ノ金銀珠玉御服類ヲ入レルナイソウリヤウト書也オサメドノモ他国ヨリ献ズル大事ノ天子ノ御(ゴ)物入ヲク

クラ也清涼殿ノ内ニヲク天子ノゴ用物入也ソレヨリ取出也ソノ事ニカ、ル役人ニハソレ出シテ下サル、也一ノ宮ハカウ東宮ナリナサルハカウ親王宣下アルハカウ宮ハカウト定アル兄ゴハ親王ノ宣下アル也弟ゴハ宮也ソレヲ一ノ宮ノ奉リシニヲトラヌハ是源氏各別ニホンソウニスル也是ヲ弘徽殿ノ怨ノモト也オホカレドハ多クアレド也クハデカニナル也此御子ハ源氏也ヲヨスケハヲトナシウナル也ヲヨスケノ訓ノモトシレニクイ也万葉ノ詞ナレドモ訓ハ知レヌ也及ト助ト書也サ心バヘ世間ニアリニクウ珍也ソシリ多テ天子ノ事ハルウ云更衣ニクメドモ源氏ノ形ウルハシフヲ心ヨイ故エソシリハサ（夕）サヌノ心也敢（カン）ノ字ノ心也モノ、前後弁ヘタ老人様ヨクモノ

（○奉ルハ献上ノ事也下ヨリ奉テキル故歟曰キル事ヲ奉ルト云也）

（○私考曰藏司ハ内藏寮也是履中天皇ノ御宇ニ始ルオサメ殿ハ累代ノ御物ヲ納ル処ニシテ宣陽殿ニアリ藏人頭已下雑色出納小舎人等是ヲ司ル）

## 【二〇オ】

知ル人カウシタ人モ世ニ生レ出ル者カ容儀ハ玉ノ如クヲ心ハタグヒナヒト見ユアサマシキ―源氏ニアサマシノ詞多シ処ニヨリカハルト見エレドモ本浅イノ訓也モノ、ハカナヒニ用也是モ余リ御生付スグレル故御短命ニハアルマイカ物ノ見入アルマイ歟ト思也其年ノ―ハ袴着ニ対シテ此御子三ニナリ玉フトシ―ヲ承テ其年ト云也モノヨハウニドコトモナフ物ノクニナルト云様ニナル也マカンテナムハマカリ出ル也イトマ中々下サレヌ也年比御持病ノ様ニナツテアル也アツシサハ此中云通也天子見ナレテアル御メ―ミナレテ也マミムメモデ五音通ズミナレテ也平生ノ事ナリ猶シハラク見合ヨカラント作ラル、也ソフ云中ニ重ル也五日六日ノ間急ニ病也母君―直ニヲイトマ申トモ下サレヌ故母君直ニ云也マカンテトイヘドモ此デハ出ヌ也此ハヲイトマ出故ニ引ク

ルメ云ノミ也罷出ハ先ニアル也カ、ル―カウシテヲイトマ出ドモサマ／＼ノハサ（子）ナトアランカ御子御同道シテハハツトケウサン也ネタミアルヘキ故ニ源氏ハ禁中ニヲキ

（○私考曰御息所は更衣の別名にして一物二名と聞也）

## 【二〇ウ】

無人ニテイツ出ヤウ知レヌ様ニシテ出也限―禁中デ死ヌル事ナラヌ也死ヌルヲ見ントシテモソフハナラヌ也御覽―天子ノヲクル事ナラヌ也云ベイ方ナヒ様ニ思召也イト句―是カラ更衣ノテイ天子ノ見ル也ホンノリトシテ生付也アレハカナシヒ也天子ノヲ側ハナル、ガ悲ト思也ト云事詞ニハエ出サヌ也心一ツニ思テアル也ナゼナレバアルカナキカニ消入ツ、病氣重リ引入ル様ナ故也モノニ心ナヒ也シスルカ生カ様ナルヲ也キシ方ハ今迄ノ事行末ハ是カラ先ノ事也前後忘却也万―快氣セバ早く参内セヨヤ若モノ事アラハ一蓮托生ソトサマ／＼ヲ契也マミハ目也アケタリ閉タリスル也イト、―平生サヘ柔カ也イトミナヨ／＼スル也ワレカ―衰フ故はハ我カドウゾト思也イカサマ―天子ノ御動顛ノ心也テクルマノ―云ハソトノ門ヲ左衛門（サエモン）ノ陣右衛門（エモン）ノ陣ト云ソトノ門也ソレヨリ左兵衛（サヘウエ）右兵衛（ヘウエ）ノ陣ハ一段高也中ノ重（重）ト云也車ニ乗ナカラ宮中出入ハ大臣宿老也又貴僧高僧ノ七十八ニナリ行歩

（○マミハ目ヲ二ツ重テ云也曰兼（シカ）リ皆目也マミアイト云ハ目ノ間ナリ）

（○タユ兼（ケ）ハ俗ニ云ダユキ歟曰然リヨミ聞アシキ故ニスムナリ）

（○御門〔図二二〕）



## 【二一〇】

カナハヌ時ニ下サル、也更衣平生下サル、類ナイ也是重(チウ)病也御寵愛故也手デヒク車也センジナレドモセヘトヨムヨミクセ也又部屋へ入テハエヲ離ナサレヌ也限一死事也死ヌルニ極タ道デモヲクレ先達ス相互ニ死バ同クト契テアルニ我ヲエ打ステ、ハ行マイト被仰也天子ノ御ナケキノ余也女モ一更衣モ也・ミジハイマノシイ也モト忌(イム)カラ云也天子ニ付テハ氣ノ毒我身ニ付テハ悲也グフサンニ云ハイミジフト云也「限トテ一今寿命限又禁中ニナル事ナラヌ故是限ノバヲ罷出也天子ノ御愁嘆ヲ見悲也イキタイ者ハ命ノト也是面白也誰デモ死ダレニ望(ノソミ)テ婦人デモ生タイト云者ナイ也是ハ公界也天子ノ御出ノバ故人々多付ソフテアル場デ生タイト云ハ婦人デモミレン也是ハ命惜デ云ニ非ス是ハ忠也天子ノヲナゲキ強故也我身ノ事ニ非スマレヲ悼(ナケキ)強故天子ノヲ為ニイカマシイ也天子ノ御命モ如何也忠義ニ生タイ也イトカク

〔二一〇〕  
 (○七丁ウ抄頭延喜式ニ限ニ曹司一ハ曹司迄ノリ付ケル也温明殿ハラン也ウント点付ハ非ナリドコテモラントヨム)

(○此隔句如何曰思召ニワリナクトツバク也禁中ニテ死ナレヌ法度トハトモアレ思召ユヘニイナス事ハ割ナク也中ノハノケテハ聞エズ心ニ持也)

(○此句如何曰サルベキ人々承ハレル今日初ムヘキ祈ドモコヨヒヨリト割ナクトツク也承ハレルト句切ニ非ス承テ置ケルト云心ナリ)

## 【二一一】

此折ニモノ云レズ惟今別ルト知バ前カド云テヲクベキヲトコモル也アノトノ字先日モ云通思フタマヘマシカハ申ヲキタイ事アルニト余意アル也息モ絶ツト句切也聞一申上タイ事アリソウ也ソフタイ源氏又鏡類枕草子抄ニモ人ニ

モノ云事キコエルノト云也モノ云バ先へ聞エル故也是モ云マボシ也是モタユゲナレバト句切ソフナケレバカクナカトツバカヌ也例ノ隔句也タユケハ顔モロモタユゲ也カクノ如此様ニアラバトアトヘカヘシテ見ル也是ヲ以テミレハ源氏見易也カクナガラハスグニ其儘禁中デ更衣死ヲ見タク思召也サルベキ人々ハ貴僧高僧ノ験者(シ)ノ然ルベイ人々也カクナカラ一思召トモソフモナランニヨリ割ナク一マカンデサセ玉フトツバク也ナカハ隔句也ソフナケレバ思召ニケフハジムベキトツバカヌ也ナカノ文モサルベイ然ルベイ力承テアル今日ハジムベキ祈ドモコヨヒヨリトツバク也割一コレデ実ニ出也御胸一ヲイトマ出退出スルアトノ事也ツトハ今云ツツト云事也俗ニ云ツト也ソバヘツキ當テル様也ツユハ少シ也ミ使ハビソギキ、ニ遣ス使ナリ

(サルベキ人々承レルトハ然ルベキ行者ドモ天子ノ仰セラカネテ承レルヲ也)

## 【二一二】

往カウ程ナイ也ソレ程櫛ノハ引如ク遣サレテモイフセサハ心モトナイ也左様ニ心モトナフ思召ニナキサハクハ更衣ノ方ノ人々ナキサハグ也イトアヘナクハ使ニ往者アヘテセヌ也ツカイエズソレ聞バカヘル也マイリヌハ参内也キコシメス一ソノヨウスヲ聞ナサル天子ノミ心前後忘却也ナニ事モカモヒ玉ズギヨシンナル也

○みこハ一常ノ御殿ニ引込アル表ヘハ出玉ヌ也・ミコハ源氏ノミコ也母御シナレタ故禁中ニハヲカレヌカク其儘ヲキタケレドモカ、ル一ヲヤゴノシナレタ服アル間禁中ゴザル例ナケレバ罷一ヲ出ナサレ里ヘ遣サレントスル也只今ハ七歳也是ハ源氏六歳デ元服シテ其夏母更衣死ス今ハ七歳未滿(ミマン)デクルシフナイ也是ハ親ノ服アレバ禁裏ニナル事ナラヌトス桐壺ハ延喜ニ當也延喜以前ハ七歳デモ服ウケル也延喜ノミコ安明(ヤスアキラ)親王五歳デ母ノ

服也ホツソウ家へ尋也律ニモ令ニモ七歳未滿ノ人親ノ服ウケ

〔○イブセサハイブカシイ心ナリ合点ユカ又意ナリ〕

〔九月廿六日第三座〕

【二二ウ】

ルコト見又也親ニハ服アルコト見ユ法ソウ家ニモ服アルマイト云ソレナゼナレバ律ニ七歳未滿ノ人ハ刑ウケヌト云事アル親ノ服アルニカクシテ面へ出サヌガ二年ヤツコニシテ使也祖父ノガ一年也スレバ七歳ノ人ハ死罪有テモ刑加ヘヌト云バ服ナヒト云延喜四年也是ハ延喜ニモシテ書ドモ延喜以前服アルブシテ書タ也ナニコトカ―禁裏ヲ御出ナサルニ決定スルニナニコトカアラントモトハ源氏ノ宮三歳イトケナヒ故ドフシタ事ト東西分ラン也テアツマメタニス思ヒテアラヌ也不足ニ非也サムラフ人々―ツキ―ノ女中泣(ナキ)マトウ也天子ノ事ウヘ―ト云カラデハ上ト云日本ニハウヘト訓ニテ云也公方ヲウヘ様ト云ハ非也京デウヘト云ハ天子也ナントモ思ヌ也源氏ノ御幼少ユヘ也ヨロシキコトニダニト云ハヨイ事ニ非也ヨイ事ヲ宜キ事トハ此へ出サレヌ也皆中程ノ事也枕草子榮花物語ノ中位ノ事ニ遣也ヨイ事ニ別ノ悲ヒ事ナイ也ソレハツイ逢也此ハ言心ハ中位ノ事デモ死別ハ悲ヒト云事也死別ニヨイ事ナヒハヅ也榮花ノ浦―ノ

〔○親ハ表へ出テ勤ル故服アルコト令ニ見子ニハ服アルコト令ニナシ名(メウ)例律ニ七歳未滿ノ人ハ雖有<sub>レ</sub>死罪<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>加<sub>レ</sub>刑トアリ同ヲヤノモヲカクシテ出ハ徒罪二年ト徒ハヤツコニスルコト也祖父ハ一年也スレハ輕也死サイサヘナケレバナリ死サイ徒罪大ニ異ナリ〕

〔○枕草子ノ云心ハ桜ヲ大テイノコトト思フ人ヤハアル皆コトノ外愛スルト

ナリ源氏ニモ多也〕

【二三オ】

別レノ卷ニアハレニ悲キナンドハ宜シキ事ナリケリトアル宜キコトニアハレノ悲ヒ事ナヒハヅ也是ハアハレナノ悲ノハ大抵ノ事ジヤト也ソレハナミ大抵ノ事也ソレヨリ此事打超(コエ)ルト云事也枕草子ニ春毎ニ咲バトテ桜ヲ宜ク思フ人ヤハアル是モ宜ヲヨイ事ニシテハ宜フ思フ心ノ人ナヒ也サニ非スハ並テイニ思フ人ヤハアルナヒト也然ハ宜ハナミ大体ノ心也爰モソレ也ナミ大テイデサへ也是ハ天子御寵愛ナレバ別シテ云カイナイト也限―死ナレタ事ナレバ止メ置モ程アル事也二十四時ヲクト云事モアレドモ久ヲカレヌ也例ノサホウハ葬礼ノ作法也母北ノ方ハ更衣ノ母源氏ノババキミ也更衣トトモニ同シケムリニモノボリナント鳴コガレハ心火デ也心火ニ火アル故コヒニコガレルノ思ヒニコガレルノト云心火也シヌル更衣ハカエル事ナヒ故アマレナゲキ切ナ故也是迄送り往也ヲタギハ今六原ト云鳥部野トモ云古ヘヨリ人葬ムル処也松原ヨリ五条アタリ也イカメシウハ猛ト云字ヨメドモ是ハ死人ノカザリニ花タテモリモノ

〔○湖月抄八丁ウ延曆遷都記如何日抄ニハ無写本ニモ見ズ〕

〔○限アルハ慥ナ記文アルヤ仏家様ニアリヤ日京ニ今スル事也睡餘録ニ今早ク葬コトヲ備也〕

〔○北ノ方北ハ陰分故云也面ハ南也人君ノ南面スレハアトニ北ニツイテヲラネハナラヌナリ〕

〔○抄ニ六道ト如何日松ワラ通ノ東也〕

## 【二三ウ】

スルヲゲフサンニスルヲ云也其作法シテガン前堂様ノ処へ母性也イカハカリ  
 |ハサゾカナシカツタデアラント云草子ノ地ト云書(カキテ)人ノ云也ムナ  
 シキカラヲ|是婦人ニアル者也死シタ人ヲ引動シテナゼモノ云ヌゾト云テ  
 也カイモナイ事也イツソ火葬ニシテヲ見テ一向ニナキ人ト見定テカヘラント  
 云也ヒタフルハ一向也ソフ思定也サカシウハカシコゲニ云ドモ車|コガシコ  
 ゲニイツソ灰ニシタレハナヒ人ト思トイヘドモ車ヨリ|サハ思|ハソフデア  
 ラフト思ト女中云ナリ難義ニ及テイ也内ヨリ|送葬場へ勅使クル更衣ハ四位  
 ナルヲモトヨリ女御ニモナサン后ニモセント思召ニカイナヒ事故先三位贈ル  
 也是贈位ノ趣ヲイツデモ小ナ言勅使ニ来カタヒザ立ヨム也宣命(センメウ)  
 ハモンジデ書トモステカゲ付テマツスグニ假名ヨム様ニヨム者也神事ニモア  
 ル事也カウシタ事ニモアル事也女御|女御トモ云セン后トモ云セント思召タ  
 ニト云デ見ユアカズ|ハ不足ニ思召也位ヲダニ也四位デアツタヲ三位ニダニ  
 也二ツノダニニ后ニセンノ

〈○私考曰ヲタキトハ山城国愛宕ノ郡ナリ愛宕ノ郡鳥部山ニ葬送アリシ例ハ  
 続日本後紀ニイヘル女御藤原朝臣澤子ノ御事アタレリ是光孝天皇ノ御母也其  
 作法トハ葬送ノ礼也官位ニヨリテ輦アル事葬送令ニ載〉

〈○イカメシウノ訓如何曰ゲフサンナ事イカツニト云也訓ハイカツナ事也猛  
 ノ字ヲヨムタケイ心也葵卷ニイカキヒタフル心イデキ是モ猛ノ心也テゾヨク  
 キカヌ気ニナル也〉

## 【二四オ】

意コモル也此更衣ニ三位ヲクルハ例スクナヒ事故同列ノ更衣ハラ立也物思ヒ  
 |悪ム人ハニクメドモ物ノ分弁ヨクスル人ハ更衣ノサマハヨウス也メデタイ

ハ喜ブ事バカリ云ト思ソフデナシ愛スルノアイノジノ心也メヅル也古今春ノ  
 部ニ残リナクチルゾメデタキ桜花アリテ世ノ中ハテノウケレバモソレ也喜事  
 ニ非スアイスル事也ナダラカハ平等也平ノ字ノ心也老人デモ若人デモ男デモ  
 女デモ誰ニモ合也心バヘ和ナ人也メハマミムモト通ミヤスキ也今ソ|生テ  
 アル時ハ天子ノナサレ方アシク皆悪メドモ更衣死シテハヨイ処アル故ニシナ  
 レルト見ヲクルヤウシタ者也サマアシキ|アマレ天子ノ例ニ過ルヲモテナシ  
 故スゲナウハモンジニハ人ノ字ナシト日本記ニ書訓ハ酢ノケナイ也塩梅ハ  
 スト醬油トデスルナンデモナヒト云事也ナントモナフ人云ト云心也モノアハ  
 レニナサケアル更衣ノ御(ミ)心ヲウヘノ|天子へ御奉スル御寵愛ハナレ  
 タ内侍ノ助命婦ノ類ヲ側近ク召使フ女中也シノブモ慕(シタフ)也無テゾト  
 ハ|是ハ古イ哥也アル時ハアリノササヒニニクカリ

〈○ヒタフルノ訓如何曰ヒタスラノ心也ヒタ甲ヒタタレノヒタ也ヒタ甲ノヒ  
 タハ献ノジ書直垂心同事也大勢一統二甲キルヒツタリト皆キル也直垂モヒタ  
 スラニタレル也〉

〈○必少納言宣命ヨムニ限ラス大ガイソレ也片ヒザ立ヨム作法也センメウヲ  
 ヨム也位記ハ参内シテモラウ也ハ除位ノ時ノギシキニモラウ也宣命ハ命ヲ  
 ノブルノ心歟曰然リ〉

〈○私考曰宣命ハ上卿勅ヲウケ内記ニ仰ヲ作ラシム其人ノ姓名其人ノ徳贈位  
 ノ意趣ヲ載黄紙ニ書タル者也〉

## 【二四ウ】

キナリテソ人ハ恋シカリケルト云哥心ニ持書タ者也在時ハソレ程ニナケレド  
 モ死トア、ヨカリシト云也アル時ニハ悪クミナクナリテハオシム也ハカナク  
 |日ノ立ハズウ、立テ行也後ノワサ|七日、ノ仏事四十九日ノ仏事也日

立ニシタガヒスベイ方ナク思召也御方々ハ女御更衣ノ類天子へ御奉公シテ日猶更ル也トノイスル人也トノキト云訓ハヨルデモヒルデモヲ側ヅメスル也御殿ニヲル也トノハ御殿也我家ニヲルハ里キト云也女御更衣モ召サズ惟涙ニヒチテアカシクラスヨリ外ナイ也見奉ル人トヲノシノ露ケイハモトヨリ也ソノ御ヨウス見ル人モ也秋ハカナシヒ露アル時故是モ後撰ニ「人ハイサコトゾトモナキ詠ニソ我ハ露ケキ秋モシラルトアリ人ハイサ人ハインニヤドウゾシラヌ我ハト也女御更衣様ノヲトノキヲ召サズ只ナヒテアル故二人ハヲノシノ事其外ノ人也人ノヤハリ残念イキドヲリアル也人ノ御覺一此人ハ更衣ニ當ル御覺ハ天子ノ思召入也弘徽殿ハ一ノ宮ノ母ゴ也更衣トハナカアシイ人也死ナレテモ後

ト云コト也スサミハ手ズサミ口ズサミト云類也アル時ノスサミ也アル故ニ取タリヤリタリスルコト也トクナヤミト云様也

（○十一丁ヲ後撰ノ哥人ハナニコトモ無ナラン我ハ露ケイト云コト也）

（○ヒチテノ訓如何曰ヒタル也ヒタツテ也タチツテト通也）

（○悪后アクキサキト云也アシキ人故也源氏物語ハ源氏ヲ能スルニ源氏ニアタスル人故ニカク云ナリ）

（○弘徽殿様ニハナキアト迄人ノ胸アクマジカリケル人ノ覺哉トゾ猶ユルシナフノ玉ケルナリ凡隔句ハテンドウヲフクムモノ也是モ弘キデンヨリナキアトヘテンドウスル也）

【二五オ】

モ立腹シテ胸アカヌ人ノ御覺エト思ヘルト云是モ隔句也一ノ宮一ノ宮ハサハリナヒ故ニヤハリ禁裏ニアル弘キデンノウム也ソレヲ見ルニツケテ源氏恋

シフ思召也シタシキ一ヲ側デ使フ内侍ノ助命婦ヲメノトヲ其ノ人ハ一チ親イ也更衣ノ里ノヨウス聞也ノワキハ暴風也今八月比ニ吹シケノ風也ノワキダチハノワキメク也ノワキノ様也全ノワキニ非スノワキニ似タ也源氏ニシヒラメクヲシヒラタツト使フ也メクヲタツト遣也ハタ寒キハ将（ハタ）也時分ハ秋也肅殺殺伐ノ秋也コトニ夕晩也別シテ悲ヒ多時分故更衣ノ事ドウ有テカウ有テト前カドノ事思召出サル也ユゲイノ命婦ハヲ側テ使フ親シキ女中也ユキヘノ丞ト侍（サムライ）ノ名ニ云也靱（ユキ）ハ矢ヲモルシコト云者也ウツボノタグヒ也ユキヘハユキヲ負也矢ヲ負也左衛門（サエモン）右衛門（エモン）ヲ云也命婦（メノト）ハヲナゴ也左衛門右衛門ノ女房（ボ）也ソレガ禁裏ニ事ルヲ云也或ハ呼名（ヨヒナ）ニ親左衛門右衛門ノ女ヲユゲヒノ命婦ト云事アル

（○私考曰メノトトハ妻妹（メノヲト）ノ意ナリ又嬪母（チヲモ）トモ云

凡御メノトヲ給ふ事親王孫王員数ワカチアリ日本紀神代卷鸚鵡草葺不合（ウガヤフキアハセスノ）尊ノ生（アレマス）之段ニメノトノ始アリ）

（○俗ニ秋ノ風雨ヲツウト云ハ誤也ツウハサミダレナリ意ハ露（ツユ）ノ心也京ニテハ秋ノヲシケト云先京ニハ八月ニナイコト也ノワキハ吹也コノシケノコトナレトモ此ノシケニ似タ者ニ非ス京ハ風吹又也山ノフトコロ故也尤秋ハザハトフクノミ也シケノ字ハ如何曰未考）

【二五ウ】

親伊勢守故女ヲ伊勢ト云事アル也此ノ左衛門右衛門ノ女ボ也命婦トハ立命シテ大夫ト称スルト云様ノ事也アノ方ニ一命二命ト位モラウ也是モ命位也五位也内命婦外（ゲ）命婦ト云アル内命婦ハ左右衛門ノ女ニテ居ガユケヒノ命婦也外命婦ハ人ノ女房也通（カヨヒ）テ奉公ス常住禁中ニ居又也ユゲヒハ

ユキヲ負也男子ハユキエト云女子ハユゲヱ(ヒ)ト云ヨミクセ也モジモワケテ書也正按源氏男女官職私考曰ユケヒノ命婦ハ中臈ノ女官ノ召名ニシテ或ハ左衛門ノ命婦或右衛門ノ命婦ナト、メサルヘキノ更名ナリ本或ユケヒノ号ハ男官ノ左右衛門ノ異名ニシテ武職ナレハ韞(ユキ)ヲ負(オフ)ノ意ナリ韞ハ矢ヲ盛ノ器ナリ又命婦トハ内外ノワカチアリ妃夫人嬪及女御更衣御クシケ殿ハ内命婦ナリ只中臈格ナルハ外命婦トイヘリ其命ハ爵命アル義ナリ職員令中務省ノ條内外ノ命婦義解ニ謂ル婦人帶ニ五位以上一曰内命婦也五位以上ノ妻ヲ曰外(ゲ)命婦也

〔二六オ〕  
 (○命婦ハ大概五位也五位ニ非サレハ天子ノヲ側ヘユカレヌ也今ハ無也メウブハ官名歟曰然リ唐ノハ一命ヨリ二命ヨシニ下命ズル故也男女字ハ同コト也同者也ユキヲ負ト書男ハユキエノ丞ユキエノ助也女ハユゲヒトヨム也)

〔二六オ〕  
 タヅク夜ハ七日八日九日十日比也オカシキハ景氣面白也命婦コシラヘ立勅使ニ遣サル也ヤガテハ其儘也遣(ツカハ)サルアトデ其儘也ナガメハモノミル事ト思フサニ非スモノ思事也次ニヨム月ヤ花ニハナガメトヨムソレモミル事ナレドモタバハ物見ル事ニ云レヌ也ナガメハナガクミルナリモノ思ヒアレバアテドナクキヨロリトミヤリテアル也ソレ故ナケキヲモ云也源氏ニソラヲノミ見玉ヒツルト云モナゲキノ事也古今ニ大空(ハ)ハ恋シキ人ノ形見カハ〔空白〕トアル此哥ナガメト云正体也見ズモアラズ見モセヌ〔空白〕ト伊勢ニアルソレ也見タ人デモナク見ヌデモナヒ人ヲ思ハ〔空白〕ト云コノ様ナ事也物思ヒノ事也カウヤウトハ(ノワキダチテ)ニハカニハタ寒キ夕暮(ハ)ノ程ニカハル也(カウシタ折ハナリ)御遊ハクハゲン也更衣ノ存生ノ時ハ

コンナ時分ニハゼフジウクハゲン様被仰付也心コトナル格別ニ和琴(ゴン)デモコトデモ也心持カクベツニシテヒキナラスト更衣ニモカ、リ又聞人ニモカ、ル也引人ニモ聞(キク)人ニモカ、ル也ハカナク哥ナドヨム也夕附夜ノ程秋野

(○正按タツク夜万葉ニ暮月夜ト書トモ日本紀ニハ夕附夜ト書万葉ニモ亦カクノ如書処アリ源氏ニモタヅク夜トアレハ夕月夜ト書トモタヅクトヨムヘシ)  
 (○ヲカシヒハ十アレバ七迄ハ面白也哭事云ハ稀ナ事也十二也訓ノモト知ハツイシレヌサレトモ知ヌ也アイスルコトハ哭ベキサレトモ本シラズ弁ツケラレズ)

(○琴ヒクト云ヒクノ字如何曰弾ノ字也字ノ心ハハジク也爪ニテハジク也)

〔二六ウ〕  
 分ダツノ時分也聞エ出ル言ノ葉ハ云出ル哥ノ万(バン)人ヨリ格別ニヨカツタ也ケハヒハモヨウ気色也其ヤウス也其面影天子ノヲ側ニツ、トヒツソヒアル様也面影ニアル也面影ノカヅ(ハ)ラテ年ノツモレカシハヤハリ面影也傍ノ立ハ死シタ人チラ、見エル也万葉ニ「ミチノクノ真野ノカヤワラ遠ケレド面影ニシテ見ユト云モノヲミチノヲクハ遠ケレドモソレガチラ、目ノ前ニアル様ナルキミ也ヤミノウツ、ニハ―是モ古哥アル古今ニムハ玉ノヤミノ現ハサダカナル夢ニイクラモマサラザリケリトアルヤミノウツ、ハヤミノ夜ノ現在也ウツ、ハ人ハキチガヘテアリ此様二人ニモノ云タリスルハ現在ウツ、也バウ、然トシタヲウツ、ト云ハ非也ヤミノウツ、ハ夢ヨリマサル者ニ非ズモノ云ドモ顔ドフヤラ着(キル)モノドフヤラ知レヌト云哥アルソレヲトル也ヤミノウツ、ハ夢ニヲトルト云ガソレヨリヲトル也古今ハ一段サゲル是ハ二段引サゲモノ云事モナラヌゾト也カシコハ更衣ノ里也カク引入ルハ車

也命婦ノリ行

（○云モノヲト云ハ心餘ルヤ曰サニモ非ス况ヤ近処ハ也）

【二七〇】

車也ケハハハ更衣ノ里ノヤシキノテイ也人ノ死アト故ニ也ヤモメハ更衣ノ母  
 ガヤモメズミ也大納言殿先ヘ死ナレ更衣ノ母ハヤモメズミ也人独ノ一桐壺ノ  
 更衣ノ宮仕ライツキカシヅク也トリツクライ品ヨクスル也更衣ノ寵愛故人ノ  
 出入シケレドモ内ノヨウスヨクシテ也ヤミニ一子ヲ思フヤミ也マダ間モナ  
 ヒ事故ソレ程草高ナルニ非ズサレドモ少高ヲゲフサンニ云也又ヒト死故クサ  
 短テモ高モ見（ミユ）ベシ此野ワキハ暴<sup>\*</sup>風也実ニアル、ニ非ズ荒タヤウニ  
 ミユル也月影バカリト云デ外ノ人々見マヒナヒ也更衣死ナレ外ノ云見マヒナ  
 ケレドモ月影バカリ也是モ古イ哥デ書也南一ノ家ハ南正面ニシテ建故ニ南  
 ハヲ客ザシキ也勅使是ラモ書院ヘ入也母君（<sup>\*</sup>）モト云デ両方モ也命婦モソ  
 コヘ對面スレバナク故口上ノダレデナイ也トミハ頓也スミヤカ也サツソク也  
 今迄一是母ノ詞也今迄生テ止テアルガイトウイト存也カ、ルカウシタ勅使ノ  
 ヨモギフハヨモキハヘル也フハ生也ムクラ

（○トミハトシ敷ミノジ如何ミト下マミムメモ通也トミハ速ナ事也頓作ナト  
 今云モハヤリモノ云人ヲ云ソノ心也伊物長岡ノ段ニトミノ事トテトアリソ  
 ギノ事トテト云事也）

【二七ウ】

フ浅茅（アサヂ）フノ類アレタ処皆云也コレモツ、キ掃ソウヂセヌ故ニヨモ  
 キハフル也此ハヅカシウモ生（イキ）シガハヅカシヅ（ヒ）ト云也エタフ一

エコタヘマジフナク也ナイハナク也イトキト通也參一是カラ使ノ命婦ノ口上  
 也内侍ノ助云ハ更衣ノ里ヘイテハ心モ肝（キモ）モ尽也死（シ）ニソウ也ツ  
 クルハナフナル此命婦ヨリ先ニ内侍ノ助天子ノ使ニユキ帰テ云詞コ、デ又云  
 也ソウシハ天子ヘ奏モン也モノ思ヒ一命婦ガモノモシラヌト卑下也ゲニコタ  
 ヘラレズ笑止也ヤ、シバラクシヅメ私ノ口上云ハタシテ天子ノ被仰御口上  
 フ云侍也シハシハ一是カラ天子ノ御口上命婦述也更衣シナレテハシバシノ間  
 ハユメカトノミ思召也日数立ニヨリゼン、ニ思ヒシヅマル也サムベキハ夢  
 ト上ニアル故承テ云也コタヘラレヌハザ也ドウシタヨカラソワザカト也トヒ  
 合ス一近辺ノ女中ニモトヒ合ス人ナヒ也皆ナカハルヒ也更衣ノ事云◇（テ）  
 ハトリアフ人ナヒ也忍一ヒソカニ忍デ参内セヌカ也若宮一源氏ノ宮ノ

（○ナイ玉フハナキ玉フ也五普通ス今モナイテヲルト云ナリ）

【二八〇】

事ヲ天子ノ覚東ナフ思召也露ケイナカニ源氏ゴザルモ心苦シフ天子ノ思召也  
 源氏ノ宮ノ事モ心モトナヒ程ニ源氏ノ宮ツレトク参内セヨ也ハカ、シウハ  
 シツカリトモエ被仰ヌ也ムセカヘラセ一ヲ涙下ル故ニシツカリトモエ不<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>  
 仰ムセカヘル也カツハ一且ハ又ハ也涙ニムセビテエ被仰エズ人ミタラサゾ心  
 ヨハイテイトサミセンヤトハジルテイ也ソノ御ヨウスヲシツ、ム也心一ハ命  
 婦也其ヨウス見ルガイカニシテモ心苦ヒ故ニ承一アチニ思召包<sup>レ</sup>（ナミタ）  
 下ルヲカクシ玉フ故心キ、故ニ命婦モ早ク立也ソコヲロクニ見ヌ也ミズニ出  
 （イデ）テクル也御文一是天子カラ更衣母ヘ被<sup>レ</sup>下ヲフミ也目モ一母ノ云ハ涙  
 デ目モ見エヌ也如<sup>レ</sup>此段々アリ難イ疾（トク）マイレナド被仰口上也光ハカラ  
 也目見エヌト云故ニ光ト云ドモ俗ニ云ソレヲカラニシテヲフミモミント也程  
 一御状ノ文（<sup>\*</sup>）体也月日タチテアレバスコシ朴（ワ）スレンカトテ月日タ

ツヲ待也月日ニソヘテイヨ／＼カン忍シニクイ也ワリナキハ割テモ

【二八ウ】

ワラレヌセン方ナイ也イハケナキ―源氏ノ事也ドウシテクラズゾト思ヒヤリ  
 又也更衣シヌル故父母モロトモニ無也思フ事ジヤ程ニ今ハ―更衣ノ形見ニ更  
 衣同前ニフビンニ思テクレヨ也「宮城野ノ―奥州ノ名処ナレドモミヤト云ニ  
 付テ宮中也ヲノシノコザルキフ中也小萩ハ源氏也宮中ニ風吹ニツキ源氏ノ事  
 思召ヤル也涙即タル故母エミハテヌ也命―是カラ更衣ノ母ノ文見テアトデ命  
 婦ニ云口上也ウイ事ニ思バ松ノ―是モ古哥アル也「イカニシテアリトシラレ  
 ジ高砂ノ松ノ思ハン事モハヅカシドウゾシテアルト云事人ニシラレマイ松ノ  
 思ハン事モ恥カシ況人ニシラルハ恥シト云也百敷―松ノ思ハン事サヘ恥カ  
 シケレバ百敷ハ宮中也宮中ヘ行通（ユキカヨフ）ハ況ヤマシテ也宮中ノ人シ  
 ゲイ処ヘユクハイトハバカリ多ナリナゼナレバ女メノシヌルニ何ヲ頼ニ欲ガ  
 マシイト人ソシルベキ也カシコキハ勿体ナイ也ヲソレ多也是ヨリ前ニヒタト  
 勅シクル也自―ヲヒ／＼勅使来（キ）参内スル様ニ

（○イハケナキハイトキナキ也ハト云ガスマヌ也不レ通訓也）

（○思フ玉ヘシラル、ニ―思ハ我思也玉ヘハ先ヘ歎曰コレモ我事也貴人ヘ云  
 ハ我事モ玉ヘト云也）

（○湖月抄十二丁ウいかにしての哥ハ松八年久キモノデツク／＼ト見テアル  
 ニ昔ノ人ハナヒガ此折ニ長生シテムヤクナ身生ヲキテ松ノ思フテマヘ恥カシ  
 イト也）

【二九オ】

被仰ドモ私ハエ思ヒ立参内スマイ若宮―源氏三歳ナルガドフ思召ヤラ何ノ弁

ヤラ内テヲ急ナサル也コトハリニ―此モトハサビシイ也宮中ハニギハシケレ  
 バコトハリ也内／＼ニ―此ガカラヲ入レタ処也内々ニ私ガ存ハ松ノ思ハン事  
 サヘハズカシク思故宮中ヘ行人ニツキアフ事恥カシヒテ内々ニ奏聞シテクレ  
 也ナゼナレバ天子カラ被仰付ヲソムクハ違勅ノ人也ソレ故ニサン柿（ダイ）  
 スマイエマイランニ非ス此私ノ心ニ思フ処ヲ奏聞シテクレヨト也ユ、シキハ  
 イマ／＼シキ事也拾遺ニワビヌレバ常ハユ、シキ七タモウラヤマレヌルモノ  
 ニゾアリケル常ハイマ／＼シイ也一年ニドアフ七タハイマ／＼シケレドモ  
 ワビヌレバソレサヘウラヤマシイト云心也イマ／＼シイ也ソレト同事也カ  
 クテ―如レ此宮ゴザルモイマ／＼シウハ忌（イム）也イミステタイノ心也勿体  
 ナイハカタジケナイ也宮ハ―源氏ハネ入テアル也命婦モ御ヨウス見奉テ其御  
 ヨウス奏聞シタケレドモヲ目覺

【二九ウ】

ヲ伺タケレドモ御返答待テヲ出可成故早フ帰タイ也夜フケン程ニイツ迄云テ  
 モハテシナケレバ帰ルベキ也クレマトフ―是更衣ノ母命婦ヘ云口上也マツク  
 ラニナル也子ヲ思フヤミ也私ニモ―心ヲハラス也御内々ニコナタト物語シテ  
 胸モハラシタイ也ヲ勅使デナクトモ御内証デハナシニ来テクレヨ也罷出ハキ  
 ン裏ヲ退出也年比ハ更衣ハン花ナ故ナントシテモキツトシテ勅使ニクル故ニ  
 面目ヲシイ事ニノミヲ出被下ニカ、ルヤウシテヲ使ニテ対面ハ返々ハ前ニ命長キ  
 ノ今迄残ハ恥カシヒノトアルヲ承テ返々死ニタク思テモツレナヒハ不変也シナレヌ也セ  
 ウ、コ、バ今日ハ状ノ事ヲノミ云也サニ非スピンギノ事也モト易ノ字也消ハ陰キエ陽キユ  
 ル也息ハ生也陽出来陰出来也ウムヲ問事也無事力無事ニナヒカラ問也

【三〇オ】

状ノ事モセウソクト云惟口上デ問モセウソクト云ピンギノ事也生―又更衣ノ

母ノ命婦へ云口上也更衣ノ生時ヨリ親大納言所存アル女也故大納言ハ今ハ逝去ノ時分也此人ヲキンリへ宮仕ト思程ニトユイゴンスル也我死デアルトテクヅヲルハ朽(クチ)テ折レルノキミ也モノスタル心也和訓ハクテ折レル也ハカ／＼シウーハカ／＼シウウシロミ思フ人ナヒ也前モ出也中々ハカヘツテ也ケクデ出ダテスレバ無ハジモアルベキ也サレトモ父大納言ノユイゴン故ニコシラへ立出ス也過分ノ御テフ愛テ御ケツカウ被仰付故本ヨリヲヤ無人故人ゲナヒ也サレドモ人ナミ／＼ノ更衣ニシタ也人ノナゲキナ事多也ヨコサマハ横死(ヲウシ)也呪咀(シユソ)ノ毒薬飲死スルノ類也必横死ニ非ザレトモノノ様ニ覺ユルギ也横死ノ様ニ思バゴ寵愛ナヲツライ也コレモト云是云ワケ也天子御テフ愛却テツライト云ハ勿体

へ○奉ツレト云私ノコトニモ奉ト云ヤコレハ死シテ後ニ云コト故更衣ニナツテ後ユへ母ウヤマヒ云ナリ

へ○クヅヲルハ折敷居敷曰コハ思ヒトマルキミ也訓ハクテ折レルナリ

### 【三〇ウ】

ナヒ事ナレドモ是子ヲ思フ迷ノヤミカラト云イ、ワケ也

○うへもしかなん―母ノ無調法ナ事能相ナ事云ト其云ワケニ是モワリナキ―ト云也上モ―ト云ガ命婦ノ返答也シカハ其通也ナンハ助字也句也我―是モ天子ノヲ心ヲ命婦カ物語也天子ノ我ミ心也アナガチハシヒテ無理ニト云様也アナガチト云訓ハアモナモ嗟嘆也サタンガチニ御寵愛ナサル也人メ驚シイ程天子ニ思召モカウシタ契ノ短ヒ故ナラント也今ハ却ツライカウシタ事ナレバイツソ無ガマシソト云也世ニ―コレモミカドノヲ詞也世ニイサ、カモ人ノ心ニカ、ラン事ハナヒナラント也延喜ニ模ス延喜聖王ト云故也タゞハ外二人ノ心マゲル事ナヒ也此更衣ノミ也唯只(ユイタン)ノ両字餘縁ヲヤラズト云タゞ

コレノミ也サルマジキハサ◇(ア)ルマジキ也カウハカク也カクノ如ク更衣ハ先立天子ハアトへ残也心―ヲ心乱レ取オサメラレヌ也人―云バチト外聞ハルウヲ辱シヒ也グハン異ニナリハテル様二人思ナラン先―

へ十月朔日第四座

### 【三一オ】

必竟宿世(シユクセ)ノ約束ナラント思召也打返ハヒタト其事貳タビモ被仰也ツ、モ程ヘル也シ・ホ・タ・レハナク事也延喜式齋ソフ忌(イミ)ノ詞ニモシホタルハ鳴(ナク)事(ギ)ニ云也ウへノ落着ハツキセズナク也ナク／＼ト下モへツゞケレバ決前生後也人ノ心ハシラナミト云ハ先シラン也ナミトツゞケル也是モ尽セズナク／＼命婦ガ云ハ此宵スグサズコレヲ云トナク／＼云也夜イタウ―隔句也是ノケテ云バナク／＼カラコヨヒニツゞク也マイルハ参内シテカヘル也月ハ―前ニタヅク夜ノオカシキホドニ出シタテサセ玉フテトアル命婦ノ天子ノヲ側罷(マカリ)立時夕月(ツキ)夜ノ面白時也是八月入方ニテイカウフケルコト也風イト―其夜ノ景氣也モヨホシ―ハナミダアハレ催ガホニ鳴也イト―虫サへ哀催ス様也イトハ下(シ)タノ詞ニカラ入レル也ドフモ哭止デ立テ帰ラント云レヌバ処也恋シフテノ晝(ノ時)ニ非ズ草ノモトハヨモギカ本ト云ト同ジ草バウ／＼トシタイ也「蛉虫の―ス、虫ハ声云ン

へ○尽セズナク／＼コヨヒスグサズ―マイルハ夜イタウフケル故ト隔句也

へ○尽セズナクハ知ヌ也ナク／＼ハ白波也問曰人ノ心ハシラナミト云事アリヤ曰哥二人ノ心ハシラナミトモシライトトモヨム同事也

へ○ガホ如何曰心ナシ不知ガホナト同事也

へ○ヨモギカ本ト云処アリヤ曰蓬ガモトモタゞアレタコト云也本ニ心ナヒ也



【三一ウ】

為也草ノ本ト云ハントテ其草ムラニ鳴虫ノネヲアツメソレニ永夜タラズナミ  
 ダフル也フルハ蛤虫ノエン也蛤ハフル者故也蛤虫ノフル涙ノ場処哉ア、カ  
 ナシイ事也エモ一車也車ト云ズ前モ引入ト云又ノルト云ヲ車ノ事也イト、シ  
 ク一更衣ノ母ノ哥也淺茅生モ草ノ本ト同事也アサヂハチ也◇(チハ)ミジカ  
 イ者故ニアサヂ也爰ハ草深イト云ソレニ對シテ聞(キケ)今云ジバト云様也  
 フハ生ズル也下地サへ虫ノ音シゲフモノ哀ニ弥雲ノ上人来テ露ヲキソフル也  
 雲上人ハ男女ニ限ラス天上ニ仕ル人也カゴトハカコツケル也露ヲク事ニ非ザ  
 ルニ雲上人ユヘニ此様ニ露シゲイトカコツケテ云(イ、)タイ也カコツケテ  
 ナゲキ深ヲカクシタイ也カコツケ事モ云タイ也イハセ給ふハ人ヲ以テ云ス也  
 ヲカシキ一命婦婦ル時引出(ヒキデ)モノ也オカシキハ面白也風流ナ引出物  
 スベキ時ナラヌ也外ノモノナシニ更衣ノ形見ニ極ヲク也カウシテカ、ル入用  
 也用ハ入用也ソフゾクハセウゾク也イツデモン

○十五丁ヲ抄頭書ニ昇殿の人を一女ニハ名目ナヒ天上人ノ地下ノト云コト  
 ナヒ官位デ分テハマル也少ハヤリカヘネハナラヌ也セウデンセヌハ天上ノ間  
 ヘエユカヌ也清涼殿ノ中ニアルナリ直ニ見ネハシレヌ也見タ人ナヒナリ  
 ○抄説ト相違ス如何曰抄ノ説ハ恨ムル心也アシ、恨ハカコツケ也平生ハカ  
 ウナケレトモヲ出故ナミダコボルト云也恨コトカコツト云ハ如何曰君ハ人ヲ  
 恨ナド直ニ云レズカコツケ云ユヘニ恨コトカコツト云也

【三二オ】

ウ束ノトアルハ女ノソフ束也是ハ更衣ノセフ束也云ニ及ヌ也其外大臣ニ被  
 下類ハ皆女ノ装束也ウハギニモノカラキヌソヘ被下也是装(セフ)束一下(ヒ

トクダリ)也ギツトシテハ天子カラ男子ニ被下ニ女ノ装束也装束(セウソク)

ト書(カク)事アルソフ書(カキ)ヌ唯(サ)ウゾクト書モ皆女ノセウソ  
 ク也又マキギヌトテ被下事アル卷テアル者也被下ト腰ニサス故コシサシト  
 モ云也グシハカミ也カミヲアゲル也宮中ノ女中ハスベラカシサゲカミ也義式  
 ニハソフセズヒラノスル故カミアゲル也平生ハサゲ髪義式ノ時ハウヘ、卷  
 上ヲカウガイノ様ニシタデ止メル也アチノハカンザシ也マク処トメル也アゲルハ上ノ卷ア  
 ゲル也デウトハ道具ノ事云也カンザシハサミ櫛ノ類也若キ人々一是カラ草子  
 ノ地ト云テ作者ノ評番也思ヒ(イレ)書処也命婦ト更衣ノ母ト応對問答  
 デハナヒ也若人々ハ源氏ニツキ更衣里ヘキテアル人也是ラ更衣ノカナシミハ  
 打忘レ云出ヌ是若女中ノ常也内一常住禁裏ニアル事也此ハ

○セウゾクト云ハ一具ソロヘ被下也上下一具被下様也

○卷キヌハザツトシテノナリキヌ一區也腰ニサシテカヘル故コシサシトモ  
 云先ニ出ベシ

○髪ヲクシト云訓如何曰不知

○メクハ如何曰心ナシ調度ヤウノモノ調度タグイノト云様也文カサル故入  
 ラン事云コト多シ今モクシバコ被下ニクシバコナト被下ト云処ナリ

【三二ウ】

ウレヘノバ処也又禁裏ニクラベテハサウノシイ也サウノハサビノシイ  
 ノ訓也サビシイ也天子ノ御(ミ)アリサマナド思出也聞(キク)ハ助字也イ  
 ツモ聞ト云ハ云事也此様ニ遣ハ助字也キクニ心ナイ也ナンボモアル事也詞ノ  
 モ様ニ入レタ者也カク一母ノ心ニハカク此様ニ女メ先立タル不幸ノ身トシテ  
 源氏ニ付行バタ、サヘ因果人ガウニシヤト云ニ付ソヒテ参内セバウク苦カラント也  
 ト云テ源氏バカリ参内サシテ隔(ダテ)ヲラバウシウシロメタウハ心モトナヒ也訓ハ氣

ヅカヒナ事ハウシロミタウ也メトミト五音通ズル也。スガノハ早速也スクヤカノ訓也スクノシウ也。クトカト五音通スイサムキミ也命婦ハ一是カラ命婦カヘルテイ也天子マダネズニアル返事待テアル也。ヲ前トハイツモ天子ノコザナサルハ清涼殿也セイレウ殿ノ東ノニハ西ノ庭ツボセンサイアルトアルニンジユ殿ノ東西ノ庭モツホセンサイアルト禁秘抄ニ委シツボセンザイハ御殿トゴテンノ間ニアル也ウヘゴミ也今モツボノ中ト云也延喜ノ時分ニ草

（○内ハイツデモキン中也アタリハイツテモワタリ也邊ノ心歎曰然リ）

（○サウノハサビノシイ也ヒトサト通ニクイ也不レ知）

（○此聞ニ処ニアリ皆助字也云ニシテハイヤシイ也処ニヨリ見分ヤウアリヤ曰大ガイ見ユル也）

### 【三三オ】

木ヲ植ソヘルトアル也秋ナレハ菊ノ類ナリ御ラウズル様ニテハ命婦ヲ待ノナレドモ人目アル故見ルテイニシテアル也忍一是ヲ召ヨセテ天上人ナドノ殿居トシテアルソレラニハネタ様ニミセル也心ニクキハ入割アル女中也ヨイ女中也心ニクキハヨイ人ノ事云也惣体ニクムハ甚イヤナ事ヲニクムト云是ハニクイカイノニクイ事ニ非ス知恵アル人ノソバデハモノ云ニクイ也同事ナレバ脇ヘノイテヲリタイ様也才知アル人ノ側ニハイヤナ者也ソレヲ心ニクキト云也此比一此卷ハ始終長恨哥ヲ以云様ニ諸方ニ入レアル也初ニモ楊貴妃ノタメシモヒキイデツベウナリユクニトアルコレカラ先ニモ長恨哥ノ事出是モ更衣ノ死ヲ玄宗ノ楊貴妃ニテハナシナサルニヨソヘソノタグイ故ヲ好ナサルト云事也亭子院ハ宇多院也延喜ノ父也亭子院ハ処ノ名也七条ノ南油ノ小路也ソコニ御処御殿アル故亭子院ト云或ハ朱雀院トモ云古今ニモアル也院ノ事朱雀院ト云朱雀院ト云ミカド出来テハソフハ云ヌ様ニナル也延喜ニ桐壺帝ヲアテ

ル故父ノ帝ノ書玉フ繪

（○ツボセンザイハツボノ間也ツボハ小庭歎曰然リツボト云ハ如何日モト殿ト殿トノ間ヲ口ト云口ノ字壺ト云字ニ似タル故誤来テツボト云也ツボニ非也字書可レ考壺ノ字ノ近処ニアルベシヨク似タル字也）

（○私考曰壺前栽壺ハコレモツホキ心ニヤ其処ハ清涼殿ノ東西ノ庭ナリ其外処々ニモアルヘキカ禁秘御抄前栽清涼殿東庭并同西庭朝餉并臺盤所藤壺近也延喜元年左右ノ衛門栽テ草加レ木）

### 【三三ウ】

ト親シフアテ、云也伊勢ヨム哥ハ伊勢ノ家ノ集ニ入ル九首アル猶抄ニ引也宇多ノ天皇ノ哥モ抄ニ引也帝ノ哥ハ自身ニ繪ノ上ニ書ト云事也伊勢ノ哥ハ玉簾ノ哥（ウタ）也貫之ノ哥ハ無也其時分ノ亭子院ノ書玉フ繪ニ貫之ノ哥ヨム事今ハ傳ラヌ也帝ノ哥ハ誰作トモシレヌ也伊勢貫之ガ作力誰歎シラヌ也タバ一今云通ヲノシガ更衣ニ別ル、故玄宗カ楊貴妃ニ別ル、タグイノ事也枕事ハゼウジウヲ側ニヲカレル也云クサニスル也コトハコトバ也イト一是迄ハ御殿ニゴザルテイ書也イトコマヤカラ命婦帰ルソノ返答ヲ聞也アソコノ様スモノサビシク哀ナ事ヲ奉聞ス忍ビヤカニ奏スモ命婦ガ心遣也脇ヘ聞エヌ処ニ申上也イト一カラフミノ返答也身ニアマル置処（）モナヒ事也カハルハカクアル也クハカニ反（カヘル）也反ルトテカクアルニ非ス自然ニカ、ル也其詞自（ヲ）ソフイク也自然ニ詞ツバマツテクル也カ様ニアリ難御意承ルニ付弥心カキクレ乱也「あらし風一時ハ秋故暴風吹時分也カゲト頼ハ親死

（○私考曰女房トハ上臈小上臈中臈下臈コレヲ女房ト云其外ノ仕女ハ女房トハイハサルナリ女房ノ中ニ三位典侍（ナイシノスケ）ハ上臈トイヒ掌侍（ナ

イシノゼウ)ノ類ハ小上臈ニ非(シテ)已上其品宜也中臈ハ外命婦下臈ハ女藏人ナリヲノ〳〵召名アルナリ)

(○カシコキノ訓如何日カシコイハ畏ノ字也ヲソレ多也カシコマルヤ日然リ畏ノ字カシコマルトヨムヤ日然リカシコキモ畏ノ字ヨシ)

【三四オ】

故也小菽ト云小ノ字ニ子ドモノコヲカケシヅ心ナキハ母ノ心也更衣ノ母哀事ニテ静ナ心モナク案ズル也ナドヤウニユルスベシ是ヲ抄ノ説ニハ心ヲサメ又時分ノ愁ノモ中故書様ミダリカハシイヲ天子見ユルスナラント云ト也ソフデ無也ナンド、云ヲ以テ見ヨナンド、云ハ哥ヲ慥ニヲサヘテ云也此様ナヨミ様也小菽―心ナキト云様ニ哥ミダリガハシイト云事也ハナル程心ヲサメヌ時分故ヨミ様アシハアラキ風ハ更衣死故小菽―ト云事ナキ也ナゼナレバ母死シテモ天子御在世ニカウ云レヌ也是前後弁ヌ也仰トエ案セヌ也道理ジヤト天子モ思召ナラント也イトカウシモ―天子ノヲナゲキノ体也●イトカクノ如クシモ也涙ヲサヘテモエヲ忍ナサレヌ也エ忍ヒアヘサセ玉ハズ命婦被下也カウシタ事アルヲイヤガリヲカクシノ御氣象ソコカシコニ見エル也御覽―カノ初更衣ノ入内シタ時カラドウアツテカウ云テト云事思召也サマ〳〵ノ事カキアツメ也時ノ間(マ)里ヘヲリテアル時サヘ早フ参内セヨト被仰付也カクテモ―此様ニ打捨

(○十六丁ウ抄頭ニ花鳥ニ貫之ノ哥ナヒトアリ花鳥ニ無ト云ハ後世知ル人無也菅少相ヲ非ニ見タ人也兼道云花鳥ノ作者ハ一條禪閣兼良公也博学ヲ以菅公ヲ繪ニ書ケルヲ見テ我菅公ニ劣ラズトノ玉フコトアリ)

【三四ウ】

ラレテモ月日ハヘラレル者ゾト也アサマシウハアサイト云訓ナレドモハカナヒ事也サマ〳〵ニ遣フ我身ナガラハカナヒト思召サル也故―更衣ノ父コレヨリ先ニ死ナレタ故也故ハ物故也一旦過(スギ)テソノ人フルウナツタノ心也前ニモ◇(十三丁ウ)故大納言―トアル宮仕ヲアヤマタズサセヨト遺言シテ死ナレタ事前ニアル也アヤマタズハチカヘズ也更衣ニ奉ルホイ也モノハ助字也カミノ心ニシタガフテ承ル也此悦ハ更衣ノ母ノ悦也カイアルカラガ天子ノヲ心也云テモカヒナイ事也打ハ助字也更衣ノ母ノ事思召ヤラル、也カクテモ―カクノ如ク更衣ハナクトモ源氏御成兼(人)ナサレハ可然時節アレハ東宮ニモセント也随分長命ニアレト被仰遣也念スルハカンニンスル也伊物ニ念シハビテカトアルカン忍セラレヌ事也ノ玉ハスハ人ヲ以テ云ハセラル、也ヒタモノ被仰遣也カノ―里ニテ命婦モラウテクルヲクリ物也楊貴妃ノスミカラ臨ゴウノ道士トテ仙術ノ幻(ゲン)者楊貴妃ノ魂(タマシイ)尋ユク事長恨哥ニアル也尋イテタリケレハ尋出テアリケン也テアタニ反(カヘル)也其

【三五オ】

法シガ取テカヘルカンザシハ直(ジキニ)楊貴妃ガ道士ニ渡ス也直ニ手カラ渡ハヨケレドモ此ノカハト、云間ニヨカラウニ是ハ更衣ノ母ガクル者故カイナヒト也アノトニ心アママル也カイガラウニト思召也楊貴妃トハイヤウ違アルト也「尋行―カノ贈モノゴ覧ナサル故出来タ哥也マボロシハ幻(術)者ノ幻ヲマボロシトヨム事也幻ト云者ハ人ノ魂ヲヨビテ来火ヲ飲水ニ入ル術スル事也モト天竺カラクル事也カラニハ幻アル也此デハ更衣ノ魂尋ニ行幻アレカシ也法シガ人ズテニテモ魂ノコ、ニアルトシリタイ幻ノアレカシトアトヘ立カヘル也繪ニカケル―コレモ◇(十六丁ウ)此比アケクレ御覽スル長恨哥ノ御繪―トアルソノ繪ノ事也楊貴妃ノ繪ノ書タガソコニアルガイミジキハ

イマノシイ也ホメル処デモイミシイト云也元童クヒアル故物故極ホメルコトヲイミジイト云也上手ノ繪書デモ筆ニ限アル故二句ヒハボヤリトシテ生(イキ)タ様ニハカレヌ也大液ノ一長恨哥ノ文(モン)也大液ノ芙蓉ハ如レ面柳<sup>ハ</sup>如レ眉ト長恨

## 【三五ウ】

哥ニアル也大液ハ華清宮ニアル池ノ名也芙蓉ハハチス也ミ事ナ色也未央ハ宮殿ノ名也未央宮ト云其未央宮ノ前ニ植ル楊柳ノヒラノタレル処楊◇(貴妃)ノマユニ似タ也ゲニソフアラント也通フハ似タ事也カラニ本トハ違名前ニヨイ故ニカラメイタルヨソヒハサゾウルハシクコソアルラメ也是例顛倒也アタマカラ楊貴妃ト出也是カラメイタルヨソヒハウルハシウコソアリケメドウモイミジキ繪師トイヘトモ筆限アレバト云ネバ聞エヌ也大液サゾウツクシカランガ筆限アレバカレヌトアトヘカヘル也ナツカシウナツカシハナレタイト云モトノ訓ナレドモ先モノホメル也ラウタゲハ苦勞ノ勞ノ字ヨイ也良亮ノ字モ書ドモ勞ヨイ也モノカアイガル事ニ源氏ニハ遣也勞シテカアイガ<sup>ル</sup>也カアイラシイ也花鳥一更衣ノカアイゲナルヲ思召出サルニ花ノ色鳥ノネニモクラブル者ナヒ也楊貴妃ハスグレタ美人トシテ大液ノ芙蓉未央ノ柳ニクラブルソレハ見ヌ也筆限アル故カレヌ也ソレハ見ヌ也更衣ハ生(イキ)テ直ニ見テアル故ニ

○顛倒如何曰楊貴妃一ウルハシウコソアリケメヨリ筆限アリケレバイト句ナシト返也ナツカシウヨリハ別ノ事也更衣ノ事也

○ラウタゲハ字多アリテモ勞ノ字ヨイナリコチヨリ苦勞シテヤリタイ也

○ナツカシイハ如何曰ナレツカシイ也モノ知ナ人ニハナレツカシイ也

○ラウタゲハ勞シタイ也ゲハカハイゲノゲ也ロウタクシ玉ヘトモアルカハ

イラシイト云意也

## 【三六オ】

花鳥ニモクラベモノナヒ也アチノハ大液ノ芙蓉未央ノ柳ニモクラブルガコチノハ花鳥ニモタグヘル者ナヒト也楊貴妃ヨリ一段ヨイ事云也朝夕一是モ長恨哥ノ文也在<sup>ラ</sup>天願<sup>ハ</sup>作(ナラン)ニ比翼ノ鳥ト在<sup>レ</sup>地願為ニ連理ノ枝トアル其文也朝夕云クサニ更衣トゼウ住被仰ハ天ニアラハ比翼ノ鳥地井才サ<sup>ハ</sup>連理ノ椽一ツイニナリテアラン◇(地ニアラハ)連理ハモト一ニシテ先テ行合ント被仰也思召様ニナラヌハ尽セズ思召也風ノヲト虫ノネニツケテモ哀シク思召也此物モ時ニ下地ニ愁アル故ヒトシヲ風ノヲト虫ノネニツケテモ哀シク思召也此物モ心ナヒ也タゞ哀イ也文ノカザリニ入也弘キ殿ハ更衣ノケンクハ相手也ネタミアル人也一ノ宮ノ母ゴ也久シク一初二◇(九丁ウ)御(ヲ、ン)カタノ御トノキナドモタエテシ玉ハズトアル天子ノ御愁故更衣召サヌ也上局ハノシノウヘ局也是ハルイ也召サヌトテ御機嫌伺ニ出ベキニ是俗ニ云スネル也天子ノヲ愁深イ程ナヲカクアル也月ノ面白ニ景色ヨイ時ニ遊ハクハゲン也時節天子ノヲ心ニアハヌ時故モノスガウ思召也イト

○十八丁ウ抄頭後撰哥イタヅラニスクル也隔句也ウカルハウクアルナリスグハスグルナリモノウクアル身ハイタヅラニスグルバカリナリ

## 【三六ウ】

一子細ラシイ事スルト思召也此比ノ一此比ノ天子ノゴ愁傷ノ様スミル上(ウヘ)人女房ハセウジウ上ル人也コ近処ニ仕フ女房也弘キ殿ノ被成テイヲカタハラハ弘キ殿ヲキノ毒ナ事ナサルヲ笑止ナ事ト笑也ナゼナレバ弘キ殿ハヲ后也更衣ト一段アル事ナレバナントモ思召ヌ也更衣死トテ楽(ガク)止事ナ

イ也大臣ノ死ハ廢朝トテ樂モヤメドモ是ハ更衣ノ下地ネタミアル故止ヌ也サ  
レドモ是◇(時)ヲ知ヌ也道理ノ取ゾコナヒ也(ヲ)ソコラニナル衆笑也イ  
ト一弘キ殿ノヲ生付也キツトシタ角ノアルギツトシタヲ生付也コノモノモ承  
上也ドコニアルモカミヲ承也ナンノソレ程ノ事コトデモナヒト思召也ケチテ  
ハケシテ也樂モスル也月モ一初ニ夕月夜ノヲカシキニトアルナカ二月入方ト  
アル此ニ八月モ入ルトアル此クハゲンシテアルモ其夜ノ事也「雲のうへへ」天  
子ノヲ哥也雲ノ上サヘカナシイ也更衣ノ里ノ母ハドノ様ニシテクラシヨルゾ  
聞マシイ也フビンナ事也此スムモ月ノスムト母ノスムト也此思フシヤリツ、  
モ哥ヲ承ケル也宿ヲ思召ヤル也

【三七〇】

灯一是モ長恨哥ノ文也秋ノ灯挑一尽シテ未レ能レ眠トアルカ、ゲハカキアゲノ略  
也カキ立ノ事也ギヨシナラヌ故ツ、クリトシテアル也愁アル時ハコンナ者  
也右近ノ司一兼(宮)中デハ四カラ七ノ間ネズノ番スル左近衛ノ司四九二時  
ノ間ナン時デヲトノキ申シテアルトヨバハル也右近ハ八七也右近ノナニガシ  
ト名無也(ハ)八也ヨフケル事ヲ云也司ハ官人◇(ノコト)也是モ命婦モド  
ル夜也イカウフケタ也返事ナド聞間ハニナル也人メ一アマレフケル故人モ返  
シテヲノレモ人ノ見聞如何故ヨルノヲト、ハ清涼殿ノカタト(ハキ)ニア  
ルソコニハヲ枕モトニ棚ユイシンシ宝劔アル此為ニ毎夜灯ヲトボシアカスト  
禁秘抄ニアル更衣ノ事思召故ネラレヌ也朝一ヨルハネテモマドロマレズ朝ヲ  
ヒナルモアクル也アクルモシラデモ長恨哥ノモン也春ノ宵(ヨ)苦レ短日高  
起從レ是君王不レ早レ朝(アサマツリコトセ)トアルソレヲ此(コ、)へ更衣生  
テアル時ハ明ルモシラズネタト思召也ヒ高ヲキル故アサ政キカヌ也更衣死

(○十九丁ヲ抄頭ニ或抄ニ箸ノ末ヲ折ハ直ニ折ヤ知ラヌコト也)

(○私考曰右近司ハ右近衛府ナリトノキ申トハ近衛ノ夜行トテ宮中ヲメグリ  
警固スル也侍中群要曰宮中ノ夜行左右近所ニ奉仕也中ノ重ノ夜行ハ左右ノ兵衛勤  
行從ニ亥剋ニ至ニ子剋ニ左奉仕ニ從ニ丑剋ニ至ニ寅剋ニ右奉仕ニ故至ニ左右ノ衛門ニ可レ奉  
仕省ノ夜行也藏人強不レ可ニ知行ニ云々)

【三七ウ】

シテモ猶一ハ夜入テマドロマヌ故シゼンニアサ得トネル又アサオキル事モノ  
ウイ故ニアサ政意也

十月七日第六座

○ものなとも一更衣ト一処ニギヨシナル時ハ日タケル迄キヨシナル故朝政意  
也今ハモノウイ故朝久シクオキ玉ハス今モ猶政意リ玉フ也モノハアガリ物也  
惣体禁中デハアガリ物ヲモノノト云其ヲノ字略シテ物ト云也朝餉ト云ハ  
日ノノヲ儀式ノ御膳也アガル御膳ニ非ス朝々スハル故朝餉ト云カレイ、ハ  
乾タ飯ヲ云旅ナドテカレイト云モタニナレハ朝ノ残ヲ持行ニシテ云也旅トテ  
必乾迄持ニ非ス旅ノ事故ニカレイト云也ナゼ禁中デ云ゾナレバカレイハカン  
ハント書是ハ儀式ノ膳故朝デハ遅ナハル故宵カラ盛ヲク武家ノ七五三ノ様也  
正フアガルモノニ非ス清涼殿ニ臺盤処アルソレニナラビ朝餉ノ間アルソコカ  
ラスエル是ニモ配膳ト云アル上中下アリ三通アリ取次スヘルスハリ御儀式ス  
ムト配膳ノ女中

(○私考曰アサマツリコトハ古毎朝南殿ニ出御ナリテ群臣百寮ヲノ／＼着座  
シテ万機ヲ聞シメス義也統故事談昔平城天皇御時マテハ此国ニモ朝政シ給ひ  
ケリ其儀式下文略々)

(○私考曰清涼殿ノ中ニ朝餉ノ間アリ天子ノ御膳ヲ此間ニテ朝夕供スル是ヲ  
朝餉ト云大床子ノ御膳トハ名別成へし)

（○又曰大床子の御膳ハ昔ハ常ノ供御ナリ朝餉ヨリ前ニ行ハル主上大床子ノ間ニ着御アリテ藏人ヲ物ヲ奏ス陪膳ハ藏人はヲツトムト見エタリ大床子ノ寸法延喜式ニノス大床子ノ御膳ノ事侍中群要ヲ引委）

## 【三八〇】

スハル箸ノ未折サス也毎日ノ御儀式也是ハアカラヌ也ケシキハ其儀式ト云ハシガ如シヨウダイバカリ也ソレハヲ手ヲフレル也大床子ト云間モ臺盤処ニ引ツゞキアル臺盤処ハヲトノキスル公卿女中ノモノクフ処也俗ニ云ハ飯臺（一）場ト云様也ソノカタ脇ニ大床子ノ間トテ是ハ天子ノ正フアガル御膳拵ル処大盤処ニ並也大床子トハコレハ天子アガル食物スヘル者ニ大ナ床机ニスヘ置也カリニモ臺盤処ニハ置ヌ也大盤処ハ臣下ノ膳置処也ソレ故朝餉モ大床子ノヲ物◇（ヲ）モ置ヌ也名前ニ大床子ノ間ト云アル也委事ハ禁秘抄セイキフ記北山抄ニ出也ヲ物ハホンニアガル本ノゴ膳也イトハルカニ思召トハ中々近アタリヘヨセ付ヌ也ハイ膳―男女ノ陪膳也陪膳ハ給仕人也給仕ノサハイシテ我ハ直ニセズバテ支配スル人モ陪膳ト云正フ直ニ勤ル人モ陪膳ト云陪膳ノ字ハ膳ニ付也ミケ色ミレハ此方ニ心苦也スベテ―是ハ男女ニ限ラズ近ク御奉公スル内侍ノカミノ内侍ノ助ノ男デハ天上人（ヒト）也陪膳ニ限ラズ一切ノ人（ヒト）故スベテト云也イトワリナキハドフモ割ニワラレヌ也セウ様モナヒト嘆（ナゲク）

（○キコシメスノ訓如何曰タゞクフ事也下ヨリアガランカト云ヲキク也メスハキクニ付也召コトヲ奉ルト云様也モノ聞事モキコシメスト云同事歟曰然リ）  
（○臺盤処ハ清凉殿ノ中ニアリヤ曰然リ清凉殿ニ附テアル也ソレヲ皆清凉殿ト云常ニコザル処也）

（○抄ノ説異ナルニ似タリ如何曰或抄云々是朝餉也小クゴハ大床子ノヲ物也

其様ニ毎々アガルニ非ス朝餉ハ義式ハカリ也大床子ハ表ムキ（一）アガリ物也其中小クゴトテ内々ヲ好ノ物アゲル事アル也此抄物心アル也今モアカル物ハ定アル也尤昨日上ハ今日ハアゲヌ也）

（○西宮記ハ西宮左大臣高明ノ作也延喜ノヲ子コノ源氏ノヲ子也二十卷モアル抄ニナシ北山抄ハ大納言公任作也大学者ナレトモ此書誤アリトゾ今モ抄アリ両書似タ物也カサモ同程ナリ）

## 【三八ウ】

也互ニ云合テアル也サルヘキ―是ハ割ナキワザ哉ト云合シテナゲク男ノ内侍ノ助トクセンノ類ノ云合ス詞也ソフアルベキ約束過去ノ因縁カト也ソコロノ―是モ皆云合シテナゲク詞也ソコロハ大分ノ事也万葉ニハ巨々等（コ、ラ）トアル也惣体詞ヲコエデ積事少ナキ也和訓ハトフゾ知レニクイ也但字ノ通ノ和訓敷シレヌ也コヽラトソコロト同事也ヲコソトノ五音通ズ多ノ事也大分ノ人ノ譏（ソシリ）タリ怨ヲ心ニ存モハゞカラヌ也此―更衣ノ事ニカヽル事ニ於（ヲヒ）テハ道理―◇（五丁ウ）後ロフ殿ニモトヨリサムラウ（ヒ）玉フ更衣ノ曹子ヲホカニウツサセ玉テウヘ局ニタマハスト云様ニムタイナ事ヲシテ更衣ニ遣也今ハタ―ハタハマサニ也又ト云テモ大事ナヒ助語也強テ心ナヒ也セ上ノ間ノ事モ一向ニステ表ヘヲ出ナサル事ナヒ也素ヨリ深フ物モアガラヌ也ナリユクハ漸々ノ道理アル也イト―タイヽハ退クト云字ノ心也コレハイヤナ事ジャト云様也天子ノアノ様ニ被成ハイヤナ事ジャ此ヲ退タイト云様也我身ヲコンナ◇（ハルイ）処出タイト云ヨリ出タ事也人―

（○得選ハ官ノ名也女孀ノ上ノ老女也女ジユハコヽノソウヂ坊主ノ様也輕イ者也得センハ其上ノ奥坊主ノ様ナ者也職原抄ニ出）

（○ハタト又ト通ヤ曰同様ナ者也心ナイ也）

（○タイ／＼ハ訓（音）ヲ以説ヤ曰然リ源氏ハ音ヲ以云コト多シコレラニ訓ハナヒ也此バニヲリトムナヒト云様ナ者也）

【三九オ】

楊貴妃死ナレ玄宗ノ位スベル事ヲ云也モトヨリ長恨哥ヲ入レ書故也サハハチヒサイ事也云々此ハ小声ニ云事也大声シテハモトヨリ天子ノ事ナレバ云又也内々ニ氣ノ毒ナト云也月日ヘテ―彼源氏ノミコ◇（八丁ヲ）カ、ルホドニサムラヒ玉フレイナキ事ナレバマカシメ玉ナントストアリ更衣死ヌルイミ服アレバ禁裡下サンシテ里ヘ出アル月日ヘル故ニ参内也イト、久フ御覽◇（ナ）サレヌ内ニイト／＼此世ノ物ニ非ス人間ノモノト見エス神（カミ）ノ様也キヨラノラハ付字也キヨラカ也ヲトナシウナレバユ、シウハ忌々（イマ／＼）シイ也合点ユカヌアノ様ニナレバヲ命モ短カラシカト思也アクルトシノ―更衣シナレ源氏参内シテアクル年也称名院ノ御説ニハ三年ノ服アキテアガル三年ノ服ナレバアクル年ハ六ノ歳ト云ソレハアシイ也是ハ月日ヘテトアレバ三年ヤラ知レズ小兒ナレバ必三年ノ服ニハ非ズ無服ノシヤウトテ古服アル時モ服一月忌三日ト云様ナ事故子ノ親ノ服却モソノ事也ソレハ大人ノ事也是ハ四ト見テヨイ也此ヲ六ニ見ル子細モアルハ先ニ源氏ノ祖母（ハビ）死時モみこむつになり

（○オヨスケハ如何日訓センギスレドモスマズ心ハヲトナビルキ也先及プト云心ハアル也セイ人ニ及カ、ルキミ也万葉ニハ及助ト書助ニ非ジケハケシキノケナラン）

（○抄名院ノ説ハ五歳トハ前三歳故三年ノ服ニシテ廿五ヶ月ニシテ五歳也先ノ六ニナリ玉フト云ニヨクアヘトモ小兒ニ三歳ノ服ナシ親死時ハ三年ナリ子ハ服三月忌三日七歳未滿ハ服ナシ忌ハ三日ナリソレ故七歳ミマンノ子ニ服ア

ランヤト云ニ無也今モ無也為親三年忌五十日ハ延喜以前以後トモ其通也初ハ不知延喜ノ時此センギハナシ子ノ事ノミ也子ハ無服（ハビ）ノシヤウ（傷）ト云ハ令ニ出也此時源氏ハ●月日ヘテ若宮参リ玉ヌトアレハ三歳四歳シレズ）

【三九ウ】

給としなればこの度（たび）は覚ししりて恋なき給ふト云ガ此年故ヲクノ六ト云ニ能合様ナレドモ六ハ六也此ハ四也坊ハ東宮坊ノ事也東宮定リア二ノ宮東宮ニナル故源氏ヲ兄ゴ打コシテ東宮ニナサレント思召也外セキニシカトシタ人ナク一ノ宮ハ大臣ノ外威故慥ナルガアル故源氏ナラヌ也ウケ引ハ承キ引也ナカ／＼ハ却（カヘツテ）也却テ危カラント也東宮ニセバ毒ガヒノ呪咀（シユソ）ノト云事アツテ却テ危カラント也色ニ出シテモ危故出サヌ也サバカリト云カラ世間ノ評番也ソレ程ニ更衣ノ事思召源氏ノ事思召ドモ限アツテ一ノ宮ニ進ゼラルト云也女御ハアク后也御心オチキ玉ヌトハアンドスル也カノ―更衣ノ●母也源氏ノ為ニハ祖母君（ハビキミ）也此ニヲバト云ハ祖母（ハビ）ノ事也惣体源氏諸方ニアル紫ノ上ノ祖母モヲバトアル源氏ニ限ラズ拾遺ニ源ノ重之（シゲユキ）ノ母近江ノコウニナルニ孫ノ東（アツマ）ヨリノボリテ祖母ノ方ヘヨラズニ件事アル此タビハ用事（ニツキ）エヨラズト云ニオハノヨミケル「オヤノ親ト思ハマシカハトヒテマシ我子ノ子ニハ

（○カキリトハ如何日思召ヨリノハテシナイナルベケレトモ限アル事ヨト云ナリ）

（○拾遺雜ノ部也）

【四〇オ】

アラヌ成ヘシトアル是モ祖母ノ事ヲバトアルナゼナレバオハバ也母ノ大キナ





（○アタマカラ誰ト云テハスマヌナリテンドウナリ）

【四一ウ】

スハ源氏ノ彈（ヒク）ト聞タガル也スベテスベテ源氏ノ君ノウヘノ事云ツ  
 ヲケレバゲウサンニシテウタテハ甚シイ也イツハリニモ思フベキ程也其比  
 其比ハ延喜時分ニ當ル延喜ノ時分高ライ人クル事アル其事思ヒヨセ書也延喜  
 ノ帝相スル事アリ帝ノ声聞是ハ此国ノ帝王也上モナヒ御聲ト云ハイカウ恥ル  
 ト云也其御子高明親王ノ聲キ、才智スグルト云天神ト時平トヲ聞テ是ハ才  
 智スグル相争テ家亡ト云貞信公末座ニアルヲ聞テ是ハ小国ニ相應ニテ繁昌ス  
 ト云也日本ノハン昌スコマウドハコマヒト也高ライハコマト訓ズ高ライ人參  
 レルガ其ナカニ也カシコクスグレル人相人アル天子キコシメシテ也宮ノ禁中  
 ニ召シテ源氏ノ人相ミセタケレドモ宇多ノ帝ハ延喜ノ父御故父ノ御ユイ戒故  
 ニ也寛平ノ遺戒（ユイカイ）ト云アルニ冊アル也今ハヤウノ二三篇アル也  
 其中ニ外蕃之人必可召見者在簾中見之不可直對耳ト◇（云文）アル  
 事也外

（○ウタテノ訓如何曰ウツリノ也此ハ甚キミナリウタハ前ヨリ甚ニ非ス  
 前ノ通ナル也カハラヌ也古今聞書春ノ部ニアリ）

（○此相人事統世ツキニ出歟不覺）

（○寛平遺誠トリアツメ四五篇アル也ナニカニ引テアルナリ輯ニハナヒ也私  
 ニ紙四五枚アル面白延喜位ニ即事天神ノヲカトアル也）

【四二オ】

蕃ハ外国ノ事也高麗デモ百濟（サイ）デモ也宮中ヘハ入レラレズ源氏ヲ天子  
 ノ御子トシラセズカクシテ鴻廬館ハ高ライ人ヲク役処也隔句アル相人アリ

ケンヲキコシメシテ宮ノ中トハツヅカヌ也キコシメシテイミジウ忍テトツ、  
 ク也ナカノ宮ノ中ヨリアレバ迄ハ隔句也此句ノケテハ聞エヌ也句ハカウツ、  
 ケドモ心ハ宮ノ中ヘ召事ハイマシメアレバ也御ノ源氏ノウシロ見ヲモリノ様  
 ニシテ也ダチテハ此物語ニ多也御後見メキテヲダチテト云也右大弁ハ七弁ト  
 テ七人アル也中ニ權一人アル也中テハヒキイテ也ツレテ行也將軍モ軍ヒキキ  
 ル也ツレユク也奉ハソソクケウシテ引キテ行也相人ノ高ライノ相人源氏ヲ見カ  
 ウベカタムキ思案スルナレドモ合点ユカキ也（スト）シアンスル是ヲ貴人故  
 ニヒタト辞宜スルト云ハ非也古イ説也ソレニ及ヌ也タバシアンスル事也枕草  
 子ニモモノ思アンスル事カタムキトアル国ノ是カラ源氏ノ相ノ事コマヒト  
 云也クニノヲヤハ天子也天子ハ民ノ父母故天子ハ国（クニ）ノ

（○私考曰鴻廬館ハ玄蕃寮是ヲ司ル今ノ平安城ニテハ七條朱雀ノ東西ニアリ  
 シト也云々）

（○私考曰大政官ノ長官（カミ）ハ大臣也次官（スケ）ハ納言也判官（セウ）  
 ハ少納言左辨官右弁官也主典（サクハン）ハ外記左史右史也）

【四二ウ】

ヲヤ也何分天子ノゴ相ノアルヲ人ト云也ソナタハ天子ニナシ奉テ其方デ見タ  
 時ハナンゾヲ禍出来ベキ事也又公ノ撰政関白ニ成輔佐ノ臣ニシテ見レハカ  
 タメハホサ也此又二説アリ抄ニ引也ホサノ臣ニナラハ乱レ愁ル事ノ相違セン  
 ト云ソノ説アシイ也又其相トハ天子ノ助ケトシテ見テモ實ニ撰政関白デモ  
 シマハヌト見ユ其相違フト云此説ヨイ也是ナゼナレバ源氏ハミホヅクシノ卷  
 デ内大臣乙女ノ卷テ大政大臣必竟大（）上天皇ノ尊号コフムル初ハ内大臣  
 大政大臣ハホサノ臣（シン）也後ハ太上天皇也此号秦ノ壮襄王ヨリ初ル秦ノ  
 始皇帝親ヲ大上皇ト云也スベテ天子ノ親ノ事ヲ太上天王ト云事也源氏モ天子

ノ親御分ニナリダ上天王ノ尊号蒙ル故ニ又其相違故ニ合点ユカヌト相人アマ  
タタビシアンスルナリ弁モ源氏同道シテ行唱和シテ文作アフ也互(タカヒ)  
ニ詩作文作アフ也右大弁ハ大政官ノモノ書文筆デナケレバナラヌ役故学オア  
ルハヅ也コマ人( ) 帰ル故

〈○二十二丁ウ抄頭サヘ一禪ハ清ト如何曰濁テヨシサヘナレハスムベキ也サ  
レトモ濁リ来也濁テヨイト云子細ハナヒナリ〉

## 【四三オ】

カクカクノ如クアリニクイ源氏ノ様ナ相ガウ遂ニ見ヌ也是モンノ字ヨミケ  
ス也タイメトヨム也カヘツテハ結句也文ニ詩ニ作也ミコモ一是ハ源氏ノコマ  
人( )ヘノ和韻ト見ユメデルハ愛スルキミ也イミシキ一高ライ人ガ何角ケ  
ツカウナ物源氏ニ奉ル此事ハサキニ出也天子カラモ相人ニ物被レ下也玉スハ遣  
サス也自一コ、ガ顛倒也自(ヲ)事ヒロコリヨリモラサセ玉ネトモカ聞エヌ  
也モラサセ玉ネドモ自事ヒロコリテトアトヘ立カヘリ見ル也春宮一兄一ノ宮  
東宮ニ立故ニ右大臣ハアク后ノ父也イカナル事トハ又東宮ヲ立カヘ源氏ヲ東  
宮ニモナサンヤト也ミカト一是ヨリ先ニ源氏ヲ日本ノ相人ニヲ見セナサレ丁  
ド高ライ人ノ相人ノ云様ナルヲ兼テヲ聞ナサレアル也ヤマト相ハニツホンノ  
相人也オホセテハヲ、セツケノ事也天子ノ親王ニスマイ源氏ニセント思召也  
今迄一今日ニ至迄ミコハ親王ノ事也親王宣下アレバミコニナル事也親王ニナ  
レハ東宮ニ近東宮ニモセンヤト右大臣

〈○心バヘ如何曰心ナシ〉

〈○モラサセ玉ハネド自ト顛倒也〉

〈○オホキオト、如何曰大祖父大臣ト書〉

〈○オホセテヲ抄ニ試ト如何曰被仰付ニ非ヤ曰課役ノ心也先ノ人ニモタレカ  
ル心故オホセツケラレノ心ナレドモ即試ミルナリ〉

## 【四三ウ】

家カラノ疑アル親王(ミコ)ニセヌト思召ニ高ライ◇(ノ相)人モ上手也ト  
思召ヲ覚合ハ前ノ大和相人云ト此タビ高ライ人ノ云ト合也仍テモトヨリ天子  
ニスレハ乱愁事アル故コナサレマイト思召也無品親王ハ童躰(ドウタイ)ト  
テ未元服セヌ先ニ親王宣下アル也アブナヒ故也ハ五品(ホン)故也親王ハ  
親ハ近ク也天子ニ近クオ、キミ也天子ニナルデナケレバ親王宣下ハナイ也天  
子ハ帝ト云其子ヲ諸侯王ニ準ス第一ト云ハ天子ニ親イ王(オ、キミ)也童躰  
ノ親王宣下ハ無品也(トテ)位ナヒ也◇(元服シテ)親王ニナレハ四品(ホ  
ン)也ソレカラ三品二品◇(一品)ト上ル最初元服ナサレヌ時ハ無品親王也  
外セキヨイハヨセ重ケレバ自(ヲ)其子ノ威勢アレドモ源氏ハ父大納言ナレ  
ドモ死ナレ母御モ祖母御モ死ナレ外戚ノヨセ重クナヒ故外戚ノヨセ無ト云也  
タ、ヨフハ漂泊也ウロタヘル也親王ナクシテモ結句ウロタヘル也我一天子ノ  
ヲ齡モ知レヌ我死シテアトハ弥タレ後口見ル者アルマイ也外戚(クハイセキ)  
ト点付是ハアシイト也ゲサクトヨム也手カケ也(ウ)ムヲゲシヤクハラト云  
ハ大ナ違也ゲ

〈○廿三丁ヲタゞ人ハ臣下也外卷ニモ多コト也親王ハタゞ人トハ云レヌナリ  
源氏ハ源氏ノ姓モラウ程故親王ニハ非ス〉

〈○私考曰天皇ノ伯叔昆弟皇子ハ親王宣下アリ異邦モ亦同シ只親王宣下ナキ  
ヲオシテ親王トハ申奉ラサル也一品已下四品已上ヲ親王ノ階トス其品階ナキ  
ヲ無品ト云異説ニ無品ハ五品ニアタルトハ非ナリ云々〉

〈○ケシヤクハ俗語也ゲサク也ケジヤクハラト云腹ト云事ナイ也〉

【四四オ】

サク也私ニ天神須磨ノ記ト云者アル外ニ無者也京カラ須磨ヘ流サレテ行間ノ記ヲカク紙十枚バカリアルソレニカナデガサクト天神ノ書テアル也無品親王ナレハ牢人ノ様ニタゞヨイアル故ヲノシノヲ命モ知レヌ故タゞ人ハ天子ノ御家臣トナレルハタゞ人也禁中ノ後口見シテ云ト補佐ノ臣ニスル也行ノ子孫ノ繁榮モ源氏ニナレバ頼モシイ也イヨノ道々ノ才ノ初ニワザトノ御ガクモンハサルモノニテトアル此ニ天下ノサ佐トスル故道々ノ才ハ諸道ノ学文也儒道老莊諸氏百家ノ学文博学ニスル時ハ才又キンデカシコクナル也タゞ人ハ凡人ニスルハイトアツタラモナイ也ミコト源氏ノ姓(セフ)被下臣下ニスレバ人ノ疑ナイ也ミコトハ親王宣下アレハ也ミコトスレバカノ兄一ノ官方ノ左大臣方ヨリ疑ヤマズ天下其道ノ疑アル也此モノハイツモ云通カミ承也世ノ疑ヲ承也新シイハモノヲシム事俗ニアツタラモノト云也新キニ出来モ新シト云訓ハア、タツタリ◇(ト)云事也ア、ハ嗟嘆也十分ニ

也  
 (○須磨記京ニテ安左衛門方ヨリ借ル珍書也聞エヌ事アリ古書故字ノ誤アル也)

(○廿三丁ウ抄頭ニモウケノ君トハ太子ニモウケヲクノ意歟曰然リ儲(ト)トヨマズ儲(一一)トヨム也)

(○アタラシト云テ惜ムハア、足タリシモノヲト惜ノ心歟曰然リ)

【四四ウ】

足ル事也新フ出来事ニタラヌ事ハナイ也フルフナレバカケル故也御コトノ親王ニスレバ左大臣家モトヨリ天下ノ疑負ハレン事故ニ宿一又弥大和相高ライ人ノ外ニ考人ニ考サス也宿ハ二十八宿ヨフハ九ヨウノ類星ミテ知ル陰陽家也陰陽家ハ風雲ノケ色星宿ヲ見天変地妖ヲ考人ノ禍福ヲ考ル故也カンガヘ

ハカフガヘトヨム也カンガヘトヨマヌ也同高ライ人大和相天モン道ノ人迄モ云コト同事也源氏一弥源氏ノ氏被下臣下ニセント云ヲキテ立也年月一是ハ源氏ノ母ノ更衣ノ事也是ヨリ先ニ其年ノ夏御息処煩フ処ニ初テ御息処ト出也其処ヲ云残也御息処ハ結構ナ者也后ヲモ云又女御ヲモ云也七条ノ温子(ランシ)ヱ(ハ)宇多天王ノヲ后也伊勢ノ家ノ集ニいつれの御時にか有けんおほみやす所と聞る御局

(○私考曰源氏ハ王氏流レテ源氏トナルトイヘリ是皆皇子皇孫ニ源ノ姓ヲ給ハルナリ姓氏録ニイヘル皇別トハ是也夫源ノ妃ヲ給ルコトハ嵯峨天皇ノ御宇ニ初リテ仁明文徳清和陽成光孝宇多醍醐村上花山以下ノ御後ノ源氏ナリタトヒ當代ノ天子ノ御子タリトモ源ノ姓ヲ給りてハ諸臣ノ列ニ加り給ふ也天子ノ御子ハ一世ノ源氏ト云御孫ハ二世ノ源氏トいふ也)

【四五オ】

に大和に親ある人さふらひけりトアル温子ノ事ヲ大御息処ト云即其伊勢宇多ノ天皇ノ御寵愛ウケテ女御トナルソレモ後撰ニミヤスン処トアルソレヨリ下ノ更衣也此タビ源氏ウマレ此物語ニ御息処トアルスレバ后モ女御モ更衣モミヤスン処ト云也天子ノヲ子ウムハ直ニ御息処ト云也一条ノ禪閣ヘ牡丹花間ニ曰先ケツカウナ者也源氏デハ天子ノ御子ヲウミタレバ御息処ト云ソウナトアル事也御息処ノ訓ハヲヤスミ処ト云事也時ニ天子ニ限ラヌト見エルハ六条ノ御息処ト云此物語ニアル是ハ延喜ノ未タ位ニツカヌ東宮ノ時也スレハ東宮ノ御内処北ノ方モ御息処ト云也東宮テモ御子ウメハ御息処ト云ト見ユ天子テモ東宮テモ御子ウメバミヤスン処ト云故也ケツカウナ事也ナグサム一若更衣ノヲ愁ヲ忘ナサレ慰事アラシヤトサルベキハヨロシカラウ然(シカ)アルヘキ人々ヲ参内サシテミレドモナズラヒ一更衣ニ

## 【四五ウ】

準ズル様ナモナイ也ウトマシウヨノ中ウトマシウ思召也此ウトマシハ世  
 (ヨ)ニ付也ヨノナカヲウトマシウ思召也先帝―是ハ桐壺ハ延喜ニタトフレ  
 トモ延喜ノ親ゴハ宇多也スレハ先帝ハ宇多ニ當ルサレトモ是ハ宇多ノ前ノ光  
 孝天皇ニ當テ、ヨイ也二代三代サキノ天子ノヒメミヤ也容儀ノヨイト云聞エ  
 世間ニ高ク世間ニナヒ様ニイツキカシジキホンソウスル也母ハ光孝ノヲ后也  
 ウヘーウヘト云ハ禁中ニ仕フル人也禁中ノ事ヲウヘト云也此内侍ノ助タレト  
 モ知レネドモ是ハ光孝ノ時分カラ三代奉公スル人也モトヨリ光孝ノ時カラ御  
 奉公スル故ニ年久クナレル也カノ宮ハカノ女メノ母御也親后ノ宮ヘ年来参リ  
 ナレル故此タビモ四ノ宮ハ藤壺ト云タ人也其藤壺ノ御幼少ナ時分カラ母宮ノ  
 モトヘユク故ニ也今モ―ホノト云ハ御幼少ナ時ハズカノハシ近ククル故見  
 ル今ハソフナヒ故ホノカニ見ルコチモ女ナ故ニ見ル也ウセ給―是カラ内侍ノ  
 助奏聞スル也ウセタ源氏ノ母御

〔○〕先帝ト云ハドレト知レヌ也先宇多天皇ナルベキ也如何曰ヲヤノ女ワガ妻  
 ニナランナリ〕

〔○〕カシジクノ訓如何曰不知カシコマルナラン親ガ子ヲ養ヲモカシジクト云  
 イツキト云モスマヌ也伊物ニハ人ノ女メノカシツクトアリ源氏ニ赤石ノ上ヲ  
 親ガカアイガルヲイツキ女メナリケリトアルスマヌ也〕

〔○〕下ノ見奉リテノテトマリ如何曰シモノエ見奉リツケヌニノニ當ルナリ〕

## 【四六オ】

息処ヲ三代奉公スレトモミヌ也三代―数代ト見ル説アレドモ三代ト見ルベキ  
 也キサノ宮ノ姫宮ハカノ前ニモ宮トアルキサキノ姫宮也イトヨウ―覺テハ  
 似タ事也更衣ニヨフ似テ御成人也セ間ニアリニクイヲ形人ソト也誠ニヤト―

是デフトヲ心ツク也似タト申上故若誠更衣ニ似タカト也是モ深フ更衣思召也  
 念比ニ母后ノ方ヘモライタイト被仰遣也母后―カノ母后ノ宮ガヲ聞ナサレア  
 ナハサタンア、ナアヲソロシヤ源氏ノ兄御ノ母御ノ女御弘キ殿ノガウハイニ  
 ナル也桐壺ノ更衣ノシナレタハアラハニ誰云トナケレドモハツキリト目ニミ  
 エ更衣呪咀デシヌルトアラハニ著(イチジル)シフ見エル也モテナスハ弘キ  
 殿ガモテナシテノケル也イマノシイヲソロシイヤト思召也スカノシウ  
 ハスクヤカニ早速返答セヌ也ト云母后モ死也姫宮バカリニナリ誰ウシロミル  
 人ナイ也兄御ニカ、リアルガ心ボソキ也天子カラ被仰遣ハ只ワキノ事ナリ此  
 方ノ女ミコ達ト同列ニシテ馳走セント也念比被仰

〔○〕サガナキノ訓如何曰不知ウキヨノサガハヨノ常ノ事也又サガハ悪也ト云  
 トカク不知先ハ二也サガハ悪(アシイ)事ウキヨノサガハヨイ事也サガナイ  
 ト云ハスメトモ悪イ事サガト云スマズ〕

〔○〕スカノトスムヤ曰神代卷吾心スガノハ清也今ソガ健ト云モノニヨリ  
 清心モアラン此ハ健也スコヤカニナラヌ也スクノシフト云コトアル  
 スク●ヤカスコヤカ通也〕

〔○〕思ヒ聞ノ聞モ心ナシヤ曰然リ〕

## 【四六ウ】

遣ト也ソレ故ニサムラフ―藤壺ヘ宮仕スル人也御(ミ)ウシロミ達モ後見シ  
 テ宮仕スル人又親イ一家ノ中デモ取持人也セウトハ兄御也ミコハ親王也此様  
 ニヲ心細フヲサビシクヲランヨリウチズミハ入内シテ禁中ニスム事也セウジ  
 ウ里ニバカリアレバ御爵滞アルベキ也禁中デハ大勢ノ人ニアヘハ爵散スルト  
 也此デ談合カワル也母后生テアレバト角弘キ殿ヲヲジシドモ自然ノ人ハソフ  
 ナイ也藤壺ト云御殿ヘヲ入也ゲニ―ゲニハ内侍ノ助奏聞シタヲ承ゲニマコト

初奏聞シタ通りフシギナ程似タ也。覺給へるハ似玉ヘル也。コレハトハ更衣ニ對スル也。更衣ハ家ガラモカルイ是ハ天王ノヲ子母ハヲ后也。人ノ思ヒナシ心イカウ違也。人ノ外ノ女中ナンボンシテモヲトシメアナヅル事ナラヌ也。更衣トハ違也。ウケバリハウケテツハハル也。ツハハリアフ事也。ツハハリアフハコケヌ也。天子ノ御寵愛ト藤壺ノ氏スゼウトコチラモ天子ノ御女也。コチラガ天子ナレバツハハリ合也。両方ツハハリアフテユク也。アカヌ事ナレハ不足

（○私考曰母后キサキトハキミサヒハヒノ異訓ナリトイヘリ故ニキサヒノミヤトモ申奉ルカ）

（○同兵部卿ノ宮トハ是親王ノ兵部卿ニ任シ玉フワイフ兵部ハ八省ノ中ニシテ武官ノ事ニアツカル故ニ帶劔シ玉フ職也）

（○藤壺事私考ニ委可考）

【四七才】

ナ事ハ少モナイ也。前ノ更衣トハ違彼ハ前ノ更衣ノ事也。天子御寵愛ナサレテモアレ程ニナクトモアレニアノ様ニ威勢アルマイ事ト云也。アヤニクハ物ノスリ違事也。人ユルサヌニ天子御寵愛ナサル程ナサル是アヤニク也。是ムツカシイ也。箒木卷デ云ガ聞易也。オボシハ藤壺ヲ入ナサレタレドモ更衣ノ事思ヒマギレルニハ非ドモ自（ヲ）ジネンニミ心藤壺ヘ移テコユル事ナリ。慰様ニゼンノニナル是哀也。此アハレハ更衣ニ付タ事也。サシモ更衣御寵愛也。死後ニハキヨシナラズヲ食モマイラヌ様ニアリ。當分ハ藤壺入テモソフナヒニ月日ニツレ漸御心ウツロフ様ニナルハシヌルハ哀ナト云事也。今モ云事也。源氏ノ君ハモトヨリ里ハナクナル様也。母モ祖母モナクナル故天子ノヲ側ハナレヌ也。マシテタダチヨノト往処サヘエハヅ（チ）アヘ給ハズ。况天子ノシゲク入ル部屋ノハドフモカクレラレヌ也。

（○アカヌノ意如何曰トコテモ不足也。源氏ニ多事也）

（○ワザナリケリトハ如何曰心ナシ多アル事也）

（○廿五丁ウおほいたるやハあるハ思ヒタルヤハアルナヒナリ）

【四七ウ】

ゼヒトモツレマシテ往故ニエハヅラレヌ也。此アヘモアヘテセヌ也。イツレノ一惣体禁中ノ女御更衣ハ器量ヲ以入内スル故ワルイハ上ヌ也。ソレ故イツレ也。皆人ニハヲトラヌスグル思召容儀也。トリノニイト可レ愛御キ量也。ウチオトナビハ此註アシイ也。トリノノ女御更衣ニ付テ見ルハアシイ也。是ハ隔句顛倒也。我人ニヤハアルトリノケレドイト若ウツクシゲニテト是カラ直ニ藤壺ヘツバケル也。藤壺ハヤウノ此比入内也。外ハ久アル也。其中ニ藤壺ハイト若ウウツクシイ也。上ノ打オトナビハドレヘ付ンゾ也。女御衆ノ様ナレドモアチラノオトナヒタハ云ニ及ヌ也。此ノ打オトナビハ源氏ノ事也。トリノ二目出度ケレド中ニ藤壺ハイト若ウウツクシイ也。源氏ノ打オトナヒタマヘルニ若ウウツクシゲニテセチニカクレ玉ヘレド也。藤壺ノ為ニハ源氏ハ●

【四八才】

継子（マ、コ）也。サレドモ源氏打オトナヒ玉フ故セイ人故ニ藤壺カクレル也。此デ能聞エル也。セチニハ親切ニ藤壺カクレントモ自（ヲ）源氏ノ見ル也。母ハ三歳ノ時死ナレタ事故カゲモ形モシラヌ也。イトノ前ニ内侍ノ助藤壺ハ更衣ニ似ルト云也。若ハ此アハレハカナシムキニ非ズ可レ愛也。ウツクシイ事也。常ニ母御ニ似タト云故ニ常ニ見タイ也。ナヅサヒハナレタイ也。是母御ニ似タト云バカリ也。母御ニ似タト云ニヨリテナレタイ也。又コドモ心ニ恋ノ心デモナフウツクシイ故ニ側ヘナレタク思召也。兎ドモ心ヲ能云タ也。側ヘユキナレタク思也。

○うへもー

親御ニ似タト云藤壺ノ容儀ウツクシイ故レンボノ情トナリ参リタイ也必竟非  
カレド非 (其心出来) ドモ今デハソフナイ也ウツクシイデヨリソイ

〈○セチハ親切歟曰然リシンセツコンセツ也ツトト通故カ曰然リ〉

〈○ナヅサイハナレルキミ也ミニ心ナシ側ニラレハ見ル也〉

〈○十月十七日第七坐〉

【四八ウ】

タイ也天子ニモ限ナキ御思ヒドチハ同志 (トウシ) 也相互ニ思ガ同志ナレド  
モ是ハ用力ヘ両方同様ニ思召ニ遣同事也両方同程ニ思召也ナウトミ一ハ勿  
(ナカレノキミ) 也万葉ニナイ、ソナ、キクト云ニ上ニ勿レト書ナカニモノ  
入レ下ニバクト書コレ書ハ勿疎莫 (モツソバク) ト書様ナ者也ナモ下ノソモ  
下キ知ノキミ也前ニゲニ御カタチアリサマアヤシキマテゾオボヘ給へるト云  
ハ不審タツ迄藤壺ト源氏ト似タ也此 (コ) モフシンタツノナレドモ前ノハ  
フシン強也是ハ軽也ドウシタ事ゾ両方ヨソヘテ両方同断ニ思ハイイトカルウ  
被仰事也ナメシハ無礼也今日テイノ人モノ云遣ル人ヲナメタト云モ是ヨリ出  
ナメシハモトナメラカナト云事也ナゼナレバ高イ人モ我同断ニ云ハナメル也  
平ナト云ヘイノ字ヨマス也字ニハ無礼ノ軽 (カロン) ズルノト云字入ル本ハ  
平 (ベウ) 等ニアイシラウ也藤壺ハ源氏ノ継母故ニ無礼ニアイシ

〈○ソハ疎也ウトンズル也ナモノモ皆下知也ナハ勿レ也下知也勿レハ禁止ノ  
辞即下知也〉

〈○ナメラカハ平ナ事也ヤ曰滑ハ平ナ意也滑ナルハスベ／＼スル也高卑アル  
ハスベ／＼セヌ也ソレ故ナメラカ也〉

【四九オ】

ラウマイ也ラウタウハ勞タク也勞スル也タクハ見タイノキ、タイノタク也勞  
ハイタハル也身ヲ勞シテ先 (サキ) ノ人大切ニスル也ツラツキー今日テイデ  
ツラト云ハ人アナヅル事デナケレバ云ネドモ此物語ハカホノ事ヲツラ／＼ト  
遣アル也マミハ目ノ事也マトミト五音通ス目 (メ) 也ミルモメ也メツキ也マ  
モミモ皆メノ通音也人ノミケンノ事ヲミケント云モメ也マハ目也ミモ目也ミ  
ルト云事デモナヒトミユ藤壺ト源氏トヨク似ル也カヨヒテ一此カヨヒテモ此  
抄ニハソフタイ此物語ニニタ事ヲカヨウ／＼ト書ソレ故藤壺ト源氏ト容貌似  
ルト註アレドモソフデナイ也是ハツラツキマミナドヨフ似タ故実ノヲヤゴノ  
様ニ似タ也モト継母継子ナレドモ実ノ親子ニ似タ様也ソレ故下 (シ) モニニ  
ゲナカラズトアル不相應ナ事デナイ也 (ト) 也ツゲト濁アレドモイ、ツケル  
様云付ナリ

〈○カヨヒテハヲヤゴニ通ヒテ見エル義歟曰通ハ似タ事也ヲヤゴト云ニ似タ  
ト也ヲヤゴト云テモ似アハヌニ非スフソウ心ニナイト也〉

【四九ウ】

オサナーコ、ガ上ヘノ云カケハ藤壺ヘ被仰付様也下モノウケハ源氏ニ被仰付  
様也ナウトミ玉ヒソナメシトオホサデ勞タクウシ給ヘカハイガツテヤツテクレ  
ナド藤壺ヘ被仰様也オサナーコ、チニモーハ源氏ニ被仰様也是ハ勞タクウシ玉ヘ  
ヲヤゴト云テモ大事ナヒト藤壺ヘ被仰付ヲ源氏ジツト聞アル也源氏側ニヲイ  
テ被仰故オサナーコ、チニモ也ニモガ働 (ハタラク) 也源氏ノ幼ナ心ニモソウ  
ジヤト思召也ハカナキー春ナレバ花ヲ折歌ヲクリ紅葉テモ折哥ヨミ贈ル也極  
タ作法ナシ花紅葉見エ来時也ハカナキハナンノ用モナヒニ也花紅葉ーナン十  
折デモ心ザシーミセ玉フ也コヨナウハコエル事モナク心ヲヨセテ平生往来ナ

サル也聞エモ心ナヒ也コトニヨリモノ云事モ聞エト云事アルコヽラノ聞エハ文(ブン)ヲノベテ文カザリウツクシクミセン為ニ云ナリ云バ此ラモ語ノ助也コキ殿―又嫉妬也初メノ更衣モシツト故不和(フワ)也

〔五〇〕  
 (○ハカナキトヲクハ如何日ナンデモ無事ニモ也ツイ花ヲクリ紅葉ヲクル也極タギシキ事デモナイ也)

(○ミセヲミエトハ如何日ドコテモ也伊物哥ニ夢ニダニ見ユトハ見エシト是モミセジ也五音モ通也今哥ニモアリヨムヤ曰然リミセジトヨムモ大事ハナキ歟曰然リ)

【五〇オ】

此タビモ藤壺御出頭故ニ又此宮トモ―也ツハシキハマ正面ニハ應對セズツハハ脇也脇メシテミルハグ／＼ニナル也源氏下地ヲ更衣故悪ミアレドモ一旦更衣死後ニ天子ツレラレミスノ内へ入レ和睦シテアレドモ又藤壺ト源氏ナカヨクヒタト往来スル故ニ下地ノニクサノ上へ打ソヘル也物―ハ心ナヒ也ヤミ承云也エト思召也世―是ハコキ殿ノ姫宮違也ヲ二処アル名―高容儀ヨイ聞エアル也是ヲ名高ヲハスル宮ト云ニ付テ藤壺ノ事ジヤト云説アレドモ藤壺ノ事ハ先ニアル重復ニナル是ハ弘(コ)キ殿ウム姫宮御兩処ト見テヨイ也猶―句ハボヤリトシタ処コキ殿方ノ二処ノ姫宮方ニハタトヘラレヌ程ニウツクシイ也世ノ人―此物語デ源氏ノ名光ト云様ナレドモソフデナイ也世ノ人云ハ人云也イミナヲヨノ人云ベキニ非ズアマレ美男故ニ光君ト云也藤壺―藤壺立并ハ源氏ト也御覺ハ天子ノ思召入也源氏モ思召藤壺モ思

【五〇ウ】

召也トリ／＼ハニデモ三デモ也源氏ヲ光藤壺ヲカヽヤクト云御容儀ヨク威勢

アル故ニ称美シテ云也源氏物語ハ先例ヲヤヤト(フマヘ)書也上東門院ハ一條ノヲ后也藤壺ニナル御威勢アル故カヽヤクト云也ソレヨリ以前ニ此例ナヒ也此ニ藤壺ノ事書時ニカヽヤクヒノ宮ト書也源氏ノ法ニテソレヨリ先ノ事デナケレバトラヌ也是ハ上東門院ノ事取出シテ云ハスレドモ其例デ書トハセヌ也ノシノ主人故コレへ出シテカフ書イシユハアランソレハ知レヌ也此聞ハ云也此君ノ―此君ハ即源氏也御ワラハスカタハ童形(トウグフ)ト云テ元服セズ冠セヌウチハアゲマキ総角トテ兩方ノ額(ヒタイ)テユフ也カラコワケト云者也今モ堂上方ハ御前へ出ハカラワ也内々デモソウシテアル也コヽラノ児(コ)ドモノカミノ様ニハセヌ也本ヨリ長イ髪也裝束モカハル也カヽマウクハカヘルガウイ也下ハ助字也イトハカヘルニカラ入レル也キツウカヘウイ也十二ニテ―カラデモ十二歳デ元服スルコト大概例トミユ

(○抄ノ頭書ニ女院トアリニヨウキントヨムナリ)

(○抄曰上東門院薄雲ノ女院ト同殿ニマシ／＼シ故ニカヽヤク日ノ宮ト云トアリサレハ上東ヲ指ヤ又薄雲ヲカヽヤク日ノ宮ト云ヤ曰兩方トモ云ナリ薄雲ト云ハナキ人也式部カ主人上東ヲカヽヤク日ノ宮ト云故ソレヲ借コヽヘ云ナリ)

(○唐子ノワゲ故コノ名アリヤ曰カラワゲ也ワラハノ訓如何日不知)

【五一オ】

年十二年ニシテ一周スル故天道モ一周也人モソレデエトナドマワルカラ天子十二歳ニシテ元服スルト淮南子(エナンシ)ニ見ユ日本デモ十二歳デ元服スル例抄ニ書出ナラン十二歳ニシテ天道一周スル故元服スル事也元服ト云字ハ今日俗ニハアタマソル事云ドモソフデナイ也前漢書ノ昭帝(セフダイ)紀ニ師古カ説クハシ元ハカウベナリカウベニ服スル也カムリ着(キル)事也爰元

デ元服ト云モ成人ノ初故ツムリ剃(ソル)事元服ト云ト見ユアノサカヤキト云コトアタマソル事云アレハ本武士ノ事也町人様スルコトニ非スアレハカブトキル為也乱髪ハ目ニカハル故サカサマニシテ焼(ヤク)ナリソレヲ後ニ剃リソレヨリイト鬢(ビン)ニモナル也村上彦四郎アナアツヤトテ巾(キン)ヲ取レバサカヤキノアト白ノト云也信長(ノフナガ)時分カラ專イトビンニナル事アリキ立一立タリ居タリシテ天子御苦勞ナサレテ元服ノ用意ナサルハ也限アル一天皇元服ハ天皇元服東宮元服ハ東宮元服ト親王ハ親王一セノ源氏ノ元服ハ一セノ源氏ノ元服ト限アル也

〔○廿六丁ウ抄頭十二ヲ一周トストハ十二支ヲ以云也〕

〔○私考曰元服トハウキカウフリシタマフ義也兼道云伊物ニウキカウフリシテトアル是也〕

〔○村上カ事太平記ニ出コレヨリ前シラズ白ノト云バソルト見ユ古キ事ナリ〕

### 【五一ウ】

源氏ハ一セノ源氏故親王ヨリ落也作法アル上ニ猶事ヲソヘ東宮ニモ親王ニモヲトラン様ニスル也ヒトハセノ一前カド兄(アニ)東宮一ノ宮ノ東宮デ元服スルヲ東宮元服ト云也元服ニモソノ処ノ作法アル東宮天子ノ御若年デ元服スルハシシイ殿デスル親王一世ノ源氏ハセイ涼殿デスル此東宮シシイ殿デナサルソノヨソヲイ也ヲシカリシト云デビシイ也ヨソヲイハ躰也ヨソヲシデ用ニナル也ヨソヲイガヨソヲ業(イ)ラシイ也ヨソヲシデ用ニナル也ソレ故ヒバシイ事ヲヨソホシカリシ御ヒギキト云也少モ南殿デ東宮元服スルニヲトラヌ也処ハ清涼殿デスルコレ義式アル事ナレドモ其作法ハヲトラヌ也処々ノ一是ハ源氏ノ元服ノ御祝義(シウギ)ニ禁裏カラ饗応ヲ役処ノ被下也藏人

処ヘハカウ殿上ノ間ヘハドフ東宮ノ助ノ方ヘノ料理ハカクト饗応被下也ケフヲフノ事ヲ藏司(クラツカサ)ハ藏リヤウ也藏寮ハ天子ノ御用ノ物入レアル也諸国ヨリ上ル金銀珠玉此様ナ時ニ用モノモ入ル頭

〔○私考曰東宮親王諸王諸臣其程ノニテ元服ノ時加冠理髪ノ人モカハルベシ但此外ハ源氏ノ君清涼殿ニテ元服ナルヲ春宮ノ元服南殿ノ規式ニヨソホシカリシト也〕

〔○又曰南殿ハ紫宸殿也天子南面ニオハシテ万機ヲ行セ給ふ正殿(ミアラカ)ニシテカリニモ雜事ヲ行コトナシ南ニ向ヒ北ニ拱クノ心ニテ南殿トモ云北辰ノ罷処紫微宮ニヨセテ紫宸殿ト云〕

〔○又曰所ノ饗ハ親王大臣大中納言參議散二三位以下ニ饗ヲ給ふ所ノヲ云内藏寮穀倉院饗ヲ儲クル也此事春宮元服ノ儀式ニアリ〕

### 【五二オ】

助丞左官アル中務ノヒ官デ宮中ニアル也ゴクサウ院モ禁裏ノ米入レアル天子御内々ニツカフ米也ヲモ立ハ民部セウノ処ニアル也是ハ数々様違事也長事也重テ云ベシ公(オホヤケ)ハ天子ノ事也上ムキノ事ニスレバツトシテシシミリトシタ事ナイ也ソレデハ往ワタラヌ事也シシミリトシテ事アルマイト各別ニ作事アリテ平生ノ様ニザツハニスナ也キヨラハラハ助字也キヨラカニシテ也キヨラカヲ尽シテツカウマツレ也文長フノベタ者也ヲハシマス殿ハ清涼殿ノ中ニ日(ヒ)ノヲマシト云アル御内々ノ表(ヲモテ)ト云フル奥(オク)ハ又カク別ナリコレハ清涼殿ト云事ナリハツトヲハシマス殿ト云ハ清涼殿也此中(ウチ)ニカク別ニヲキマシ切テアル也三方表ノ御殿ナリ是ハ東向ト見ユ東ノヒサシアケル故ニ東向正面故ニ椅子(イシ)立テ天子ノ



（○廿七丁ヲ抄一世ノ源氏ハ天子ノ御子源氏ニナル也其子ナレバニセノ源氏也三世（<sup>ニ</sup>）ト云名目聞又也云ソウナ者也外ノ姓ニモアリヤ曰凡氏被下ハ後代ハ皆源氏也源氏物語ヨリ後ハ源氏ヨリ外ノ姓ナヒ者也平氏橘氏前ノコト也嗟峨以来ナヒ也源ハヨイ字也アトヘ長テヨイ也今親王ニ姓被下事アリヤ曰無親王ニスルコトサヘナラヌ関東ヨリ家立サセヌ也皆法師ニスルナリ）

（○奥御殿ハ多ナリ拾芥（ガイ）抄ニ出ナリ）

【五二ウ】

御坐（ゴザ）拵トノコシタ者也東ムキニテ切（キル）也イシハ今日云イス也キヨクロクヨリ卑（ヒク）クベツタリトスハル様ニシタ者也イシ立テト句ヲ切テ椅子ヲ天子ノ御座（ゴザ）トシテ其前ノ方ニ冠者（クワンザ）ハ源氏ノ事也今元服スルラクハザト云俗ニクワン者ト云也引入レノオトトハ元服親（ヲヤ）ノ事ヲ引入レト云也元服スルト唐子ワゲニ結（ユフ）テ髪ヲ一ツニ束ネ頭ノ頂（イタ、キ）デ結（ユフ）也百會キワデュウ也マツサカサマニ立テソレヲニ折ソレヲ紫ノ組絲（クミイト）デマク也平生ハ簡略デ今ハ紙（コヲ）ヨリデ結／＼ソレヲカムリノコジノナカヘ入レル也ソレデシメル引入レトハ髪ヲコジノナカヘ入レル故云ナリ元服ヲヤノ座ハ左クワサノ座ハ右ニラク事ナリ御前―天子ノ御前ノ方ヘシテソコデ元服ノ儀式取行◇（コト）也サルノ時―コレモ例ノアル事也猶抄ニ出難（延）喜ノヲ子ノ盛明（モリアキラ）親王元服ナサル時サルノ時ニゴザルト云ソノ例デ書也申ハ七時也ミヅラービンヅラ也

（○私考曰倚（イ）子イロ／＼アリ黒柿螺鈿平文（ヘウモン）等ナリ南殿ノ元服ノ外御（ゴ）倚子ヲ立給ふ事なし延喜式木工寮大倚子一脚高一尺三寸長二尺廣一尺五寸小倚子一脚高一尺三寸長一尺廣一尺三寸）

（○コジハ巾子ト書也上ヘ立者也カミヲ入レル為ニシタル者也）

【五三オ】

ビンヲミトツ、メテ云ナリ唐子（カラユ）ワゲノ事也両方ノヒタイロヲ丸ウナカケケ透ニシテユイテアル也元結マゲタ様ニシテユイアルヲビンヅラト云也ソレ略シテミヅラナリカホノ句ハカホノボヤリトシテウルヲイアル事也サマ―ヨウスカヘ元服スル也ビンヅラ取テノケ元服スル事也大藏卿―元服ヲヤハ引入大臣（ヒキイレノヲト）左大臣也葵上（アホイノウヘ）ノヲヤ也大藏卿クラ人ツカウマツルトハ理髮（チハチ）ノ役人ト云テ彼カラコワゲニ結タ髪引ノバセバ女ノ髪ノ様也児（コ）ドモノ時カラ髪キル事ナイ也元服ノ時髪短ク切りワゲテユウ様ニセネバナラヌ也髪キル役人ガ大藏卿デ藏人兼帯ノ人也是説々アル事也大藏卿ハ髪キル役人藏人ハソノ道具モチハコブト云又一説ハ藏人ソレナレドモ故障アツテ大藏卿勤ト云ドモソウデナイ也ヤハリ大藏卿テ藏人兼帯ノ人ガチハツヲ勤ト云ガ常流ナリト―イトキヨラナル児ドモノ様ナ髪ヲソグハサキ切ル事也天子ノソレ

（○私考曰ミツラハ童形ノ髪ノユヒヤウ也幼主東宮ハ上鬢（アゲビン）ツラ人臣ノ童殿上ハ下（サケ）ビンツラノ由或記ニ見ユ）

（○又曰ヒキ入ノ大臣トハ加冠ノ大臣也源氏ノ皇加ニ元服ノ式私考引ニ新儀式ニテ詳也可考）

（○又曰大藏卿藏人トハ藏人ノ頭（トウ）ノ大藏卿ヲ帯シタル也一條院ノ御宇ノ例ニテ此比ノ事ナレハ珍ラシク記サレタル歟大藏卿ノ職掌ニテ御元服ノ事ニアツカルニ非ズ理髮ノ役ハ藏人ノ職ニテツカフマツル也）

## 【五三ウ】

御ラウズルニヲ心クルシイ也上へハ―天子ノソレヲ見御息処生テアツテ是ヲ見バータへ難ハコタヘラレヌ也御息処ノ事モ是切也コレヨリサキニ一処カフルモフ先へ出ヌ也御息処ノ事書モ源氏ノ事書ン為也ソレヲ御息処ノ事長々ト書バ御息処ノ物語ニナルソフデナイ也心―心ヲ強フヲ持ナサル、也ネンジハカンニンスル事也伊物ニネンジワビテニヤアリケントアルコレニモ堪忍ノ事ネンジノトアル堪(タヘ)ガタイ悲ミ◇(アル)ヲカン忍シテ也カウフリ―コ、ガチト聞エニクイ事アル也カウフリシートアリ元服ハ御前デスル事也髪ソグハ御前也時ニ冠ハ御前デキラレヌ也カウフリシ給テ御息処にまかて給てとアレバ冠召シテ引込様ナレドモ御前デ冠キラレヌ子細アル也髪ソグ時ハ白イ箱ヲ柳箱(ヤナイバ)ト云モノ●(三)居(ス)へ出ス髪ヲソコニ置バ見苦イ故ニソレニ入レテ源氏ハ左ノ手ニ頭ノ髪ヲ持入テソフシテソコデ髪ユイ装束シテ出也御ゾハセウゾク也冠バカリ著テ殿

〔○〕廿七丁ウ抄頭西宮抄ハ西宮記ト同コト也西宮左大臣ノ作禁中ノ作法ヲ書モノデイラヌ者也北山抄ハ大納言公任ノ作ナリ江(一)家次第ト三部大ガイ似タ者也チトヅ、グアイ立ノ違アル也西抄北抄抄ニナシ江次第ハ抄ニアアルリ〕

〔○〕柳箱トカケドモハコニ非スフチモ無臺ナリ〕

〔○〕平生ノ者ノ前デサヘセウ束セズ況天子ノ前デナラヌ也此カウフリハ髪ヲソヅ(イ)ダルクト也其証拠ニハ源氏カミヲ持ハ入也バラノシタカミ故持テユカネハ見トムナイ也〕

## 【五四オ】

上ノ間カラ息ミ処へ往ニ非也コ、ノ冠シ給テハ髪ソグ元服ノ義式スミテト見

ユソフナケレバ御息処ニマカデ給テカウフリシ給テト隔句顛倒ニモ見ン敷也

ソレハムツカシイ也カウフリシ給テハカウムリノ義式シ玉フテ也御息処ハ下―侍(シタサムライ)也一セノ源氏ノ作法也諸大夫ノ間トモ云ソコヤスミ処トシテソコデカミ結也冠キルガサキ也偕ハカマ著テ上(ウヘ)ノ衣(キヌ)キル也御ゾ奉―童形ノ時ハ闕腋(ケツテキ)トテ脇ノアクヲキル元服スルト縫腋トテ脇ヲヌフヲキル闕腋ハ兒トモキル也平生ハキヌモノ也奉ルトハ貴人ノキルヲ奉ルノト云ナゼナレバ天子デモ親王宮ノ召ハ下ヨリ持テ往テキセル故召事ヲ奉ルト云也オリテ―是ハ此タビ元服被仰付アリ難ト云ヲ禮ノ拜ト我祝ノ拜ト一同也拜賀(一)トモ拜舞トモ云也拜ハヲ禮ニ拜ス賀ハ我祝也拜舞トテマウ也仕舞ニアル通手ヲ左ヘヤリヌ右ヘヤリヌ左ヘヤル立テ三タビ居テ三

〔○〕闕腋ハ兒トモノミナラス大人モキル也兒ドモノキルハフリ袖ノ心ニテキル也〕

〔○〕私考曰御息ミ処ハ加冠理髮事終テ冠者ノ入玉フ御休所也御衣奉更トハ童形装束赤色ノ闕腋(ケツテキ)ノ袍ナルヲ男装束ノ縫腋ノ袍ニ更給ふ也源氏ノ君ハ此時無位ナレハ黄衣ナラン敷黄衣又浅黄ともいへり続日本紀元明天皇和銅五年ノ勅ヨリ無位ノ朝服黄袍ナリ〕

## 【五四ウ】

タビ也立テノ時ニ足ヲハネル六ヶ敷義式アル者也懃(ソウ)シテ拜スルヲ拜舞ト云也舞アレハ踏(フム)也手ノ舞足ノ踏也皆人―コレハ源氏ヲアハレミ云ト云ドモアシイ也兄ゴハ堂上デ拜スル親王一世ノ源氏ハ白砂(シラス)ヘヲリ拜スル東宮ナレバ堂上デ拜センニト人皆涙オトスト云ソレハアシイ也是ハ其アイラシイ容儀身振ノシヲラシイヲ見テ涙オトスト也帝(ミカド)モア

イラシイ処ヲ涙オトス也義式ノバ故涙忍ベドモ感涙エ忍バヌ也ヲホシ一カノ  
 近比デハ藤壺ノ女御ヲ上リ故ソレデヲマギレ被成時モアルニ昔一又源氏ノ御  
 元服アイラシイヲ見玉テ昔ノ事思召出也いかう一カウハカクノ如也キビハ  
 ナルハ御幼少ナ事也ヲ年ユカヌヒハズナ事ヲ云也今日モヒハズナト云也キハ  
 黄(キ)色ナリ草生ズルモ初ハキ色也土ノ色サイ初ノ色也人モ幼少ナシブ  
 ハソレニ準シテキナト云ソレカツテ云也黄(キ)ニシテヒハノスト云心ヲ  
 俗ニヒハズト云ト同コト也

〔○又曰サフラヒトハコノニイヘルハ殿上ノ事ヲいへり〕

〔○又曰舞踏ハ庭上ニテノ事ナリ先再拜次ニ笏ヲ地ニ置テ起テ左|右|左|居テ  
 左|右|左|フシマロフヤウニシタマヘリ或秘記舞踏ハ刷<sup>ハ</sup>ニ衣裳平<sup>ニ</sup>緒等<sup>ヲ</sup>正<sup>シテ</sup>レ笏  
 先ニ拜次置<sup>レ</sup>笏<sup>ヲ</sup>於地<sup>ニ</sup>起<sup>テ</sup>左|右|左|次<sup>ニ</sup>居<sup>テ</sup>左|右|左|次<sup>ニ</sup>取<sup>テ</sup>レ笏<sup>ヲ</sup>一揖<sup>ニ</sup>次<sup>ニ</sup>起<sup>テ</sup>二拜  
 云云〕

【五五オ】

ホドハ時ハ也ウツクシイヲ子ナルニ元服セバアゲヲトリハカミアゲル故冠シ  
 タニハ頂(イタ、キ)へ持上ゲル故アゲヲトリセンカト天子ノソフ思召ニア  
 サードウモイヘンウツクシイ也浅マシノ詞ヲモノ、アハレナ事ニ云ドモコレ  
 ヲ見ヨ源氏ニハサマノニ遣テアル也アハレナ事ニモ云也本ノ訓ハアサイ也  
 元服カタマラヌ故浅イ様也アイラシウテウツクシイノ心ヲアサマシト云也引  
 入レノ一カノ元服親ノヲト也當官( )左大臣デ職ハ関白殿也ミコバ<sup>ラ</sup>ト  
 ハ此左大臣殿ハ當代ノ桐壺ノ帝同腹ノ妹宮ノムコ也スレバ桐壺ノ帝ノ姪(メ  
 イ)也左大臣殿ノ女メゴ也即葵上也東宮ハ源氏ノ兄ゴデ追付位ニ備(即(ツ))  
 カレル方カラ御一入内<sup>ニ</sup>也(シテ)タモレト云気色也オホシ一左大臣殿ノ思  
 案也兄ゴハ天子ノ下色故迎セタイハ山々ナレドモ源氏ウツクシイ故源氏ニ迎

ゼタイ也内ニモ一左大臣殿ノ方カラ天子へ伺キミ也源氏ヲ此方へ下

【五五ウ】

ザル也如何センヤ源氏へ迎セタイガ也天子ノ御返答ニソウアラバ此時節ニ未  
 源氏ニ云名付モナヒ程ニ也後口見ハ北方ヲ云箒木ノ巻ニモアルソヒブシハ源  
 氏ニソフテ伏(フス)也モヨホサセ給ハ御催促也コチカラ何故却テモヨホサ  
 ス也サオホシハ左大臣ノソフ思召也然ハ左様セント思也サフラヒ一公卿(ク  
 ゲフ)ノ間アルソノ次ニ四位五位ノ殿上人ヲル処ヲサフラヒノ間ト云其人ノ  
 ヲル処故侍(サフラヒ)ト云コノ次ヲ諸大夫ノ間ト云シモサムラヒ也諸大夫  
 ヲル処也オホミキハ酒ノ事也オホトアルカ日(三)本記ニモ続(シヨク)日  
 (三)本記ニモオホミキニハ大ノ字ソヘアル也大ノ字ト御ノ字アル天子ヨリ  
 下サル故ニ大ノ字ソフ敷伊物ニ宮親王方ノ事デモオホミキトアル其時ハ大ノ  
 字イラヌ者カ也ミコタチノ一テンゼウノ間デ酒宴ス時ニミコトハ親王ヲミコ  
 ト訓ス其末坐へ源氏ツク也是ハ源氏ノ弟ゴモアルベキ也親王宣下アルハ親王  
 也源氏ハ源氏ニナル

〔○私考曰ミキ和訓説々多シ酒ヲイククスリトモイフナレハ御一氣(ミイキ)  
 ノ略<sup>キ</sup>訓ニヤ活(イク)生(イク)氣(イキ)息(イキ)皆通ス〕

【五六オ】

弟ゴニ親王アツテモ其末坐ニ即ネバナラヌ也本ヨリ源氏ニナレバ臣下也而モ  
 無官也是ヨリ上ニ大臣ノウゴンノ宰相ノト云公卿アル故スグニ親王ノ末ニ即  
 事ナラネドモ今日ハ元服シテ人ゴメン故各別ニ即也オト、一顔付デシラス也  
 手前ノ婿ニシタ程ニ今晩ヨリ手前へ御同道センノ心也モノ、一御幼少也前後  
 ワカラヌ時也婿様ト云ハ愧カシイ也返答モロクニセヌ也是ハ親王達(ミコタ

チ)ノ末座ニ即ヲ大臣ノケシキバムト云トイヘドモ是ハ西宮記ニ委シ抄ニモアル別勅アルコト也是ハヤハリ聳コシタト云ケシキバム也内侍ハ女官也是三通アル内侍ノカミ内侍ノスケ内侍ノセウト三通アル者也唯内侍ノト云ハ内侍ノセウナリ内侍ノスケハ内侍ノスケトアル也内侍ト云女官天子ノ宣旨ヲ承ルナリ女中直ニ出ラレヌ故藏人トテ天子ノヲ側ニヲル人アルソレニ傳也左大臣殿御前へ召ト被仰也初ニサフラヒニマカテ給テ人々オホ

〔○私考曰内侍宣旨ウケ玉ハリトハ引入ノ人ニ祿給ハラント召スセンジ承ルナリ宣旨和訓ミコトノリトヨメリ侍中群要曰理髪加冠畢親王退下改ニ装束ニ引入理髪者下ニ後内侍於ニ侍ノ東ノ戸ノ下(モト)ニ召ス引入ノ人ニ進候ニ孫廂ニ女藏人取レ祿賜之舞踏自ニ仙華門ニ罷出〕

## 【五六ウ】

ミキナドマイルトアル此時ハ天子モヲ出ナサレトモニゴ酒御迎ナサル作法也是ハ内侍力宣旨承リ左大臣ヲ御前へ召スコト也是ヲ大臣召ス時ハ平生入御殿へ引込ソコデ各別ニ召スト見ル也ソレヲ内侍宣旨ト云ト云説アレドモアシイ也内侍宣旨トツゞケレバ内侍ハ藏人ニナル内侍ハウチニサムラウトヨム唐(カラ)テハ男子也日本ハ婦人ノ事ニ云也内侍ヲ藏人ノカラ名ニシテ藏人宣旨ト云事アル藏人宣旨ヲ承リ佛(来(ク)ル)ト云トモソレハアシイ也内侍ガ宣旨ヲ承テクル也御ロクノモノ一作法ニテ元服ノ時ニハ其日ノ祝義ニカミカラ引入レノ大臣ニ事(モノ)被下事也命婦ノキハ先日云也ウヘハ内命婦外(ゲ)命婦ノコト也ウヘトハウヘニ常住ヲル女中也是モ直(スグ)ニ非藏人取次事也カミノ仰(ヲ、セ)承ハ命婦ナレドモ渡スハ藏人也白キオホウチキトハキヌノ様也ヒロ袖也袍(ハウ)ノ下ニキルモノ也ウチキニ三通アルオホウチキ小ウチキト

〔○又曰ウヘノ命婦トハ内命婦也又殿上ノ命婦トモ云〕  
〔○又曰大ウチキトハ祿ノ衣ノ別名也其體大ナルベシ御衣(ソ)トハ上ノ御服也各引入ノ人ニタマハル祿也引入ノ人大臣ナレハ白一椽(ツルハミ)ノ表(ウヘ)ノ御衣(ランキヌ)ヲ加ヘテタマハルト也〕

## 【五七オ】

云アル小ウチキハ女キル也大ウチキハ男ノキル也色ハサマノアル是ハ白キ色ノウチキト見スウハキモカラキヌヲソヘ被下也モトカラキヌト袴(ハカマ)ト一処ニ被下ヒトクダリト云ハナンデモ連属シタ者也凡セウソクハ上着(ウハギ)ヲキ袴(ハカマ)ヲ着其上ヘモカラキヌキル者也是皆被下也親王元服ニモ一セノ源氏ニモ被下事也「イトキナキ」御前デ縁被下序ニヲ哥被下也イトキナキハイトケナキ也カキクケコト通故イトケナキ也初元結トハ今日元服シテ初テユフ元結ヲハツ元結ト云也随分コキ紫ノ組デ結也官ヨウナリ年行程ウスウスル也平生ハ今見ルニヨツタ緒デクルノト引卷コト也長一元結ノ縁デ云也契一ハ源氏ノ奥方ニ葵上ヲ進ゼラレル其心持ナサレタカ也ムスフ(モ)長ト同シ元結ノ縁也問カケル体也御一天子ニハ葵ノ上ノ事フクミテ其事(オ)トロカシテ合点サス心也

〔○廿九丁ヲ抄イトケト書モイトキトヨムト抄ノ説ヨシケモキモ同シ者也〕  
〔○緒ハ紙ヲ用敷アサヲ敷曰アサヲ也是カムリシタノコト也カムリキヌ時ハ今ノ白キ元結ナリ〕

## 【五七ウ】

「結ツル」結ツルハ元結ノ縁也フカキハフカキコキ紫也カミユウ者故元結也コキ紫ハモトヨリ元結ノ色ナレドモコキ紫デ初元服(ノコト故)源氏ノ事

云也シハ助字也アセスハ色カハル事ヲアセルト云也河カレルヲ河アセルト云也セトサト通也川浅フナル也コキ紫モ白フ黄ニ浅フナル也アサビル也源氏ノヲ心サヘカハラズバ此方ノ女ハ指上也此方ノ心ハト心アマル哥也長ハシハキザハシ也清凉殿ノ東ノ方カラ南ヘヌケル廊下ソレヲ長橋ト云也◇(此処ニキザハシアリ)ソレカラ東ノ庭ヘヨリル処ニ謹(ミチ)アルソレヲ云也按花鳥ノ説抄ニ引アハセ見ヨ先ニ云通左右立テ三返居テ云返難有ト礼スル也是禄ノヲ禮也左ノ右馬寮左馬寮ハニホン国ノ牧ヨリ献上スル馬アリ馬ノカミ馬ノ助アリ左馬ノカミノ役人ツイテアルソコニアル馬ヲ進ゼラル、也藏人処ト云ハ先ノ侍(サムライ)所ノ次ノ源氏ノ休(ヤス)ミ処ニシテ諸大夫ノ間也ソコヲ廣フ

○私考曰左ノツカサノ御馬トハ左馬寮ノ御馬ノコト也引入ノ人左大臣ナレハ左馬寮ノ御馬ヲ給リ右大臣ナレハ右馬寮ノ御馬ヲ賜ル也左右馬寮ノ馬ハ諸国ノ御牧ヨリ毎年引ノホス也是ヲ駒牽トイフ

○又曰藏人所ハ校書殿ニアリ藏人ハ殿上ノコトヲ掌ル職也藏人ノ事私考ニ詳也鷹ハ仁徳天皇ニ始ル令ニハ主鷹司アリ嵯峨弘仁十一年以来藏人所ニ宛送り玉ヘリ故藏人所ノ鷹ト云也正之

○哥ノ終ニト、アルハドコデモトノジニ心アマル也

○私考曰長ハシハ長橋ナリ河海ニ長階ト注セラレシハ誤ナルヘシ唐書ニ内侍省ヲ長階トスト記タレハ勾當ノ内侍ヲ長階ト記テハ相叶ヘキ歟江次第曰使、将下レ自ニ長橋ニ拜舞

### 【五八オ】

鷹部屋ニシテ諸国ヨリ上ル鷹ヲソコニカフ也是ハ一世ノ源氏ニハナヒコト也限アル事ニコトヲソヘラレタ故鷹ヤ馬被下也ミハシノミハシトハ清凉殿ノ

左大臣ノ舞踏シニヨリル処ナリミコトハ親王ナリカシメハクゲウ也ソノ元ヘソシノ処ドレニハ何タレニハ何ト上ヨリ被下也官位ニ高下アル故禄モシナノナリ其日ノ一是ハミコ達カン達メカラ元服人ヘ進ゼラル其ヲ前ニ並也オリヒツハザツトシタ折(ヨリ)也コレヲ折ビツト云也コ物ハ籠デアゲルモノ也今云ヒゲコノ様也ナカニ紙敷テ菓(クダモノ)ヲ入ルケン上モノト云コンケン通スコン上モノト云カラカコヨイ也ヨリト云カラツバケカコナリケン上モノト云ハニヲ一ツニ云也ヨリモカゴモケン上モノ也折ト云下ニコモノヲケン上モノト云ハアシイ也ヒツクルメ云ハコンモツナレトモワケレバ折トカゴト也右大弁ミコ達カシタチ

○廿九丁ウおりびつハ折タ櫃(ヒツ)也今看一折ト云如何曰堂上ニハサイタル臺ハ喜鯛拾枚折入中ハ一枚也ヒツノ意ナリソレ略シテ臺籠(カゴ)トナルナランオリウツトヨミ五音通也曰コ、ラハ堅横ノ外スチガイ●テモ通スルナリオリビツトヨムモ賤ニハ非ズ古来ヨリノヨミクセナリ

○おりひづトヨムヤ抄ニハウツトアリ如何曰抄ヨシ

○正之按此説ハ河海ニコモノヲ献物也ト云ヲ弁ズル也

### 【五八ウ】

メヨリ進上者アルガ右大弁ハ前ノコマフ人前ヘツレ往人デモアラン是ガ承テケン上モノヲサバク役義ヲ勤也脇カラケン上スレバ面々手ニ持テ庭上ニ立トアル其時大臣タレノト云ハ藏人出テソシノ処タレノト披露スル也ソレヲ聞喜也カシハ手(ニ)ニワタセトアル膳部ノ役也其ギヨイ承ト大膳ノ方ヨリ出テソレ請取イツモノ作法也トシギキ一是カラ以下(イゲ)ハ元服シタ人ノ方ヨリコシラヘ出ス者也トシ食ハコハ飯(メシ)也コハメシヲムシテ鳥(トリ)ノ子(コ)トテ長ナクニシタ米ナレバ五合モアル程ナル握飯(ニギリイ

、)也コハメシノニギリイ、也軽イ役処ノ御饗応ノユキ届(ト、カ)又処々被<sub>レ</sub>下モノヲトシ食ト云トリノコトモ云也ロクノ一ハ御子達カン達メニ禄被<sub>レ</sub>下ハ天子カラ被<sub>レ</sub>下也ハ源氏ノ元服シタ人ノ方カラソレヨリ下ノユキ届又人々へ遣ス也モ東宮ニアルコト也一世ノ

(○柏手トハ凡膳部ノ者ヲ云也ハ料理者也外ノ物者ケンフハ縫寮或ハ藏リヤウウケトル也)

(○カラヒツハヨミ如何ビツト濁ヤ曰カラヒツ也)

### 【五九オ】

源氏ニナヒ事ナレドモ是モ限リアル事ニコトヲソヘテ云也源氏ニ遣ス物ハモトヨリナイ也天子ヨリコレヲ進ゼラル、也春宮―ソレヨリ禄ガ多カツタ也ナカ―ハテシナフイカメシウハゲウサンナ事也イカツナ事也カサ高(ダカ)ナ事也其夜左大臣ノ里へ賀入シ源氏ハ葵ノ上ノモトヘイテアル也堂上方ノ古へノ婚礼ハ部屋ズミニハシウトノ方ニナル也我一切ノ身ノマワリ装束カミヘノツケ届ハ皆シウトノ方ヨリシテアル也我ヨニナレバツレ立イヌルトシタ者也ソレ故源氏ムコ入シテモ部屋へ入ル也コン夜ノ婚礼ノサ法イツキカシツク也モテハイノ字也助字也モツテ也キビハハ御幼少デ賀入シテクルヲ云也ユ、シウハ先日アルハイマ―シイ也ハユヘ―シイ也イミジイノユ、シイノアサマシイノト云ハ源氏ハ処ニヨリ用力へアル也

(○私考曰トシキハ屯\*食也和訓ミヤケトヨメリ下ツカタへ給ル食也ハ春宮元服ノ儀式ニアリテ源氏ノ皇子ノ元服ニハ無事也例ノ一躰ナルヘシ)

(○又曰大臣ノ里ニ源氏マカテサセ玉フハ是ヲ執簪(ムコトリ)ト云今ノ世ニミス入トイフ是也先姫君ノ方へ賀入セ玉フ事也但異邦親迎ノ作法トハコ

トナリ江次第ニ執簪事ト云篇アリ作法詳ナリ)

### 【五九ウ】

女君ハ―女君ハ即葵ノ上左大臣ノ女也源氏ハ十二也葵上ハ四ノトシ姉<sub>レ</sub>ヤ(ジヤ)ト云事紅葉賀ニ見ユ此ニハスコシトアル四ノアネ也葵上ハ十六歳也源氏ハ十二歳也ニゲ―葵上ノ心ニワレハ十六也源氏ハ十二ナレバワレハ年アネト云テ恥カシク思也一生コレナリ年姉ト云テ恥カシク思コレ源氏ノ心ニ叶ヌ也ソレ故ナカヨフナイ也コノヲト、ハ源氏ノシウト也天子ノ思召入レイト止コトナクモトヨリ撰家デ高ケ也時ノ関白也母ハ葵上ノ母左大臣ノ北ノマン処也内ノトハ天子同腹ノヲ后バラ也御兄弟也イツ方―関白ニツケテモ撰家也時ノ関白也北ノマン処ハ天子ノヲ妹故モノハツキリトシテキラアツテ見エ也此君サヘ―二重ナル上ニ源氏ノ君サヘムコ入シテクレバ也春宮―是ハ源氏ノアニゴノ東宮追付位ニツク

### 【六〇オ】

人ノ祖父(ジイ)也東宮位ニ即ハ御外戚ハ撰政関白ニナルハ常ノコト也威勢アルコト也右大臣ハソレ程ノイセイアルニ也右大臣ハ弘キ殿ノヲヤ也ソレ程ノ右大臣モ物ノカズニ非スオサレタ也御―是ハ葵上ノ父ゴ左大臣ノコト也宮腹バカリニ非ス妾腹アル十一人アル也モノモ上(カミ)ウクル詞也彼宮ノウムハ藏人ノ少将也撰家モ五位カラ上ル此藏人ノ少将ハ五位也童躰侍従トテ五位ニテ侍従也五位デ少将也簪木ノ卷ニテ中將ニナル故頭ノ中將トアル也カノ葵上ノ兄ゴハ源氏ヨリリトアニナレドモマダワカイ也右大臣ハ東宮ノジサマ也モトヨリ威勢争デナカアシイ也右大臣左大臣両勇相争也ナカアシケレドモトヨリ左大臣モ天子ノヲイゴ也ワレト同タイ故相賀ナリエミスクシ―藏人ノ少将ヲサシハナシテ他人ノ賀ニハエ

（○私考曰藏人ノ少將トハ少將ノ人藏人ニ補シタルヲ云其少將ハ近衛府ノ次官也故次將トモ云天子ヲ近ク聞ル武職ナル故帶劔ノ官也執柄ノ息藏人ノ少將ヲ帶セラル、由見ユ執柄ノ息ナラヌモ例アリ）

（○撰家ノ子モ五位ヨリ上ル五位ヨリ侍從也童躰侍從ハ撰家ノミ也侍從ヨリ少將ニナル也清華羽林トモコレ也名家ハカウナラス）

## 【六〇ウ】

セヌ也四ノ君―右大臣ノイツキカシヅク奔走ノ第四バンノ姫君ニメアハス也左大臣デ源氏ヲカシヅク様ニ葵上ノ兄ノ藏人ノ少將ヲ聳ニ取ヲトラズスル也アラマホシキハソウアルベキ也トモハ左大臣ノ源氏ヲ聳ニシ右大臣ノ少將ヲムコニスルアハイドモ也ドモハ両方ヘカ、ル也源氏ノ君ハ―天子ノヲ機ニ入り故ヲヒザモト去ラズ内ズミシテゼウシウアル也葵上ノ方ヘモエユカ又也心―モトヨリ天子ノ召シマツハル故里ヘエユカヌヲ苦ニセンハ心ノ中ニマ、母ノ藤壺ヘ志移ヲドフモナラヌ也アノ様ナ人デコソ見テ妻ニシタシニルモノ―外ニアノ人ニ似タ者ナイ也オホイトノ、―葵上也オホイトノハ大臣殿ノ事ヲ云也唯トノトモ云也禁中デモトノ、ト云オホイトノヲ称美シテ大臣ノ事ヲオホイトノト云オホイトノトモ云也唯トノトモ云也葵上ハ左大臣ノ宮バラ也トオカシゲニハホメル也イツキカシヅク人ト見エレトモ源氏ノ心ニ付ヌ也オサナキ程―源氏ノオ

## 【六一オ】

サナヒ程ノ唯グハンゼナフ思也大人ナレバ思ヒ秘シテアレドモオサナヒ故ニ唯思也是モ隔句ハ唯藤壺ノミアリサマヲタグイナク思ヒ玉ヒテヲサナキ心ニカ、リテトユク也オホイトノ、君―覺エ給ふテオサナキ程ノ―トハツバカヌ

也葵上ノ事ハルウ思テ居（ヲツ）テヒトヘ心ニカ、ルト聞エル様也オトナニ―先源氏十二デ元服スル時ニ此次ノ箒木ノ卷カ十六歳ノ事カラ書十三十四十五三年ノ事見エヌ也此ニオトナニナリ玉テト云ニ三四五コメル也人ノ傳記書ニ事アルコトアリ無事アル大事アルハ記也三四五ハ事ナヒ故記サヌ也ソウタイアチノ史記ミナソレ也アリシヤウニ―初メ御幼少ノ時藤壺ノゴ処ヘモ菴（ツレ）ラレテミスノ中ヘ入レル也アリシ様ハ昔シアリシ様テ也入レ玉ハスハアチカラ入レヌ也御遊ハクハゲン也源氏ガ笛吹ハアチニハ琴ヒク様ニ調子カヨウ也アチノコチヘ聞コチノアチヘ聞也藤壺ノモノ云モキ帳ゴシニ聞ハスレドモソレハホノカ也ミ聲聞ヲ以心ナグサメ

## 【六一ウ】

ゼウシウ内裏ニヲリタイ也五六日―禁中ニハ五六日居玉ヒテ左大臣ノ方ニハ二三日居テタエ、ハタエタリタエナシタリノキミテイタリイキヤンダリ也今ハ御幼少ナ故ト父大臣殿ユルス也随分ケイエイシタホソウ也御かた、―葵上ノ御居間ニ遣人源氏ノヘヤニ遣人故カタ、ト云源氏ノ居ル処故ジヨノナカデヲシナベタニ非ススクレタヲエリト、ノヘテ葵上モ遣源氏モ遣也御心につく―源氏ノヲ心ニ叶遊スル也オホナ、ハ註ニ見エル通念比也伊勢ニハアフナ、ト書字違ドモ五音通ス後水尾院ニアフナ、ハ念比ナ事トアソバニアブナ、ト點サシアルモアルアブナ、ノ訓ノヲコリソウ也モノ大事ニスルキミアル故アブナイ也モノ念入レ大事ニスル心也イタヅクハ苦勞シテゴ奉公スル左大臣ノコト也

（伊物ニハアフナ、ト書訓ノ意シラス伊物後水説如何抄不見師説ニ聞也）

## 【六二〇】

内には―内ハ禁中也源氏ノヲトノキ処ノ部屋也モトノ―ハ母更衣ノヲル桐壺也訓ヲ云バキリツボ也モンジテ云ハシゲイシヤ也假名物故シゲイサト云也コレヲ御ヘヤニシテ母御息所ニ付テアル女中トモ一人モイトマ遣サレズ源氏ニツカハス也里ノ殿ハ―源氏ノ里ノトノハ更衣ノ里也スリシキハ禁裏ノ御殿ノ御普請スル役人也内匠(タクミ)ハ其下也禁中ノ小材工(コザイク)スルガ内匠也大事ハシユリシキスル細工ハ内匠スル也天子ノ御殿ノ様ニスル也二ナウ―二ツトモナヒ様ニ下地實上(ウヘ)ヲ改メ作也モトノ木立―モトヨリモ面白処也山―皆ヨイ処也テンドウ也二ナウ改作ラセ給ふモトノトツ、カヌ也モトノ木立山ノタ、ズマヒ面白処ナルヲになう改作ラセ給ふトツ、ク也本ヨリヨイ処ヲ二ナウ立ハニスル也偕池―池ノ心ヲト云テ池ノ底也

(○私考曰修理◇(和名抄ヲサメツクルツカサ)職ハ元造宮職ト云桓武延暦廿五年二月此職ヲ止メ木工寮ニアハサシム其後嵯峨弘仁九年七月修理職ヲ置レテ官位相當廢セル造宮職ニ准セラレ)

(○里ノトノトヨムヤ曰然リスリシキ内匠ツカサハ二処也スリガヲモ也内匠ハシタナ者也)

(○私考曰タクミツカサ二説アリ一説ハ則内匠寮ナリト一説ハ木工寮ノ和訓タクミノツカサトイフニヨレリト按内匠寮ハ殿舎ヲ作ルコトニアツカラスサレハ木工寮ノ和訓ヲイフナルヤ)

## 【六二一】

池ノマン中ト云説アルソレニ非ス池ノウチト云事也池ノ心ノ字ハ白氏文集ニアル池心ヲイケノソコトヨムモアルアシイ也イケノナカ也ソコト云マンナカト云テハヒロクガスマヌ也ノ、シルハスリシキノサマ、声ヲ立テ作りナス

也カ、ル処―カ、ル結構ニアル処又我自由ナル処ニ也藤壺ニ心アル故ニソレヲ云也ゼウジウ思フ様ニ云也ナゲカシウハ嗟嘆ガチニアル也此デ桐壺卷ハスム也光君―是ハ地ノ詞也名ノ事ヲ作者云也光君ト云ハ高ライカラクル相人ノ容儀ニメデ聞テ也コノ聞ハ助字ノ聞テ也是モ註ニ見ユル通三重ニ書我直(ジキ)ニ知ルハ付奉リケルト云也ソレヲ付ケ奉リケルトト云ハ二重也云傳ヘタルトナント云デ三重也源氏ノソウアルヲ我カ、ヌ様ニ云也五十ヨ帖トモ二人ノカク様ニサマ、カヘテ書テアル也

## 【六三〇】

○积家官班記那和先生曰余嘗写之他日可借与

○哥仙傳ト云アリ

○定家大和物語勸物百人一首僧正遍昭ノ哥ニ引用今アリヤ曰大和物語ニハ素本(ソボン)ニモ付テアル者也

○ニホヒト云ハボヤリトシタコトヲ云也

○問湖月抄ニアツシクヲアツトヨム点アリ如何曰ヨミクセニサヨムナランサレトモ悪シアツトスミテヨムベシ

○ナカ、ハ結句ト云一ツ又物ノ的中スル事ヲモ云ヤ曰ソレハ俗也謠(ウタイ)ニナカ、ノ事ト云アリ俗也慥ナル書ニアルハ皆ケツク也

○ハシタナメノメ如何曰今日イヤシメルノ苦シメルノ悦バシメルノト云ト同シ形容字歎助字歎曰助字ト云バ働カヌガ先ハテニハ字也形容ハカタドル也コレハ形容ニモ非ズバン、正字タリキヨ、正字タリト云正字是形容ナリ

○曹( )司又曹司( )何レモクルシカラズ先ザウシ好シ

○御息所更衣ニテモ后ニテモ王子誕生スルハ皆此名アリ



【六三ウ】

○オボツカナキハオボツカナ也ツハ助字也キハアラケナキノキト同シアラケ  
ナナレドモナキト云無ニハ非ズキハ皆助字也カスラシテ云コトヲオボメクト  
云也コレヨリ出ル事也無覺束ト書ハ無理也無心元ト云モ同ジ訓ヲ借ル也是モ  
心モトナ也キハ助字也心モトル也ナニ心ナシ心戻レハサヤウ也